



NEC Expressワークステーション
Express5800シリーズ

Express5800/55Xa, Y55Xa メンテナンスガイド

1章 保 守

2章 便利な機能

3章 付 録

本製品のドキュメント

本製品のドキュメントは、次のように、冊子として添付されているもの(📖)、EXPRESSBUILDER 内(🔍)に電子マニュアル(📄)として格納されているものがあります。



スタートアップガイド

本機の開梱から運用までを順を追って説明しています。はじめにこのガイドを参照して、本機の概要を把握してください。



EXPRESSBUILDER



ユーザーズガイド

使用上のご注意

本機を安全に使うための情報について説明しています。**本機を取り扱う前に、必ずお読みください。**

1 章 概要

本機の概要、各部の名称、および機能について説明しています。

2 章 準備

オプションの増設、周辺機器との接続、および適切な設置場所について説明しています。

3 章 セットアップ

システム BIOS の設定と EXPRESSBUILDER の概要について説明しています。

4 章 付録

本機の仕様などを記載しています。



インストレーションガイド (Windows 編)

1 章 Windows のインストール

Windows、ドライバーのインストール、およびインストール時に知っていただきたいことについて説明しています。

2 章 バンドルソフトウェア
のインストール

ESMPRO、Universal RAID Utility など、標準添付されているソフトウェアのインストールについて説明しています。



メンテナンスガイド

1 章 保守

本機の保守とトラブルシューティングについて説明しています。

2 章 便利な機能

便利な機能の紹介、システム BIOS、RAID コンフィグレーションユーティリティー、および EXPRESSBUILDER の詳細について説明しています。

3 章 付録

エラーメッセージ、Windows イベントログ一覧などを記載しています。



その他のドキュメント

ESMPRO、Universal RAID Utility の操作方法など、詳細な情報を提供しています。

目次

本製品のドキュメント	2
目次	3
本書で使う表記	6
本文中の記号	6
「光ディスクドライブ」の表記	6
「リムーバブルメディア」の表記	6
オペレーティングシステムの表記	7
商標	8
本書についての注意、補足	9
最新版	9
I 章 保守	10
1. 譲渡・移動・廃棄	11
1.1 第三者への譲渡	11
1.2 消耗品・本機の廃棄	12
1.3 航空・海上輸送上の注意	12
1.4 移動と保管	13
2. 日常の保守	14
2.1 アップデートの確認・適用	14
2.2 アラートの確認	14
2.3 バックアップ	15
2.4 クリーニング	15
2.4.1 本機のクリーニング	15
2.4.2 キーボードのクリーニング	15
3. ユーザーサポート	16
3.1 製品の保証	16
3.2 保守サービス	17
3.3 修理に出す前に	17
3.4 修理に出すときは	18
3.5 補修用部品	18
3.6 情報サービス	19
4. 障害情報の採取	20
4.1 イベントログの採取	20
4.1.1 Windows 8	20
4.1.2 Windows 7	23
4.2 構成情報の採取	24
4.2.1 Windows 8	24
4.2.2 Windows 7	25
4.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取	25
4.4 メモリダンプの採取	26
5. トラブルシューティング	27
5.1 電源 ON から POST 終了にかけてのトラブル	27
5.2 EXPRESSBUILDER 起動時のトラブル	29
5.3 OS インストール時のトラブル	30
5.4 OS 起動時のトラブル	31




5.5	STOP エラー発生時のトラブル	32
5.6	RAID システム運用時のトラブル	33
5.7	内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル	34
5.8	OS 運用時のトラブル	35
5.9	Windows 上で EXPRESSBUILDER を動作させたときのトラブル	36
5.10	バンドルソフトウェアのトラブル	36
5.11	光ディスクドライブのトラブル	37
5.12	メディア(CD/DVD/BD)の認識に関するトラブル	37
5.13	メディア(CD/DVD/BD)の読み込みに関するトラブル	38
5.14	メディア(CD/DVD/BD)の書き込みに関するトラブル	39
5.15	メディア(CD/DVD/BD)の追記に関するトラブル	40
6.	Windows システムの修復	41
6.1	Windows 8 (64 ビット版)の修復	41
6.2	Windows 8 (32 ビット版)の修復	41
6.3	Windows 7 の修復	42
7.	リセットとクリア	43
7.1	リセット	43
7.2	強制電源 OFF	43
7.3	BIOS 設定のクリア	44
8.	システム診断	46
8.1	システム診断の内容	46
8.2	システム診断の起動と終了	46
9.	オフラインツール	49
9.1	オフラインツールの起動方法	49
9.2	オフラインツールの機能	50
2 章	便利な機能	51
1.	システム BIOS の詳細	52
1.1	SETUP の起動	52
1.2	パラメーターと説明	52
1.2.1	Main メニュー	53
1.2.2	Advanced メニュー	54
1.2.3	Security メニュー	71
1.2.4	System Hardware メニュー	80
1.2.5	Boot メニュー	83
1.2.6	Save & Exit メニュー	85
2.	AMT 設定手順	86
2.1	AMT DISABLE 設定手順	86
2.1.1	BIOS セットアップユーティリティの AMT DISABLE 設定手順	86
2.1.2	ME BIOS Extension メニューの AMT DISABLE 設定手順	86
2.2	AMT ENABLE 設定手順	90
2.2.1	ME BIOS Extension メニューの AMT ENABLE 設定手順	90
2.3	ME BIOS Extension メニュー	93
2.3.1	ME BIOS Extension MAIN メニュー	93
3.	RAID システムのコンフィグレーション	99
3.1	LSI Software RAID Configuration Utility の起動	99
3.1.1	LSI Software RAID Configuration Utility の終了	100
3.2	メニューツリー	101
3.3	LSI Software RAID Configuration Utility 操作手順	103
3.3.1	Configuration の新規作成/追加作成	103
3.3.2	マニュアルリビルド	108
3.3.3	ホットスペアの設定	109
3.3.4	整合性チェック	111
3.3.5	その他	112

3.4 LSI Software RAID Configuration Utility と Universal RAID Utility.....	113
3.5 WebBIOS と Universal RAID Utility	115
4. EXPRESSBUILDER の詳細	117
4.1 EXPRESSBUILDER の使い方	117
4.2 EXPRESSBUILDER のメニュー.....	117
4.3 EXPRESSBUILDER が提供するユーティリティー	119
5. ESMPRO	120
5.1 ESMPRO/ServerAgent(Windows 版)	120
5.2 ESMPRO/ServerManager.....	121
6. Universal RAID Utility	122
6.1 イージーコンフィグレーション機能.....	122
6.2 RAID レベル 6 の論理ドライブの作成	122
7. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS).....	123
8. エクスプレス通報サービス(MG).....	124
3 章 付 録	125
1. POST 中のエラーメッセージ	126
2. Windows イベントログ一覧	130
3. 保守サービス会社一覧.....	140
4. 索 引.....	141

本書で使う表記

本文中の記号

本書では安全にかかわる注意記号のほかに 3 種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味があります。

	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。記載の手順に従わないときは、ハードウェアの故障、データの損失など、 <u>重大な不具合が起きるおそれがあります。</u>
	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。
	知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。

「光ディスクドライブ」の表記

本機は、購入時のオーダーによって以下のいずれかのドライブを装備できます。本書では、これらのドライブを「光ディスクドライブ」と記載しています。

- DVD-ROM ドライブ
- DVD Super MULTI ドライブ
- Blu-ray ディスクドライブ

「リムーバブルメディア」の表記

本書で記載のリムーバブルメディアとは、特に記載のない限り以下の両方を意味します。

- USB メモリ
- Flash FDD

オペレーティングシステムの表記

本書では、Windows オペレーティングシステムを次のように表記します。

本機でサポートしている OS の詳細は、「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1 章(1.2 インストール可能な Windows OS)」を参照してください。

本書の表記	Windows OSの名称
Windows 8	Windows 8 Pro (64ビット版)
	Windows 8 Pro (32ビット版)
Windows 7	Windows 7 Professional (64ビット版)
	Windows 7 Professional (32ビット版)

※ 本書では、特に記載がない限り64ビット版/32ビット版を含みます。

EXPRESSBUILDERでは、次のように表示します。

- Windows 8 (64ビット版) : 「Windows 8 x64」
- Windows 8 (32ビット版) : 「Windows 8 x86」
- Windows 7 (64ビット版) : 「Windows 7 x64」
- Windows 7 (32ビット版) : 「Windows 7 x86」

商 標

EXPRESSBUILDERとESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、MS-DOSは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、XEON、Pentiumは米国Intel Corporationの登録商標です。

ATは米国International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Adaptecとそのロゴは米国Adaptec, Inc.の登録商標です。SCSI*Select*は米国Adaptec, Inc.の商標です。

LSI、LSIロゴのデザインは、米国LSI Corporationの登録商標または商標です。

Adobe、Adobeロゴ、Acrobatは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の登録商標または商標です。

LinuxはLinus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NVIDIA、NVIDIAロゴ、Quadroは、NVIDIA Corporation社の商標または登録商標です。

Symantec Norton Ghost

(c) 1999 Symantec Corporation. All Rights Reserved.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

本書についての注意、補足

1. 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
2. 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
4. 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
5. 運用した結果の影響については、4 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
6. 本書の説明で用いられているサンプル値は、すべて架空のものです。

この説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。

最新版

本書は作成日時点の情報をもとに作られており、画面イメージ、メッセージ、または手順などが実際のものと異なるときがあります。変更されているときは適宜読み替えてください。

また、ユーザズガイドをはじめとするドキュメントは、次の Web サイトから最新版をダウンロードできます。

<http://www.nec.co.jp/>

NEC Express5800 シリーズ Express5800/55Xa, Y55Xa

1

保 守

本機の運用などにおいて、点検、保守、またはトラブルが起きたときの対処について説明します。

1. 譲渡・移動・廃棄

第三者への譲渡、廃棄、移動、および保管について説明しています。

2. 日常の保守

日常使う上で確認しなければならない点、ファイルの管理、およびクリーニングについて説明しています。

3. ユーザーサポート

本製品に関するさまざまなサービスについて説明しています。サービスは、弊社、および弊社が認定した保守サービス会社が提供します。

4. 障害情報の採取

本機が故障したとき、故障の箇所、原因について、情報を採取する方法を説明しています。故障が起きたときに参照してください。

5. トラブルシューティング

故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因とその対処方法について説明しています。

6. Windowsシステムの修復

Windowsを修復させるための手順について説明しています。Windowsが破損したときに参照してください。

7. リセットとクリア

本機のリセットとクリアについて説明しています。本機が動作しなくなったとき、またはBIOSの設定を出荷時に戻すときに参照してください。

8. システム診断

本機のハードウェア診断と接続チェックについて説明しています。

9. オフラインツール

本機を予防保守するツールについて説明しています。

1. 譲渡・移動・廃棄

1.1 第三者への譲渡

本製品、または本製品に添付されているものを第三者に譲渡(または売却)するときは、次の注意を守ってください。

● 本機について

第三者へ譲渡(または売却)するときは、添付されている説明書一式(電子マニュアルも含む)を一緒にお渡しください。

● ハードディスクドライブ内のデータについて

ハードディスクドライブに保存されている大切なデータ(例えば顧客情報や企業の経理情報など)が第三者へ漏洩することのないよう、お客様の責任において確実にデータを消去してください。



データの消去をしないまま、譲渡(または売却)し、大切なデータが漏洩したとき、弊社ではその責任は負いかねます。

「ゴミ箱を空にする」操作や「フォーマット」コマンドによってファイルを消去しても、実際のデータがハードディスクドライブに残っていることがあります。完全に消去されていないデータは、特殊なソフトウェアによって復元されるおそれがあります。



市販のソフトウェア(有償)またはサービス(有償)を利用し、確実にデータを消去することをお勧めします。データ消去についての詳細は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

● バンドルソフトウェアについて

バンドルソフトウェアを第三者に譲渡(売却)するときは、次の注意事項を守ってください。

- 本機とともにお渡しください。
- 添付されたすべてのものを譲渡し、譲渡した側は、それらの複製物を持たないでください。
- 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を守ってください。
- 本機以外の PC にインストールしたソフトウェアは、削除(アンインストール)してください。

1.2 消耗品・本機の廃棄

- 本機、ハードディスクドライブ、オプションボード、バッテリー(電池)などの廃棄については、各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。なお、添付の電源コードにつきましても、他の製品への誤用を防ぐため、本機と一緒に廃棄してください。



- マザーボード上にあるバッテリー(電池)の廃棄(または交換)については、お買い求めの販売店または保守サービス会社までお問い合わせください。
- ハードディスクドライブ、バックアップデータカートリッジ、その他書き込み可能なメディア(CD-R/CD-RW など)に保存されているデータは、第三者によって復元、再生、再利用されないようお客様の責任において確実に消去してから廃棄してください。

- 部品の中には、寿命により交換が必要なものがあります(冷却ファンなど)。安定して稼働させるために、これらの部品を定期的に交換することをお勧めします。交換や寿命については、お買い求めの販売店、または保守サービス会社へお問い合わせください。

1.3 航空・海上輸送上の注意

本機と一部のオプションは、リチウム金属電池またはリチウムイオン電池を使っています。リチウム電池の輸送は、航空・海上輸送規制が適用されます。本機またはオプションを航空機、船舶などで輸送するときは、お買い求めの販売店、または保守サービス会社へお問い合わせください。

1.4 移動と保管

本機を移動・保管するときは次の手順に従ってください。



本機を安全にお使いいただくために、添付のスタートアップガイドおよびユーザーズガイドに記載している「使用上のご注意」を必ずお読みください。「使用上のご注意」では、本機を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。



- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業を行うときはお買い上げの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。
- 本機を保管するときは、保管環境条件(温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%)を守って保管してください。



ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておくことをお勧めします。

1. 光ディスクドライブからメディアを取り出しておきます。
2. 電源を OFF(POWER/SLEEP ランプ消灯)にします。
3. 電源コードをコンセントから抜きます。
4. 接続されているケーブルをすべて取り外します。
5. 傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包します。



本機と内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因になります。移動後や保管後、再び運用するときは、使用環境に十分なじませてからお使いください。



- 輸送後や保管後、本機を再び運用するときは、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。
- システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じるときは、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。

2. 日常の保守

本機を常にベストな状態でお使いになるために、次のように定期的に確認、保守してください。万一、異常が見られたときは、無理な操作をせずに保守サービス会社へ保守を依頼してください。

2.1 アップデートの確認・適用

Express5800 シリーズでは、本機および周辺機器の BIOS、ファームウェア(FW)、ドライバーなどのアップデート情報を弊社 Web サイトに掲載しています。システムの安定稼働のため、常に最新のアップデートを適用することをお勧めいたします。

NEC コーポレートサイト：<http://www.nec.co.jp/>

[サポート・ダウンロード] - [ドライバ・ソフトウェア] - [ワークステーション]

なお、本機の BIOS、FW につきましては、アップデートの検出、ダウンロードおよび適用をサポートする「ExpressUpdate」を提供しています。

ExpressUpdate は、EXPRESSBUILDER に格納されています。

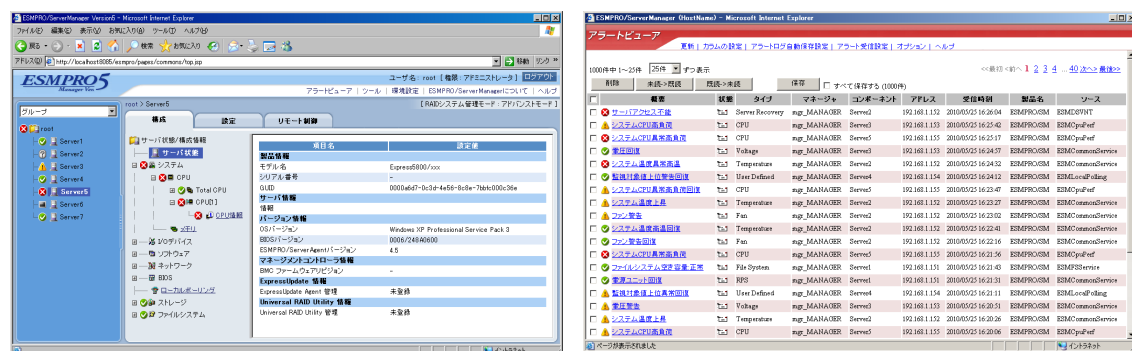


- 最新アップデートのダウンロードおよび適用作業は、お客様自身で実施ください。
- 万一の場合に備えて、アップデート適用前にデータをバックアップすることをお勧めします。

2.2 アラートの確認

ESMPRO/ServerManager (Windows 版)を使い、監視対象装置に異常がないこと、アラートが通報されていないことを常に確認してください。

ESMPRO/ServerManager の画面例



ESMPRO/ServerManager

アラートビュー

2.3 バックアップ

定期的にハードディスクドライブ内のデータをバックアップすることをお勧めします。最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

2.4 クリーニング

本機を良い状態に保つため、定期的にクリーニングしてください。



本機を安全にお使いいただくために、添付のスタートアップガイドおよびユーザーズガイドに記載している「使用上のご注意」を必ずお読みください。「使用上のご注意」では、本機を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。

2.4.1 本機のクリーニング

外観の汚れは、柔らかい乾いた布で拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、コネクタ、および装置内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 電源が OFF (POWER/SLEEP ランプ消灯) になっていることを確認します。
2. 電源コードをコンセントから抜きます。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取ります。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞ります。
5. 汚れた部分は、手順 4. の布で少し強めにこすって取ります。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふきます。
7. 乾いた布でふきます。
8. 乾いた布で側面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取ります。

2.4.2 キーボードのクリーニング

キーボードは、本機と周辺機器を含むシステム全体の電源が OFF (POWER/SLEEP ランプ消灯) になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布でふいてください。

3. ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証とサービスの内容について確認してください。

3.1 製品の保証

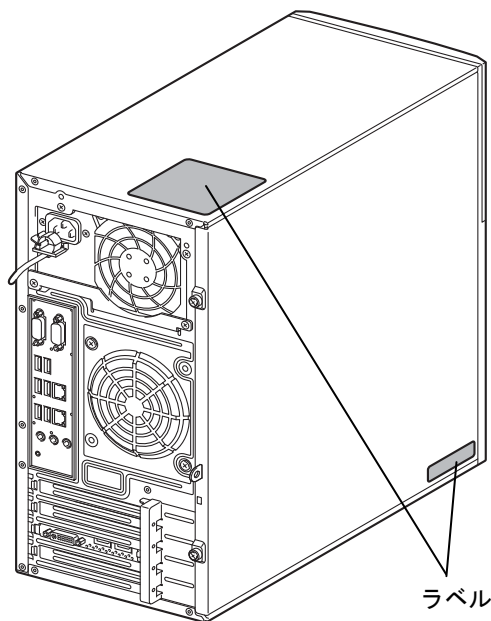
本製品には「保証書」が添付されています。「保証書」は、販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障が起きたときは、「保証書」の内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは「保証書」と本書の「1 章(3.2 保守サービス)」を参照してください。

保証期間後の修理については、お買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。



弊社製以外(サードパーティー)の製品、または弊社が認定していない装置やケーブルを使ったために起きた故障については、無償期間中であっても有償での対応になります。

本機には、製品の製造番号などが記載された銘板や、保守ラベルが貼ってあります。**銘板に記載の製造番号と保証書の番号が一致しているか確認してください。**これらが一致していませんと、保証期間内に故障したときでも保証を受けられないことがあります。万一違うときは、販売店まで連絡してください。



3.2 保守サービス

保守は、弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によって実施され、サービス契約の有無によって、次のような違いがあります。

契約保守サービス	サービスごとに契約していただき、契約期間中は、サービス内容に応じて保守するものです。さまざまな保守サービスメニューを用意しておりますので、弊社営業または販売店へ問い合わせてください。
未契約修理	保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

「契約保守サービス」の詳細は、次のサイトの「有償保証サービス」を参照してください。

<http://support.express.nec.co.jp/workstation/>

3.3 修理に出す前に

「故障かな？」と思ったら、次の確認をしてください。

1. 電源コードおよび他の製品と接続しているケーブルが正しく接続されているか確認します。
2. 本書の「1 章(5. トラブルシューティング)」を参照してください。該当する症状があれば、記載されているように対処してください。
3. ソフトウェアが正しくインストールされているか確認してください。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどでウィルスチェックしてください。

以上の確認をしてもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りの弊社または保守サービス会社まで連絡してください。なお、故障時のランプ表示、画面表示は、修理のときに有用な情報となりますので記録しておいてください。保守サービス会社の連絡先については、本書の「3 章(3. 保守サービス会社一覧)」を参照してください。

なお、保証期間中の修理は、必ず保証書を添えてお申し込みください。



本製品は日本国内仕様のため、弊社の海外拠点で修理することはできません。

3.4 修理に出すときは

修理に出すときは、次のものを用意してください。

- ☐ 保証書
- ☐ ディスプレイに表示されたメッセージのメモ
- ☐ 障害情報

(本書の「1章(4. 障害情報の採取)」に記載している情報などが該当します。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください)

- ☐ 銘板に記載の情報(製品名、型番、製造番号(SERIAL No.))

3.5 補修用部品

本製品の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 5 年です。

3.6 情報サービス

本製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけ間違いが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 03-3455-5800(代表)

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

「エクスプレス通報サービス / エクスプレス通報サービス(HTTPS) / エクスプレス通報サービス(MG)」のお申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけ間違いが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター

TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

インターネットでも情報を提供しています。

[NEC コーポレートサイト]

<http://www.nec.co.jp/>

製品情報やサポート情報など、本製品に関する最新情報を掲載しています。

[NEC フィールディング]

<http://www.fielding.co.jp/>

メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。

4. 障害情報の採取

本機が故障したとき、次のような方法で障害情報を採取することができます。

以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。



故障が起きた後に再起動すると仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、障害情報が正しく保存できないことがあります。

4.1 イベントログの採取

本機に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。



STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

4.1.1 Windows 8

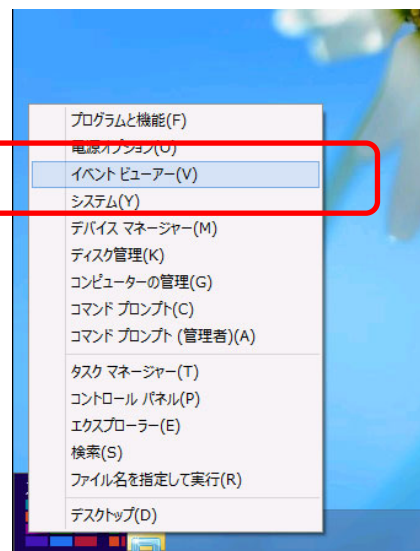
1. チャームから[設定]をクリックします。

(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[イベントビューアー]をクリックすると手順 5 の画面が表示されます)

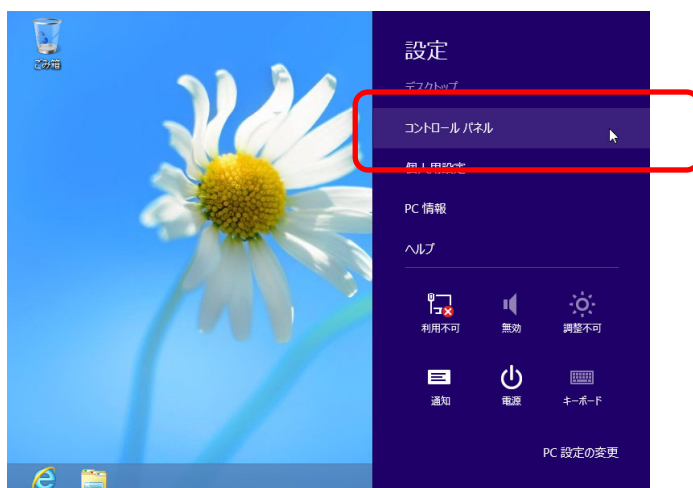
【[設定]選択画面】



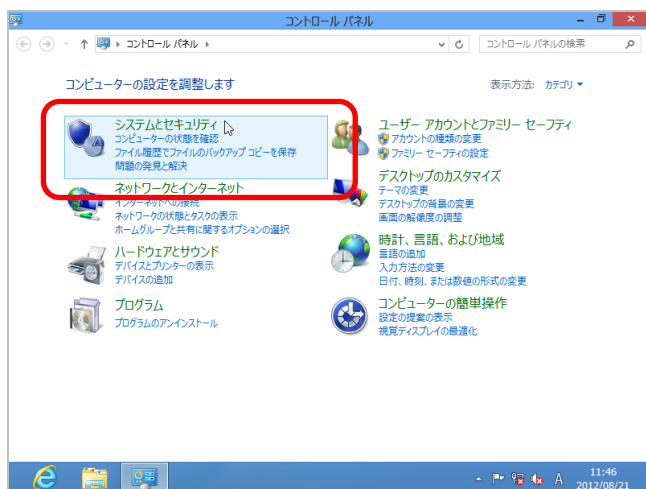
【[イベントビューアー]選択画面】



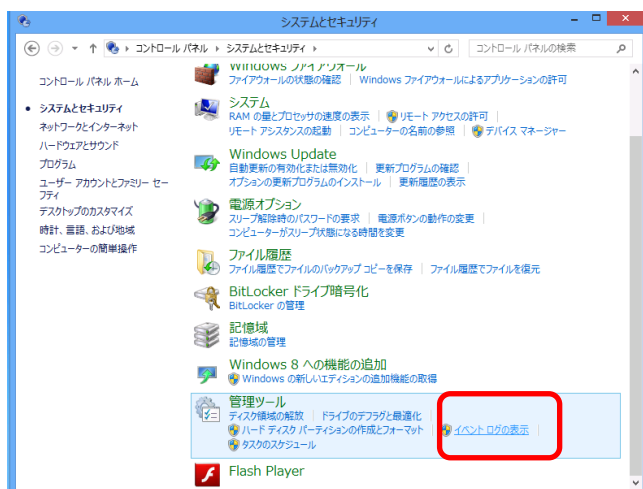
2. [コントロールパネル]をクリックします。



3. [システムとセキュリティ]をクリックします。



4. [管理ツール]の[イベントログの表示]をクリックします。

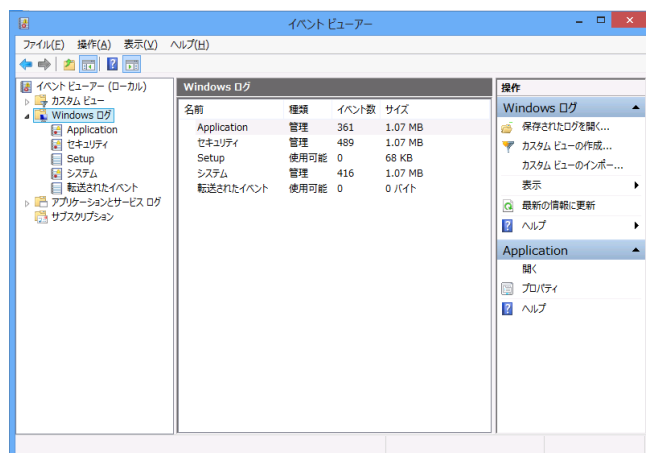


5. [Windows ログ]内でログの種類を選択します。

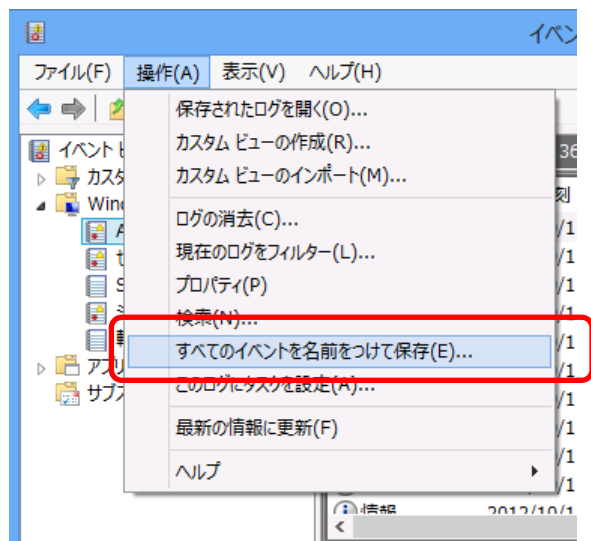
[Application]にはアプリケーションに関連するイベントが記録されています。

[セキュリティ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。

[システム]には Windows のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。



6. [操作]メニューの[すべてのイベントを名前をつけて保存]をクリックします。



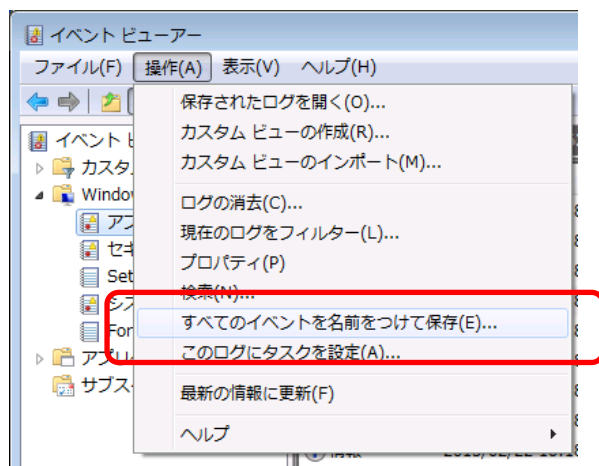
7. [ファイル名]に保存するアーカイブログファイルの名前を入力します。

8. [ファイルの種類]で保存するログファイルの形式を選択し[保存]をクリックします。

詳細については Windows のオンラインヘルプを参照してください。

4.1.2 Windows 7

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択します。
2. [コントロールパネル]から、[システムとセキュリティ] → [管理ツール] → [イベントログの表示] の順に選択します。
コントロールパネルの表示がアイコン形式のときは、[管理ツール] → [イベントビューアー] の順にクリックしてください。
3. [Windows ログ] 内でログの種類を選択します。
[アプリケーション] にはアプリケーションに関連するイベントが記録されています。
[セキュリティ] にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。
[システム] には Windows のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。
4. [操作] メニューの[すべてのイベントを名前をつけて保存]をクリックします。



5. [ファイル名] に保存するアーカイブログファイルの名前を入力します。
6. [ファイルの種類] で保存するログファイルの形式を選択し[保存]をクリックします。

詳細については Windows のオンラインヘルプを参照してください。

4.2 構成情報の採取

ハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。



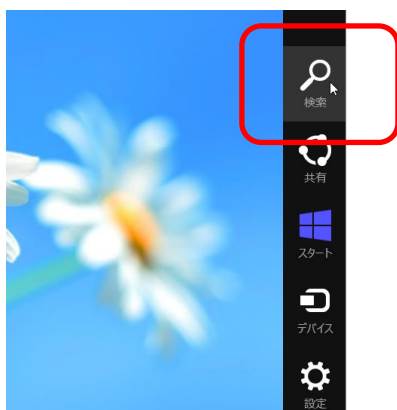
STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

4.2.1 Windows 8

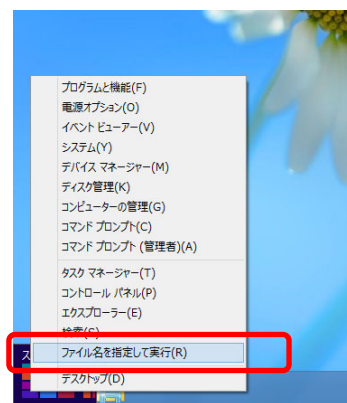
1. チャームから[検索]をクリックします。

(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行]をクリックします)

【[検索]画面】

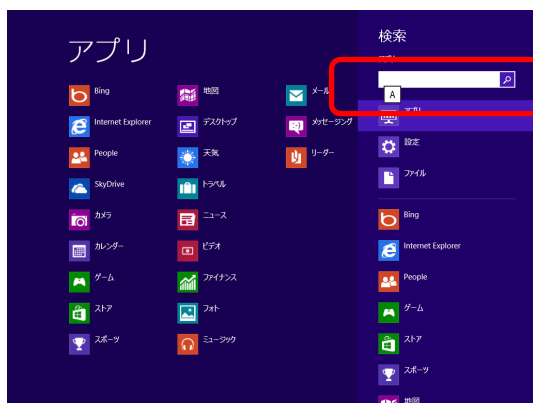


【[ファイル名を指定して実行]選択画面】

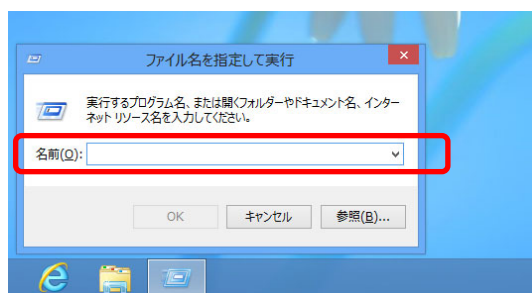


2. 「msinfo32.exe」と入力し、<Enter>キーを押します。

【[検索]画面】



【[ファイル名を指定して実行]画面】



3. [システム情報]が起動します。
4. [ファイル]メニューの[エクスポート]をクリックします。
5. [ファイル名]に保存するファイルの名前を入力し[保存]をクリックします。

4.2.2 Windows 7

1. スタートメニューの[プログラムとファイルの検索]に「msinfo32.exe」と入力します。
2. 表示された検索結果の「msinfo32」をクリックします。
3. [システム情報]が起動します。
4. [ファイル]メニューの[エクスポート]をクリックします。
5. [ファイル名]に保存するファイルの名前を入力し[保存]をクリックします。

4.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。

詳しくは「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1 章(6.2 ユーザーモードプロセスダンプの取得方法)」を参照してください。

4.4 メモリダンプの採取

エラーが起きたときのメモリの内容を採取します。保存先は任意に設定できます。

詳しくは「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1 章(6.1 メモリダンプ(デバッグ情報)の設定)」を参照してください。

メモリダンプは、保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。**正常に動作しているときに操作すると、システムの運用に支障をきたすおそれがあります。**

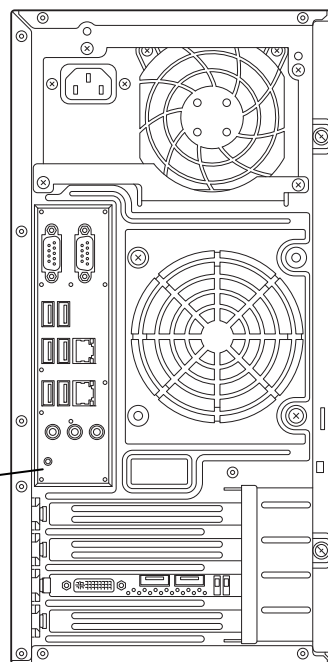


エラーが起きた後に再起動すると仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、メモリダンプが正しく保存できないことがあります。

エラーが発生し、メモリダンプを採取したいときに DUMP スイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴から斜めに差し込んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、設定されている保存先にメモリダンプが保存されます(CPU がストールした場合、メモリダンプが採取できないことがあります)。

DUMP スイッチ



5. トラブルシューティング

本機が思ったように動作しないときは、修理に出す前に、次のチェックリストを参照して本機をチェックしてください。リストに該当するような項目があるときは、記載の対処方法を試してみてください。

それでも正常に動作しないときは、ディスプレイに表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

5.1 電源 ON から POST 終了にかけてのトラブル

[?] 電源がONにならない

- ☐ 電源が本機に正しく供給されていますか？
 - 本機前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押して電源をON(POWERランプ点灯)にしてください。
 - 電源コードを本機の電源規格に合ったコンセント(またはUPS (無停電電源装置))に接続していることを確認してください。
 - 本機に添付の電源コードをご使用ください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていないことを確認してください。
 - 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
 - UPSに接続しているときは、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。

[?] 画面が出ない・ビープ音が鳴る

- ☐ DIMMが確実に実装されていますか？
- ☐ ケーブルを確実に接続していますか？また、オプションのグラフィックスアクセラレータをご使用の場合、グラフィックスアクセラレータボードを正しく取り付けられていますか？
 - ケーブルの接続状態およびグラフィックスアクセラレータボードの取り付け状態を確認してください。

[?] USBキーボードが効かない

- ☐ Fast BootをEnabledに設定、ならびにUSB SupportをDisabledに設定していませんか？
 - 本書の「1章(7.3 BIOS設定のクリア)」を参照してBIOS設定をクリアしてください。

[?] POSTのメモリカウントやBIOSセットアップメニュー、OSのシステム情報で表示するメモリ容量が物理メモリと一致しない

- 搭載しているPCIボードなどの構成によっては、実際に搭載している総物理メモリ容量より少なく表示する場合があります。故障ではありません。ただし、メモリを増設しても以前と情報が変わらなかったり、普段の容量よりも少なくなっていた場合は、DIMMの故障が考えられます。
- * OS がサポートする最大メモリ容量と利用可能なメモリ容量について
 - OS がサポートする最大メモリ容量は下記の使用 OS の項を参照してください。
 - また、チップセットの仕様などにより PCI リソース領域としてメモリを使うため、実際に使用できるメモリ容量は搭載メモリ容量よりも少なくなることがあります(搭載する PCI ボードの種類/枚数によって多少変動します)。下記の対応表を参照してください。

使用 OS	本体搭載メモリ容量と使用可能メモリ容量 (最大搭載メモリ容量: 4GB)	
<u>OS の最大サポートメモリ容量: 4GB</u> 32bit OS	搭載メモリ容量: ～約 2GB 使用可能メモリ容量: 約 1.96GB	搭載メモリ容量: 約 2GB ～ 4GB 使用可能メモリ容量: 約 1.96GB～2.96GB

- なお、SETUP を起動して「Advanced」メニューの「Memory Configuration」の「Memory Information」の「Available under 4GB」に表示しているメモリ容量が利用可能なメモリ容量です。

[?] POSTが終わらない

- ☐ 大容量のメモリを搭載していますか？
 - 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- ☐ 起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
 - 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止することがあります。そのときは本機を再起動してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- ☐ 本機で利用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？
 - 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

5.2 EXPRESSBUILDER 起動時のトラブル

[?] EXPRESSBUILDERが起動しない

- POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか？
 - 本機は、POST終了時にブータブルCD/DVDを読み込みます。タイミングが遅れるとエラーメッセージを表示したり、OSが起動したりします。その場合、本機を再起動させてください。
- BIOSの設定を間違えていませんか？
 - BIOSセットアップユーティリティーで、光ディスクドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
 <確認するメニュー: 「Boot」 >
- エラーメッセージが表示されましたか？
 - 表示されたメッセージに応じて、次のように対処してください。

メッセージ	原 因	対 処
EXPRESSBUILDER は、このコンピュータを動作対象としていません。 正しいバージョンをセットして、[OK]をクリックしてください。	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。	本機に添付されたEXPRESSBUILDER を使用してください。正しいバージョンをセットしても同じエラーが出る場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
マザーボード上のハードウェアに関する情報を取得できませんでした。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。	EXPRESSBUILDER が、マザーボード上の装置固有情報を見つけれない場合に表示します。	保守サービス会社へ連絡してください。
処理対象のファイルが見つかりません。	EXPRESSBUILDER 内のファイル、フォルダの読み込みに失敗しました。	メディア不良、光ディスクドライブの故障の可能性があります。保守サービス会社へ連絡してください。
処理対象のファイルを開くことができません。		
定義ファイルのパラメータが取得できません。		
ファイルの書き込みに失敗しました。		
ファイルのコピーに失敗しました。		
予期せぬエラーが発生しました。	EXPRESSBUILDER の内部エラーが発生しました。	

5.3 OS インストール時のトラブル

[?] OSがインストールできない

- OSインストール先のディスクはサポートされているディスク形式ですか？
- 次の通り、BIOS環境によりサポートされているディスク形式が異なります。

BIOS環境	ディスク形式
uEFI	GPT(GUIDパーティションテーブル)
Legacy BIOS	MBR(マスターブートレコード)

例えば、uEFI環境でMBR形式のディスクをインストール先に指定すると、次のようなメッセージが表示されます。



ディスク形式の変更はいったんOSインストール先のディスク内容を消去し、パーティションを作成しなおす必要があります。事前に必要なユーザーデータのバックアップをとり、パーティションを作成しなおしてください。

- RAIDコントローラーのコンフィグレーションを行いましたか？
- EXPRESSBUILDERまたはRAIDコンフィグレーションユーティリティ (LSI Software RAID Configuration Utility、WebBIOS)を使って正しくコンフィグレーションしてください。
- 論理ドライブを作成しましたか？
- EXPRESSBUILDERまたはRAIDコンフィグレーションユーティリティ (LSI Software RAID Configuration Utility、WebBIOS)を使って論理ドライブを作成してください。

[?] 複数ディスクを接続した環境で再インストール後、以前作成していたパーティションにアクセスできなくなる

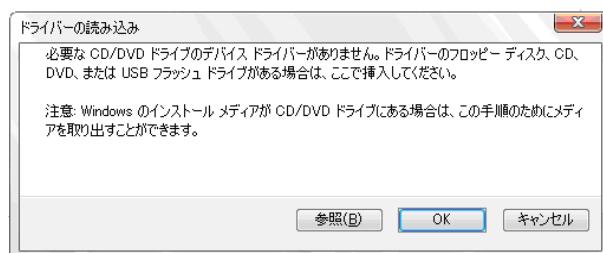
- 詳細については次のMicrosoft社のWebサイトを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/2497048/ja>

※上記の Web サイトでは Windows Server 2008 R2 について説明していますが、Windows 7 も同様です。

[?] キーボードやマウスが動作しない

- キーボードやマウスを接続するUSBコネクタにUSB 3.0に対応したポートを使用しているときに発生します。故障ではありません。「ユーザーズガイド」の「1章(5. 各部の名称と機能)」を参照してUSB2.0に対応したポートに接続してください。

[?] OSインストール時に次のメッセージが表示されて先に進めない

- EXPRESSBUILDERをセットしたUSB接続の光ディスクドライブがUSB3.0に対応したポートに接続されている可能性があります。「ユーザーズガイド」の「1章(5. 各部の名称と機能)」を参照してUSB2.0に対応したポートに接続してください。

5.4 OS 起動時のトラブル

[?] OSが起動できない

- ☐ RAIDコントローラーのBIOS設定が変更されていませんか？
 - RAIDコンフィグレーションユーティリティ (LSI Software RAID Configuration Utility、WebBIOS)を使って正しく設定してください。
- ☐ POSTでRAIDコントローラーを認識していますか？
 - RAIDコントローラーを正しく接続していることを確認してから電源をONにしてください。
 - 正しく接続していても認識しないときは、RAIDコントローラーの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。
- ☐ Flash FDDを本機にセットしていませんか？
 - Flash FDDを本機から取りはずして再起動してください。
- ☐ EXPRESSBUILDERをセットしていませんか？
 - EXPRESSBUILDERを取り出して再起動してください。
- ☐ OSが破損していませんか？
 - Windowsの修復プロセスを使って修復を試してください(本書の「1章(6. Windowsシステムの修復)」を参照)。

[?] Fast Bootが有効にならない？

□ 設定はあってますか？

→ 以下の設定後にFast Bootが有効になります。

→ また、システム構成を変更した場合は、一時的に、Fast Bootは無効となりますのでご注意ください。

1. BIOS の設定をする。

「BOOT」→「Fast Boot」→「Enabled」

Windows 8 をインストールしたハードディスクドライブの起動優先順位を#1 に設定してください。

「BOOT」→「Boot Option Priorities」

2. 設定後、OS を起動し正常にシャットダウンしてください。

3. 再度、OS を起動し正常にシャットダウンしてください。

5.5 STOP エラー発生時のトラブル

[?] ブルー画面(STOPエラー画面)で電源OFFできない

□ 一度押しでは電源OFFはできません。

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(電源スイッチを4秒以上押し続ける)を行ってください。

5.6 RAID システム運用時のトラブル

[?] リビルドができない

- リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
 - 故障したハードディスクドライブと同じ容量のハードディスクドライブをご使用ください。
- 論理ドライブが、RAID0ではありませんか？
 - RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。故障したハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成してください。コンフィグレーション情報を作成後、イニシャライズを行ってからバックアップデータを使って復旧してください。

[?] オートリビルドができない

- ハードディスクドライブを交換(ホットスワップ)するときに十分な時間をあげましたか？
 - ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまで90秒以上の時間をあげてください。
- 設定を間違えていませんか？
 - LSI Software RAID Configuration Utilityを使って、オートリビルドの設定を確認してください。
TOPメニュー→「Objects」→「Adapter」→「Auto Rebuild」
* WebBIOSにはオートリビルドの設定はありません。

[?] ハードディスクドライブがFailになった

- 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

[?] Universal RAID Utilityの物理デバイスの情報が一部正しく表示されない

- LSI Embedded MegaRAIDをご使用の場合、Universal RAID Utilityの物理デバイスの情報が一部正しく表示されない場合があります。

[?] 整合性チェックが実行できない

- 論理ドライブが「Degraded」になっていませんか？
 - 故障しているハードディスクドライブを交換し、リビルドを実施してください。
- 論理ドライブのRAIDレベルが、RAID0ではありませんか？
 - RAID0は冗長性がないため整合性チェックができません。

5.7 内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル

[?] 内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

- ☐ ケーブルを正しく接続していますか？
 - インタフェースケーブルや電源ケーブル (コード)を確実に接続していることを確認してください。また、接続順序が正しいかどうか確認してください。
- ☐ 電源ONの順番を間違っていないですか？
 - 外付けデバイスを接続しているときは、外付けデバイス、本機の順に電源をONにします。
- ☐ ドライバーをインストールしていますか？
 - 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバーが必要です。デバイスに添付の説明書を参照してドライバーをインストールしてください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
 - PCIデバイスを接続しているときは、本機のBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスに対する設定をしてください。(通常は特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。ボードに添付の説明書を参照し、正しく設定してください。)
 - シリアルポート、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照し、正しく設定してください。
- ☐ ジャンパは正しく設定していますか？
 - 接続しているデバイスにはジャンパ設定が必要なものがありますので添付の説明書を参考に、ジャンパを設定してください。

[?] キーボードやマウスが正しく機能しない

- ☐ ケーブルを正しく接続していますか？
 - 本機背面や前面にあるコネクタに正しく接続していることを確認してください。

[?] ハードディスクドライブにアクセスできない

- ☐ 本機で利用できるハードディスクドライブですか？
 - 弊社が指定する機器をご使用ください。
- ☐ ハードディスクドライブを正しく取り付けられていますか？
 - ハードディスクドライブの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。

[?] RAIDが組めない

- ☐ BIOSの設定はあっていますか？
 - UEFI使用時にはRAIDは対応していません。
「Boot」 → 「Boot Mode」

5.8 OS 運用時のトラブル

[?] OSの動作が不安定

- ☐ Starter Packを適用しましたか？
 - OSをインストールした後にネットワークドライバーをインストールすると動作が不安定になることがあります。インストレーションガイドを参照してStarter Packを適用してください。

[?] スリープ機能が働かない

- ☐ オプションボードを実装していますか？
 - オプションボードを実装しているときは、オプションボードがスリープ機能に対応していることを確認してください。

[?] ネットワーク上で認識されない

- ☐ ケーブルを接続していますか？
 - 本機背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
 - 本機のBIOSセットアップユーティリティで内蔵のLANコントローラーを無効にできます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
- ☐ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？
 - 本機専用のネットワークドライバーをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスを確実に設定していることを確認してください。
- ☐ 転送速度の設定を間違えていませんか？
 - 本機に標準で装備されている内蔵のLANコントローラーは、転送速度が1Gbps、100Mbps、および10Mbpsのネットワークで使用できます。この転送速度に切り替えるか、または、設定をOS上から接続しているハブに合わせてください。
- ☐ Starter Packを適用しましたか？
 - Windows標準のインストーラを使ってWindowsをインストールしたときは、Starter Packを適用して、LANドライバーをインストールしてください。

5.9 Windows 上で EXPRESSBUILDER を動作させたときのトラブル

[?] ドキュメントが読めない

- Adobe Readerを正しくインストールしていますか？
 - ドキュメントは、PDFファイル形式で提供しています。あらかじめAdobe Readerをインストールしてください。
- ご使用のブラウザは、Internet Explorerですか？
 - Internet Explorer は、セキュリティ強化のため情報バーを表示することがあります。このとき、情報バーをクリックしてドキュメント表示を許可してください。

[?] メニューが表示されない

- ご使用のOSは、Windows XP以降、またはWindows Server 2003以降ですか？
 - 本プログラムは、Windows XP以降またはWindows Server 2003以降のオペレーティングシステムにて動作させてください。
 - Windows Server 2008 Server Core環境には対応していません。
- <Shift>キーを押していませんか？
 - <Shift>キーを押しながらディスクをセットすると、オートラン機能をキャンセルします。
- OSの状態は問題ありませんか？
 - レジストリ設定やディスクをセットするタイミングによっては、メニューが起動しないときがあります。そのようなときは、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットしたDVDドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

[?] メニュー項目がグレイアウトされている

- ご使用の環境は正しいですか？
 - 実行するソフトウェアによっては、管理者権限(Administrator)や本機上で動作することが必要な場合があります。適切な環境にて実行してください。

5.10 バンドルソフトウェアのトラブル

[?] ESMPRO/ServerAgent (Windows版)について

- ESMPRO/ServerAgent (Windows版)の注意事項、設定の詳細などについては、EXPRESSBUILDER内の「ESMPRO/ServerAgent インストレーションガイド (Windows編)」、またはESMPROのオンラインヘルプを参照してください。

[?] ESMPRO/ServerManagerについて

- ESMPRO/ServerManagerの注意事項、設定の詳細などについては、EXPRESSBUILDER内の「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」、またはESMPROのオンラインヘルプを参照してください。

5.11 光ディスクドライブのトラブル

[?] 動作しない

- ☐ 電源が入っていますか？
 - 電源コネクタに電源ケーブルを正しく接続しているか確認してください。
- ☐ SATAケーブルを正しく接続していますか？
 - SATAケーブルを正しく接続しているか確認してください。ケーブルを調べて、ピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。

[?] 光ディスクドライブの回転音大きい

- ☐ いったん、ディスクを取り出し、セットし直してください。
 - 光ディスクドライブのオートバランス機構を再度機能させることで、回転音をおさえます。

[?] トレーが出ない

- ☐ トレーにメディアが正しくセットされていますか？
 - ユーザーズガイドの「1章(5.7.3 メディアが取り出せないときの手順)」を参照してトレーを出してください。
- ☐ ソフトウェアでイジェクトロックしていませんか？
 - Windows環境のときは、光ディスクドライブのプロパティでイジェクトロックしていないか確認してください。

5.12 メディア(CD/DVD/BD)の認識に関するトラブル

[?] 光ディスクドライブにアクセスできない

- ☐ 光ディスクドライブのトレーに確実にセットしていますか？
 - トレーに確実にセットしていることを確認してください。
- ☐ 本機で利用できる光ディスクドライブですか？
 - CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はできません。
 - Macintosh専用のCD-ROMは使えません。

[?] メディアが認識されない

- ☐ SATAケーブルを正しく接続していますか？
 - SATAケーブルを正しく接続しているか確認してください。ケーブルを調べて、ピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。
- ☐ 電源が入っていますか？
 - 本機の電源を入れたとき、光ディスクドライブのアクセスランプが点灯することを確認してください。点灯しないときは、電源が接続されていない可能性があります。電源ケーブルを正しく接続しているか確認してください。

5.13 メディア(CD/DVD/BD)の読み込みに関するトラブル

[?] 読み出し時に異音が発生する

- ☐ メディアに不良がありませんか？
 - 他のメディアをご使用ください。
- ☐ メディアの表面にシールを貼っていませんか？
 - 表面のシールをはがしてください。はがすときは、メディアに傷が付かないように注意してください。

[?] リードエラー(読み出しエラー)が発生する

- ☐ メディアに不良がありませんか？
 - メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある場合は、メディアをクリーニングしてください。
- ☐ 音楽CDをセットしていませんか？
 - 音楽CDにはデータが入っていないため、エラーメッセージを表示します。データCDを入れてください。
- ☐ メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
 - トレーからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。
- ☐ パケットライトで書き込まれていませんか？
 - パケットライトで書き込まれたデータを読むためには専用のソフトウェアが必要です。
- ☐ レンズにほこりが付着していませんか？
 - カメラ用のレンズブローアなどを使ってレンズに付着しているほこりに軽く風を吹きかけてレンズをクリーニングしてください。

[?] 音楽CDを再生できない

- ☐ デジタル再生の設定にしていますか？
 - 本機に標準装備の光ディスクドライブではデジタル再生のみをサポートしています。

5.14 メディア(CD/DVD/BD)の書き込みに関するトラブル

[?] 書き込みができない

- ☐ 推奨以外のメディアを使っていますか？
 - 弊社推奨もしくは弊社指定のメディアをご使用ください。
- ☐ メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
 - トレーからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。
- ☐ ハードディスクドライブの容量が不足していませんか？
 - 書き込む方式によってハードディスクドライブの使用量は異なりますが、一般的には書き込むデータ量の1.2倍～2倍の空き容量が必要です。
- ☐ 電源が入っていますか？
 - 電源コネクタに電源ケーブルを正しく接続しているか確認してください。
- ☐ SATAケーブルを正しく接続していますか？
 - SATAケーブルを正しく接続しているか確認してください。ケーブルを調べて、ピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。
- ☐ レンズにほこりが付着していませんか？
 - カメラ用のレンズブローなどを使ってレンズに付着しているほこりに軽く風を吹きかけてレンズをクリーニングしてください。

[?] 書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する

- ☐ ネットワーク環境下で書き込みを行ったり、マウスやウィンドウ、スクリーンセーバを動かしたり、他のアプリケーションが立ち上がっていて、コンピュータのリソースが不足していませんか？
 - ネットワークからログオフして、書き込みを行ってください。
 - スクリーンセーバ、省電力モードを解除してください。
 - ライティングソフト以外のアプリケーションを終了してください。
- ☐ ハードディスクドライブの容量が不足していませんか？
 - 書き込む方式によってハードディスクドライブの使用量は異なりますが、一般的には書き込むデータ量の1.2倍～2倍の空き容量が必要です。
- ☐ メディアに傷、品質不良はありませんか？
 - メディアに傷、ほこり、品質不良がある可能性があります。メディアを交換して確認してください。弊社推奨もしくは動作確認済みメディアをご使用ください。

[?] 書き込み可能なメディアのデータを消去したのに書かれた跡がある

- ☐ 問題ではありません。
 - 書き込み可能なメディアは一度書き込みがされると、消去しても書き込んだ跡があります。

[?] 高速倍速での書き込みができない

- ☐ メディアが対応している倍速ですか？
 - デバイスがサポートしている倍速にあったメディアをご使用ください。
- ☐ バッファアンダーランが起きていませんか？
 - 「書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する」を参照してください。

- メディアに傷、品質不良はありませんか？
 - メディアに傷、ほこり、品質不良がある可能性があります。メディアを交換して確認してください。弊社推奨もしくは動作確認済みメディアをご使用ください。

5.15 メディア(CD/DVD/BD)の追記に関するトラブル

[?] メディアに追記できない

- ライティングソフトが違っていませんか？
 - 先に書き込んだライティングソフトと、今回使用するライティングソフトが異なると、書き込めないことがあります(ライティングソフト互換性による)。書き込むライティングソフトは、なるべく同じものをご使用ください。
- 追記データに対して、空き容量が足りていますか？
 - 追記するデータに対して、空き容量が不足する場合は、新たに別のメディアをご使用ください。
- 他社の光ディスクドライブで記録したメディアを使用していませんか？
 - 本機で書き込んだメディアをご使用ください。
- ディスクアットワンスで書き込まれたメディアまたは、トラックアットワンスで書き込み後セッションクローズされたメディアを使っていますか？
 - 以前の書き込み時に、追記ができないよう設定しています。新たに別のメディアをご使用ください。

[?] 2回以上書き込んだメディアの前のセッションが読み出しできない

- ライティングソフトで前のセッションを読み出していますか？
 - ライティングソフトで前のセッションを読み出していない状態で記録したメディアは、原則として最後のセッションしか読み出しできません。

2回目以降に書き込むときは、前のセッションを読み出し、マルチセッションとして書き込んでください。前のセッションを読み出さないと、以前に書いたセッションが無効となります。

前回書き込んだデータのセッションが閉じられており、追記されたセッションが読めなくなっています。新たな別のメディアにデータを書き直してください。
- メディアに不良がありませんか？
 - メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある場合は、メディアをクリーニングしてください。
- 音楽CDをセットしていませんか？
 - 音楽CDはコンピュータのデータと違いますので、セッションの読み出しを実行する時に音楽CDを挿入していると、エラーメッセージを表示します。
- メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
 - トレーからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。

6. Windows システムの修復

Windows を動作させるために必要なファイルが破損したときは、次の手順に従って Windows システムを修復してください。



チェック

- 修復後、「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1 章(3.5 (4.5) デバイスドライバのセットアップ)」および「1 章(3.4 (4.4) Starter Pack の適用)」を参照して、各種ドライバおよび Starter Pack を適用してください。
- ハードディスクドライブが認識できないときは、Windows システムの修復はできません。

6.1 Windows 8 (64 ビット版)の修復

Windows システムを修復するときは、詳しい知識のあるユーザーや管理者のもとで実施してください。

詳細は、次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。

システムを購入時の状態に戻すことができます。

「PC を復元、リフレッシュ、または初期状態に戻す方法」

<http://windows.microsoft.com/ja-jp/windows-8/restore-refresh-reset-pc>

故障や障害でハードディスクドライブから起動できないときは、「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1 章(6.3 リカバリーメディアの作成)」で作成したリカバリーメディアから起動してシステムを修復してください。



チェック

ハードウェア構成を変更したときは、システム構成を購入時の状態に戻してから復旧してください。



ヒント

リカバリーメディアを使うときは、BIOS 設定メニューの[Boot Priorities] で光ディスクドライブが[Windows Boot Manager]より上位に設定されていることを確認してください。[Windows Boot Manager]が上位のときは、リカバリーメディアから起動できません

6.2 Windows 8 (32 ビット版)の修復

何らかの原因で Windows が起動できなくなったときは、OS インストールメディアの機能を使って修復することができます。OS インストールメディアから起動し、Windows のセットアップウィザードの「コンピュータを修復する」を選択してください。この方法は、詳しい知識のあるユーザーや管理者のもとで実施してください。

6.3 Windows 7 の修復

何らかの原因で Windows が起動できなくなったときは、システム回復オプションを使って修復できます。

この方法は、詳しい知識のあるユーザーや管理者のもとで実施してください。

詳細は、Windows のヘルプを参照してください。

OEM ドライバーが必要なときは、EXPRESSBUILDER の下記フォルダー配下のファイルをリムーバブルメディアにコピーしてください。

Windows 7 (64 ビット版) : ¥002¥win¥winnt¥oemfd¥win7x64

Windows 7 (32 ビット版) : ¥002¥win¥winnt¥oemfd¥win7

7. リセットとクリア

本機が動作しなくなったとき、または BIOS 設定を出荷時に戻したいとき、以下を参照して対処してください。

7.1 リセット

OS 起動前に動作しなくなったときは、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら、<Delete>キーを押してください。メモリに記憶されている処理中のデータをすべてクリアした上で再起動します。



ストール時を除き、本機が何も処理していないことを確認した上でリセットしてください。

7.2 強制電源 OFF

OS からシャットダウンできなくなったとき、POWER/SLEEP スイッチを押しても電源を OFF にできなくなったとき、またはリセットが機能しないときなどに使用します。

本機の POWER/SLEEP スイッチを 4 秒ほど押し続けてください。電源が強制的に OFF になります(電源を再び ON にするときは、電源 OFF から 10 秒ほど待ってから電源を ON にしてください)。



リモートパワーオン機能を使っている場合、強制電源 OFF したときは、強制電源 OFF 後に一度 OS を起動させ、OS からのシャットダウンにて電源を OFF にしてください。

7.3 BIOS 設定のクリア

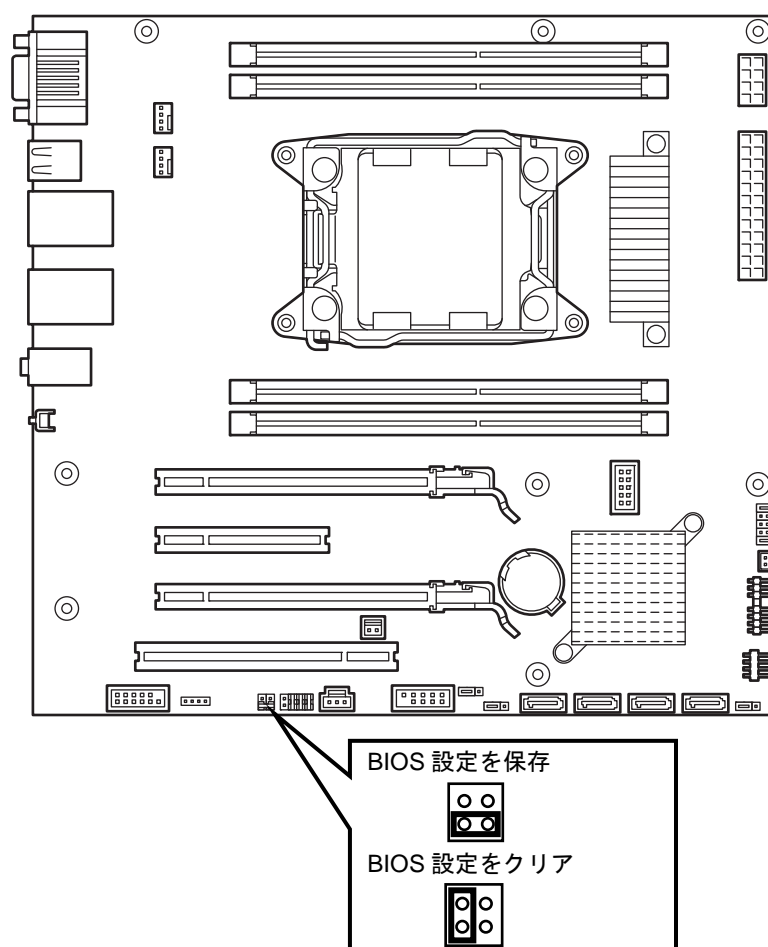
BIOS の設定を出荷時に戻すときは、内部のジャンパースイッチを操作します。



その他のジャンパースイッチは変更しないでください。本機が故障したり、誤動作したりする原因となります。



BIOS セットアップユーティリティが起動できるときは、ユーティリティを使って出荷時の設定に戻してください。



ジャンパースイッチは、次の手順にて設定してください。



- 本機を安全にお使いいただくために、添付のスタートアップガイドおよびユーザーズガイドに記載している「使用上のご注意」を必ずお読みください。「使用上のご注意」では、本機を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。
- 静電気への対策をした上で操作してください。静電気に関する説明は、「ユーザーズガイド」の「2 章(1.2 静電気対策)」で詳しく説明しています。

1. 本機に添付のスタートアップガイドまたは「ユーザーズガイド」の「2 章(1. 内蔵オプションの取り付け)」を参照し、マザーボードの設定ができるようにします。
2. ジャンパースイッチの設定を「BIOS 設定をクリア」の位置にします。
3. 5 秒ほど待ち、「BIOS 設定を保持」の位置に戻します。
4. 取り外した部品を元どおり組み立て、POWER スイッチを押します。
5. 以下のエラーメッセージで POST が停止します。いったん POWER スイッチを押して DC OFF してください。

```
ERROR
8006 : System Configuration data cleared by Jumper.
Press<F1> to resume, <F2> to Setup
```

6. POWER スイッチを押し、正常に起動することを確認します。

8. システム診断

「システム診断」は、本機が正常に動作しているか確認するための各種テストを行います。

8.1 システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- 本機に取り付けられているメモリのチェック
- CPU キャッシュメモリのチェック
- ハードディスクドライブのチェック



実行前に、本機に接続している LAN ケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響を及ぼすおそれがあります。



ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

8.2 システム診断の起動と終了

次の手順でシステム診断を起動します(本機が運用中のときは、いったんシャットダウンしてください)。

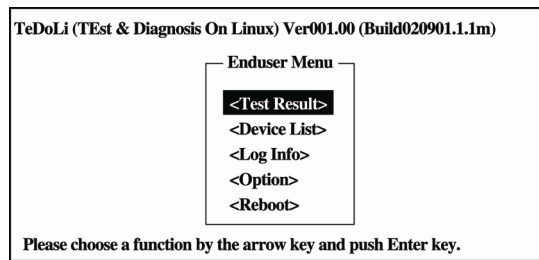
1. EXPRESSBUILDER を起動し、ブートメニューから[Tool menu] を選択します。
EXPRESSBUILDER の起動に関しては、本書の「2 章(4. EXPRESSBUILDER の詳細)」を参照してください。



「Language selection」メニューが表示されることがあります。その場合、[Japanese]を選択します。

2. [Test and diagnostics]を選択します。
3. [End-User Mode]を選択するとシステム診断が始まり、約 3 分で終了します。
診断を終了すると画面が次のような表示に変わります。

4. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押します。
以下のエンドユーザーメニューを表示します。



<Test Result>

手順 3 の画面を表示します。

<Device List>

接続されているデバイス一覧を表示します。

<Log Info>

試験ログを表示します。試験ログを保存できます。試験ログを保存する場合、FAT フォーマット済みのリムーバブルメディアをセットし、[Save(F)]を選択してください。

<Option>

オプション機能が利用できます。

<Reboot>

ハードウェアを再起動します。

5. 手順 4 のエンドユーザーメニューから[Reboot]を選択します。
本機が再起動しますので、EXPRESSBUILDER を取り出してください。

以上でシステム診断は終了です。

9. オフラインツール

オフラインツールは、本機の予防保守を行うためのツールです。

9.1 オフラインツールの起動方法

次の手順に従ってオフラインツールを起動します。

1. 周辺機器、本機の順に電源を ON にします。
2. POST で、次の表示があるときに<F4> キーを押します。
Press <F2> SETUP, <F4> ROM Utility, <F12> Network
3. POST 終了後、キーボード選択のメニューが現れます。
キーボードを選択すると、次のようなメニューを表示します。

Off-line Maintenance Utility Menu
System Information Viewer
System Information Management
Help
Exit

4. メニューから各機能を選択します。
詳細は、本書の「1 章(9.2 オフラインツールの機能)」を参照してください。

9.2 オフラインツールの機能

● Off-line Maintenance Utility

オフライン保守ユーティリティは、本機の保守などを行うためのユーティリティです。



- オフライン保守ユーティリティは、保守員向けのユーティリティです。オフライン保守ユーティリティを使うときは、保守員の指示に従ってください。
- RDX が接続されている状態でオフラインツールを起動するときは、起動前に RDX を休止モードに設定し、無効化しておいてください。

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

- System Information Viewer
プロセッサ(CPU)、BIOS などに関する情報を表示します。
また、これらの情報をテキストファイルへ出力します。
- System Information Management
お客様の装置固有情報(製品情報、筐体情報)を設定します。

NEC Express5800 シリーズ Express5800/55Xa, Y55Xa

2

便利な機能

本製品を使う上で便利な機能について説明します。お客様の目的や必要に応じてこの章を参照してください。

1. システム BIOS の詳細

BIOS の設定方法、パラメーターについて説明しています。

2. AMT 設定手順

AMT の設定方法、パラメーターについて説明しています。

3. EXPRESSBUILDER の詳細

本製品に添付の EXPRESSBUILDER について説明しています。

4. ESMPRO

管理／監視用アプリケーション ESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManager について説明しています。

5. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

本機の障害情報を自動通報するエクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)について説明しています。

6. エクスプレス通報サービス(MG)

本機の障害情報を自動通報するエクスプレス通報サービス(MG)について説明しています。

1. システム BIOS の詳細

システム BIOS は、BIOS セットアップユーティリティ(SETUP)を使ってパラメーターの確認と変更ができます。

1.1 SETUP の起動

本機の電源を ON にして、POST を進めます。

しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> SETUP, <F4> ROM Utility, <F12> Network

Press <CTRL + P> MEBX

ここで<F2>キーを押すと、POST 終了後に SETUP が起動して Main メニューが表示されます(オプション ROM の展開中に<F2>キーを押しても SETUP が起動します)。

1.2 パラメーターと説明

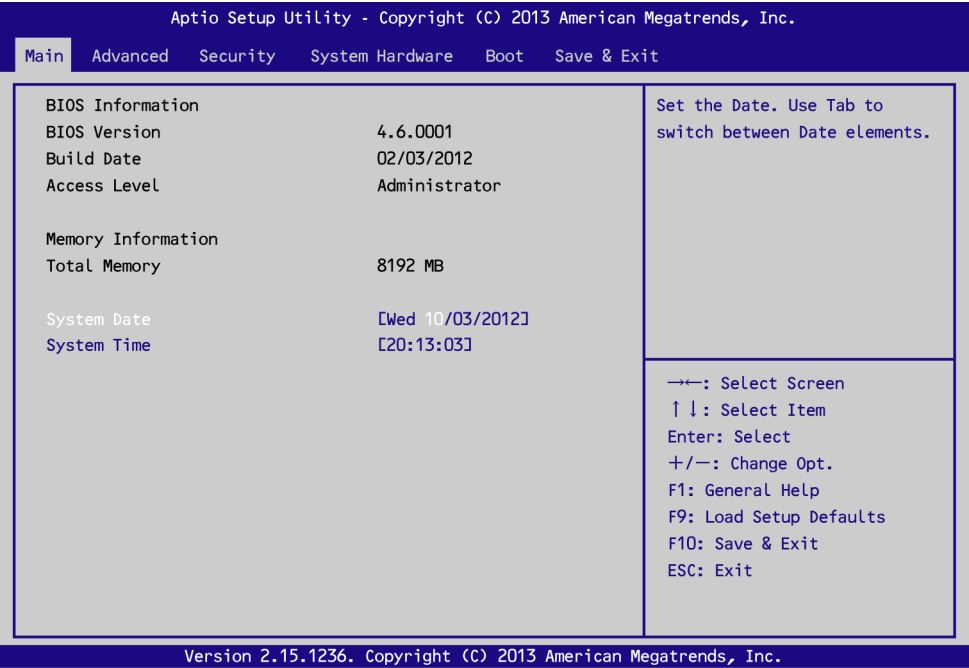
SETUP には大きく 6 種類のメニューがあります。

- Main メニュー
- Advanced メニュー
- Security メニュー
- System Hardware メニュー
- Boot メニュー
- Save & Exit メニュー

これらのメニューには、関連する項目ごとにサブメニューがあります。サブメニューを選択することで、多くのパラメーターを設定できます。

1.2.1 Main メニュー

SETUP を起動すると、はじめに Main メニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
BIOS Information	—	—
BIOS Version	—	BIOSのバージョンです。(表示のみ)
Build Date	MM/DD/YYYY	BIOSの作成日です。(表示のみ)
Access Level	[Administrator] User	現在、管理者(Administrator)／ユーザー(User)のどちらでアクセスしているかが表示されます。(表示のみ) パスワードが設定されていないときは[Administrator]と表示されます。
Memory Information	—	—
Total Memory	—	搭載されたメモリの容量です。(表示のみ)
System Date	MM/DD/YYYY	日付を設定します。
System Time	HH:MM:SS	時刻を設定します。

[]: 出荷時の設定



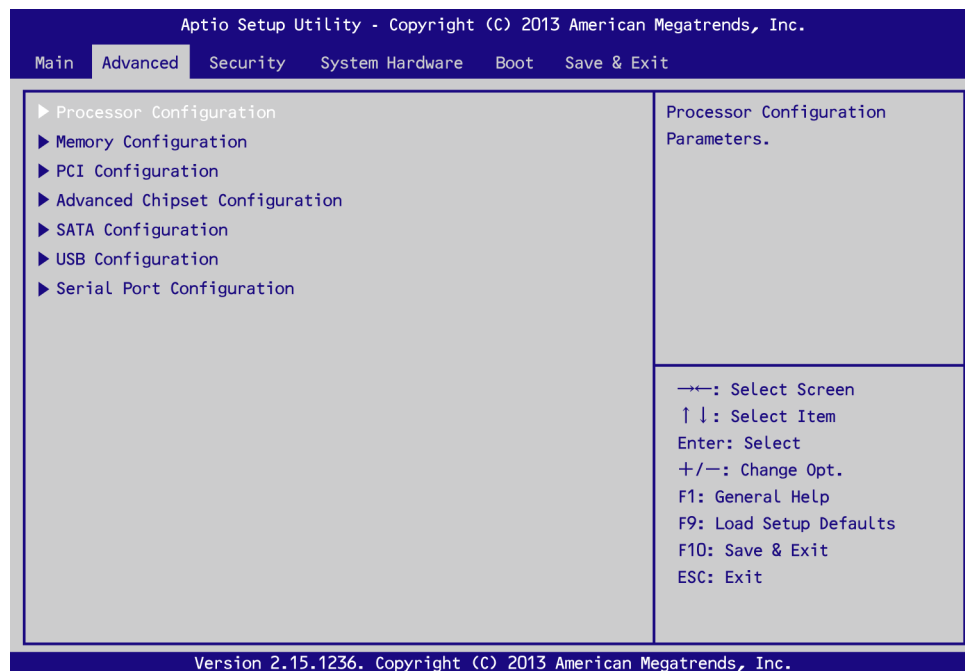
BIOS のパラメーターで時刻や日付の設定が正しく設定されているか確認してください。次の条件に当てはまるときは、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。

- 輸送した後
- 長期に保管した後
- 動作保証の環境条件(温度：10℃～35℃・湿度：20%～80%)から外れた条件下で休止状態にした後

システム時計は毎月1回程度の割合で確認してください。また、高精度で運用したいときは、タイムサーバ(NTP サーバ)などを利用することをお勧めします。

1.2.2 Advanced メニュー

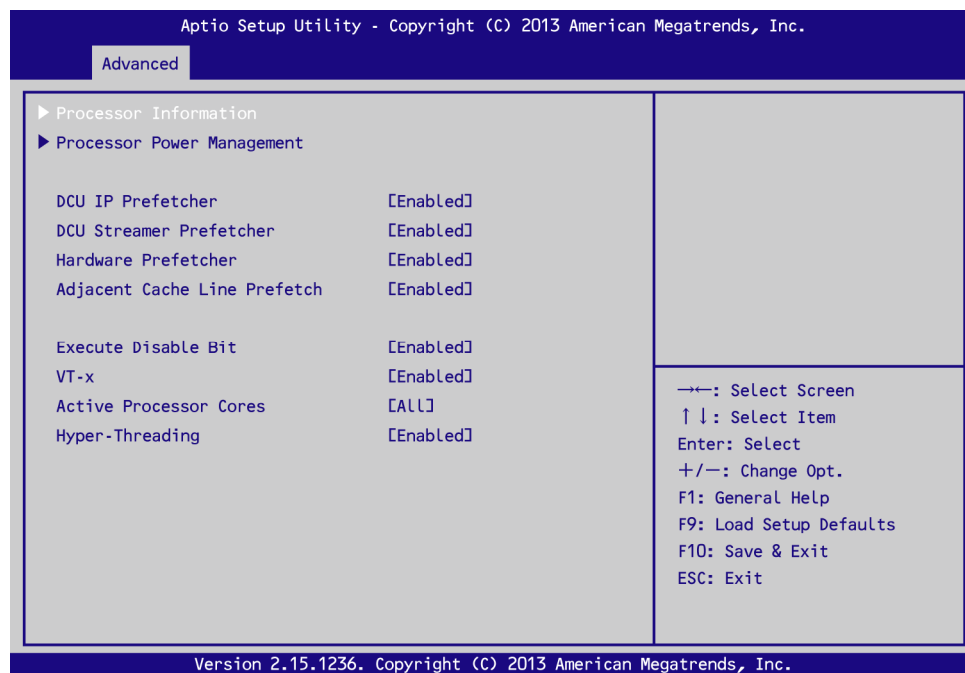
カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advanced メニューが表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



(1) Processor Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[Processor Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。

「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

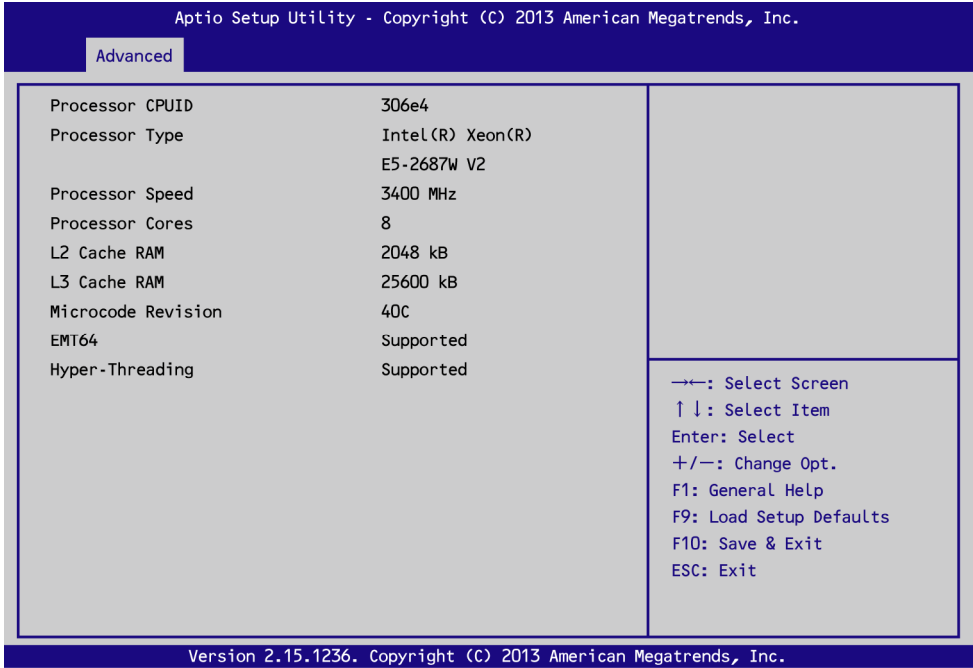


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Processor Information	—	—
Processor Power Management	—	—
DCU IP Prefetcher	Disabled [Enabled]	プロセッサのDCU IPプリフェッチャの有効／無効を設定します。
DCU Stremer Prefetcher	Disabled [Enabled]	プロセッサのDCU Stremerプリフェッチャの有効／無効を設定します
Hardware Prefetcher	Disabled [Enabled]	ハードウェアのプリフェッチャの有効／無効を設定します。
Adjacent Cache Line Prefetch	Disabled [Enabled]	メモリからキャッシュへのアクセス最適化の有効／無効を設定します。
Execute Disable Bit	Disabled [Enabled]	Execute Disable Bit機能の有効／無効を設定します。本機能をサポートしているプロセッサが搭載されたときのみ表示します。
VT-x	Disabled [Enabled]	Intel(R)Virtualization Technology機能(プロセッサの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。
Active Processor Cores	[ALL] 1 2 3 4 5 6 7	プロセッサ内部の有効なコア数を設定します。搭載するプロセッサによって選択できるコア数は変わります。
Hyper-Threading	Disabled [Enabled]	1つのコアで2つのスレッドを同時に実行する機能の有効／無効を設定します。本機能をサポートしているプロセッサが搭載されたときのみ表示します。

[]: 出荷時の設定

(a) Processor Information サブメニュー

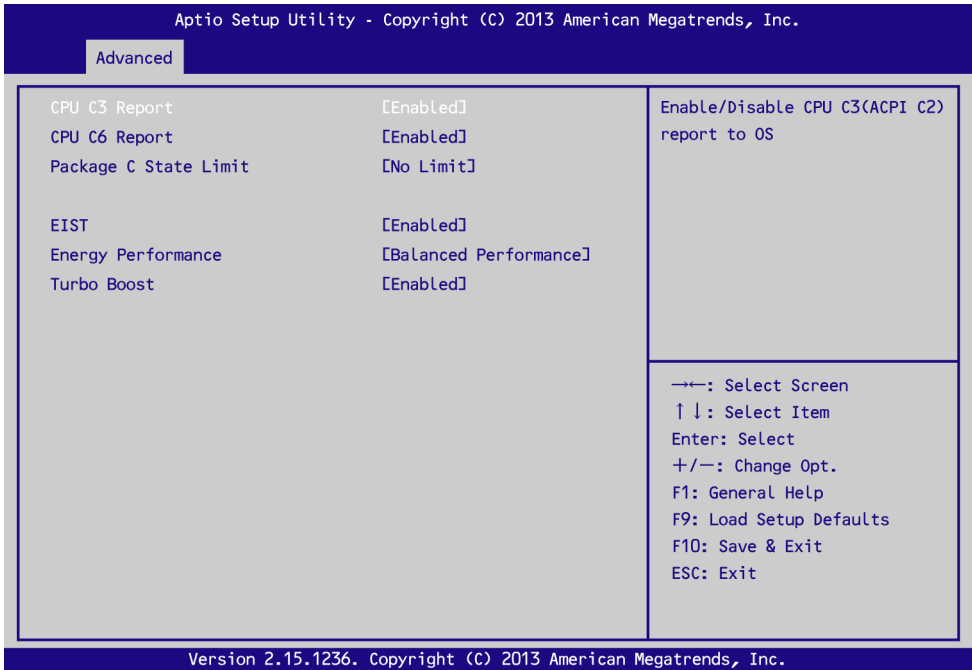


各項目については次の表を参照してください。(表示のみ)

項 目	パラメーター	説 明
Processor CPUID	数値(xxxxx)	プロセッサのIDです。
Processor Type	—	プロセッサのタイプです。
Processor Speed	—	プロセッサのクロック速度です。
Processor Cores	—	プロセッサの内部コア数です。
L2 Cache RAM	—	プロセッサの二次キャッシュサイズです。
L3 Cache RAM	—	プロセッサの三次キャッシュサイズです。
Microcode Revision	—	プロセッサに適用されているマイクロコードのレビジョンです。
EMT64	Supported Not Supported	プロセッサのインテル64アーキテクチャーのサポート状態です。
Hyper-Threading	Supported Not Supported	プロセッサのHyper-Threading Techmology機能の状態です。

[]: 出荷時の設定

(b) Processor Power Management サブメニュー



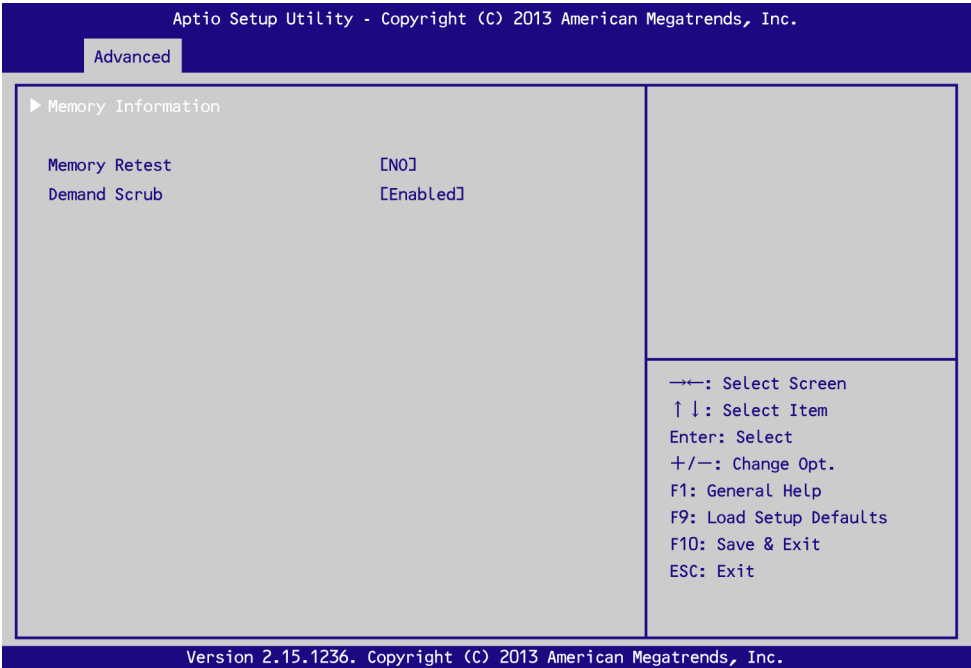
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
CPU C3 Report	Disabled [Enabled]	プロセッサC3ステートをOSに通知する機能の有効／無効を設定します。
CPU C6 Report	Disabled [Enabled]	プロセッサC6ステートをOSに通知する機能の有効／無効を設定します。
Package C state Limit	C0 C2 C6 C7 [No Limit]	プロセッサのパッケージC ステートの上限を設定します。
EIST	Disabled [Enabled]	Enhanced Intel SpeedStep Technology機能の有効／無効を設定します。本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示します。
Energy Performance	Performance [Balanced Performance] Balanced Energy Energy Efficient	プロセッサの動作を性能優先または省電力優先とする割合を設定します。
Turbo Boost	Disabled [Enabled]	Turbo Boost Technology機能の有効／無効を設定します。本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示します。 EISTが[Disabled]のときは表示されません。

[]: 出荷時の設定

(2) Memory Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[Memory Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

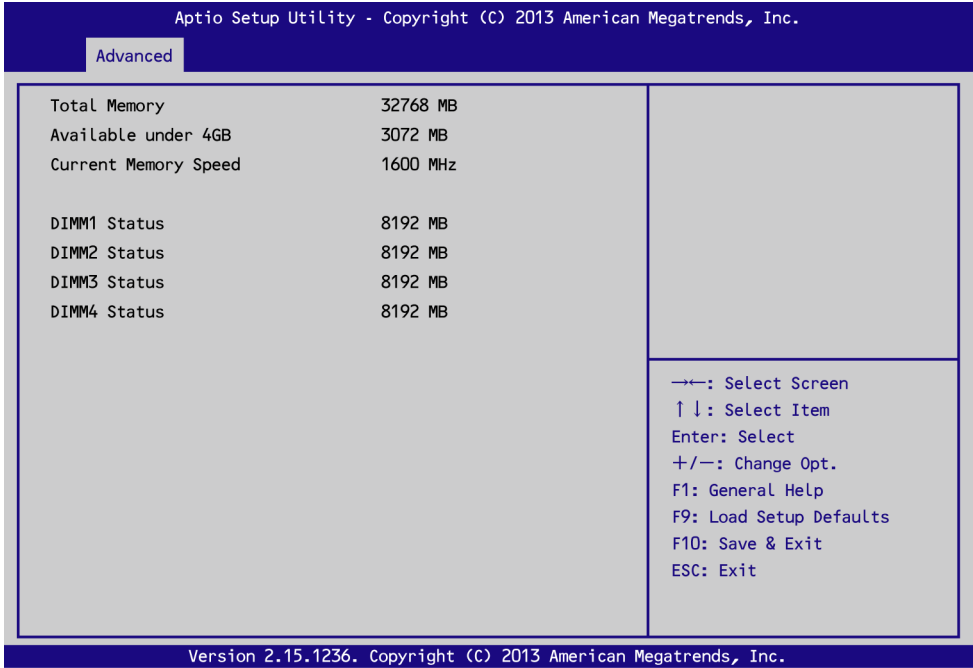


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Memory Information	—	—
Memory Retest	[NO] YES	[YES]に設定すると、メモリのエラー情報をクリアして、次回POST時にすべてのメモリを再構成します。このパラメーターは、メモリ再構成後に自動的に[NO]へ戻ります。
Demand Scrub	Disabled [Enabled]	メモリ RAS 機能(デマンドスクラビング)の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

(a) Memory Information サブメニュー



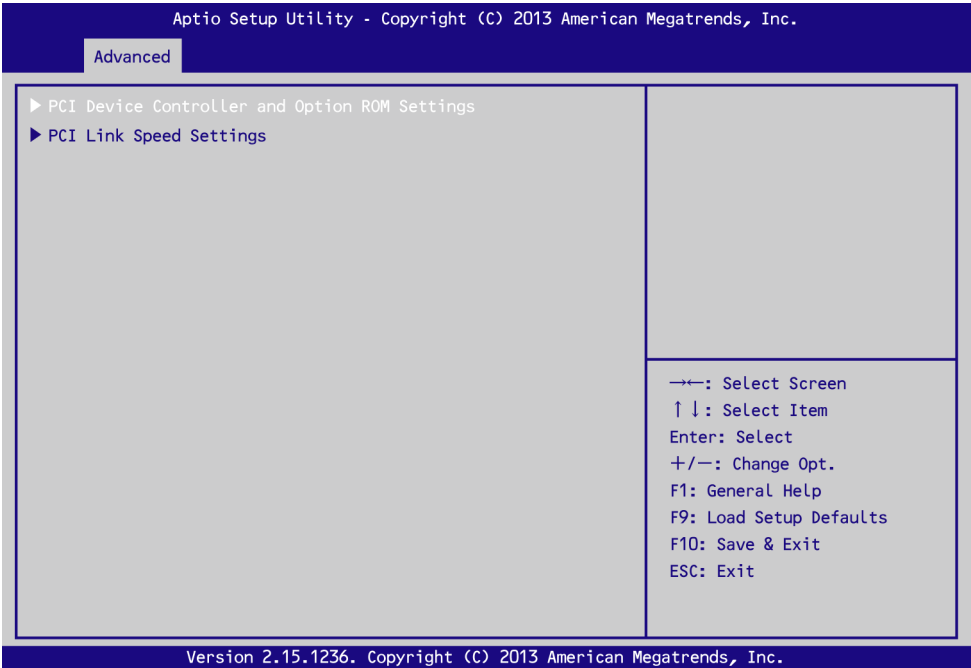
各項目については次の表を参照してください(表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
Total Memory	—	搭載されたメモリの物理容量です。
Available under 4GB	—	4GB以下の領域で使用可能なメモリ容量です。
Current Memory Speed	—	現在のメモリの動作周波数です。
DIMM1 Status	数値	メモリの現在の状態です。
DIMM2 Status	Disabled	数値のときは、メモリが正常であり、そのメモリの容量を意味します。その他の意味は次のとおりです。
DIMM3 Status	Not Present	Disabled : 故障している
DIMM4 Status	Error	Not Present : メモリが取り付けられていない
		Error : メモリの強制起動

[]: 出荷時の設定

(3) PCI Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[PCI Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

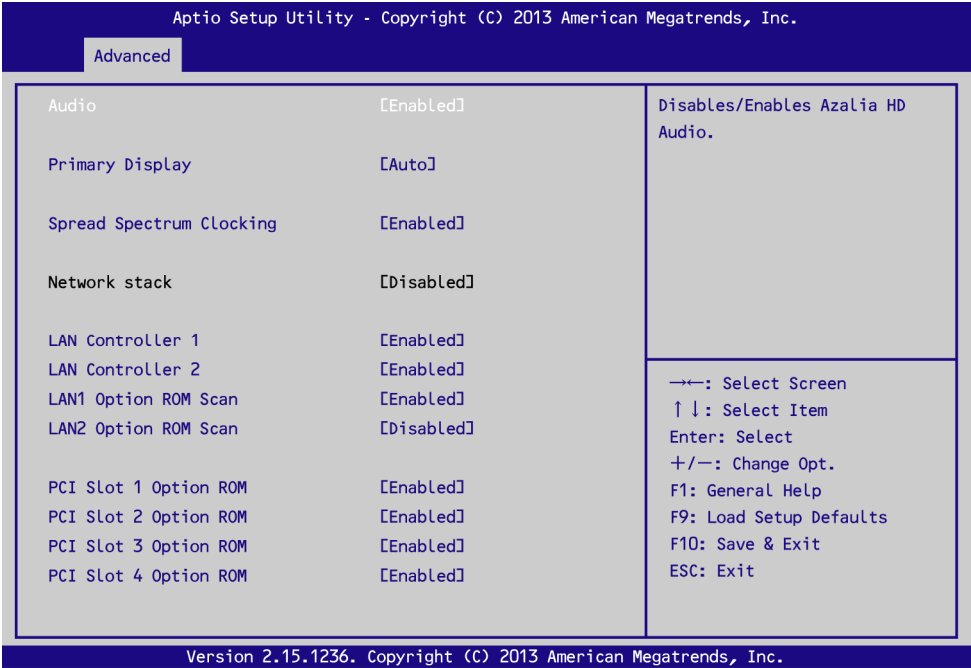


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
PCI Device Controller and Option ROM Settings	—	—
PCI Link Speed Settings	—	—

[]: 出荷時の設定

(a) PCI Device Controller and Option ROM Settings サブメニュー

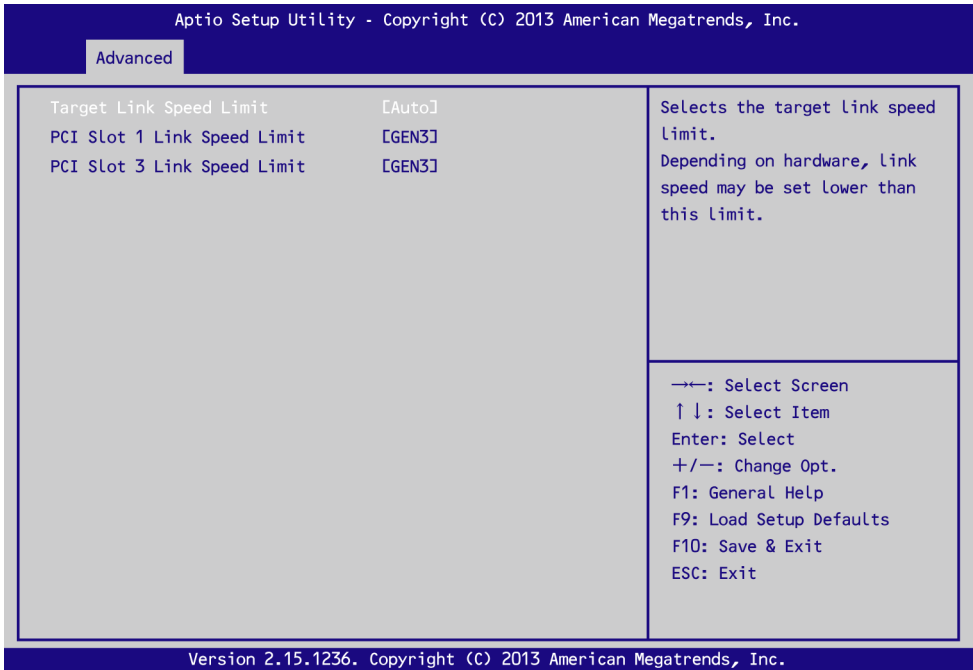


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Audio	[Enabled] Disabled	オンボード上のオーディオコントローラーの有効／無効を設定します。
Primary Display	[Auto] Slot 1 Slot 2 Slot 3 Slot 4	POST中のプライマリディスプレイを設定します。 [Auto]に設定した場合最も若いPCIスロットに搭載したグラフィックスコントローラから表示します。
Spread Spectrum Clocking	Disabled [Enabled]	各PCIデバイスのクロック信号のスペクトラム拡張の有効／無効を設定します。
Network stack	Enabled [Disabled]	オンボード上のLANコントローラーを使ったブート機能の有効／無効を設定します。 Boot Modeを[UEFI]にした場合に表示します。
Ipv4 PXE Support	Enabled [Disabled]	オンボード上のLANコントローラーを使ったブート機能をIpv4で行う場合の有効／無効を設定します。 Network Stackを[Enabled]にした場合に表示します。 Boot Modeを[UEFI]にした場合に表示します。
Ipv6 PXE Support	Enabled [Disabled]	オンボード上のLANコントローラーを使ったブート機能をIpv6で行う場合の有効／無効を設定します。 Network Stackを[Enabled]にした場合に表示します。 Boot Modeを[UEFI]にした場合に表示します。
LAN Controller 1	[Enabled] Disabled	オンボード上のLANコントローラー1の有効／無効を設定します。
LAN Controller 2	[Enabled] Disabled	オンボード上のLANコントローラー2の有効／無効を設定します。
LAN1 Option ROM Scan	[Enabled] Disabled	オンボード上のLANコントローラー1を使ったブート機能の有効／無効を設定します。 Boot Modeを[Legacy]にした場合に表示します。
LAN2 Option ROM Scan	Enabled [Disabled]	オンボード上のLANコントローラー2を使ったブート機能の有効／無効を設定します。 Boot Modeを[Legacy]にした場合に表示します。
PCI Slot 1 Option ROM PCI Slot 2 Option ROM PCI Slot 3 Option ROM PCI Slot 4 Option ROM	Disabled [Enabled]	PCIボード上のオプションROM展開の有効／無効を設定します。 Boot Modeを[Legacy]にした場合に表示します。

[]: 出荷時の設定

(b) PCI Link Speed Settings サブメニュー



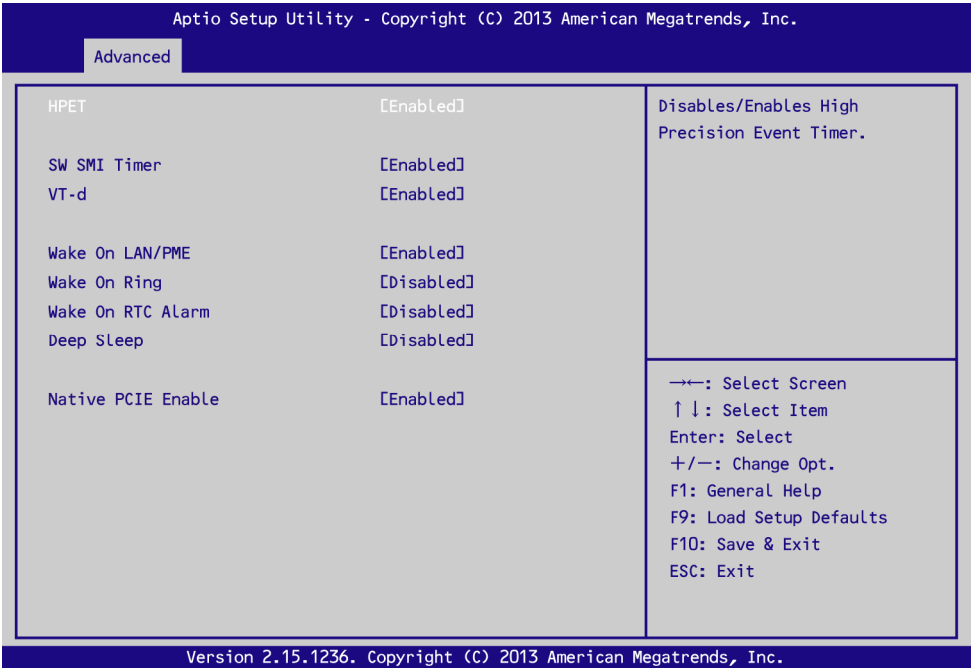
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Target Link Speed Limit	[Auto] GEN1 GEN2	オンボードPCIデバイスのLinkスピードの上限値を設定します。
PCI Slot 1 Link Speed Limit	GEN1 GEN2 [GEN3]	PCIスロット1のLinkスピードの上限値を設定します。
PCI Slot 3 Link Speed Limit	GEN1 GEN2 [GEN3]	PCIスロット3のLinkスピードの上限値を設定します。

[]: 出荷時の設定

(4) Advanced Chipset Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[Advanced Chipset Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

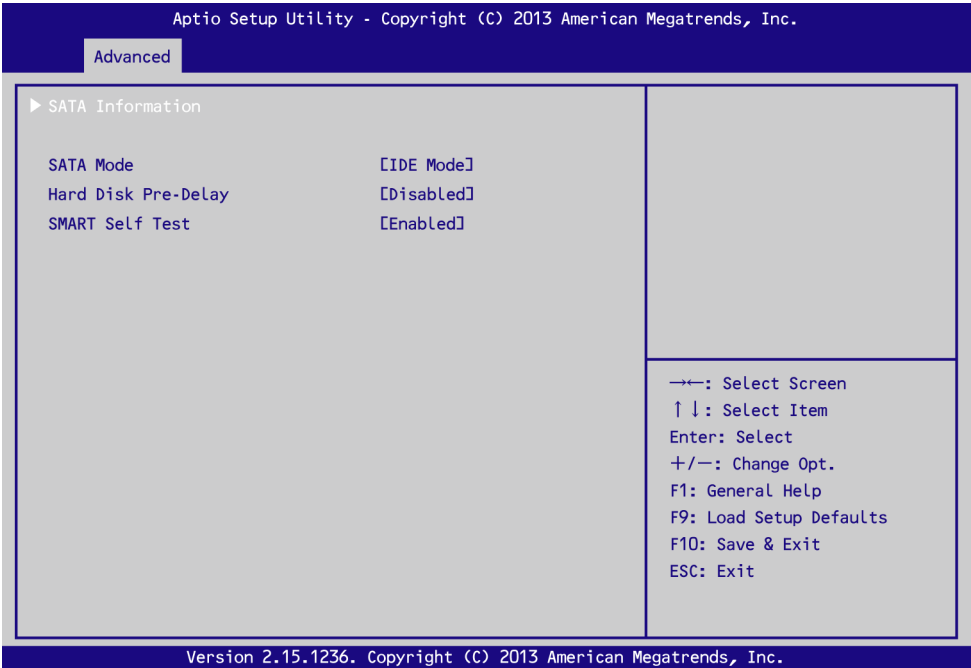
項 目	パラメーター	説 明
HPET	Disabled [Enabled]	高精度イベントタイマーの有効／無効を設定します。一部のOSではサポートしていません。
SW SMI Timer	Disabled [Enabled]	定期的なSMI割り込みの有効／無効を設定します。
VT-d	Disabled [Enabled]	Intel(R)Virtualization Technology for Directed I/O機能(I/Oの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示します。
Wake On LAN/PME	Disabled [Enabled]	ネットワーク経由のリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
Wake On Ring	[Disabled] Enabled	シリアルポート(モデム)経由のリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
Wake On RTC Alarm	[Disabled] Enabled	リアルタイムクロックのアラーム機能を使ったリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
Wake up hour	[0] ~ 23	リアルタイムクロックのアラーム機能を使ったリモートパワーオン機能の時刻の設定をします。 Wake On RTC Alarmが[Enabled]のときに表示します。
Wake up minute	[0] ~ 59	
Wake up second	[0] ~ 59	
Deep Sleep ※ ¹	[Disabled] Enabled in S5 Enabled in S4 and S5	Deep Sleep機能の有効／無効を設定します。 [Enabled]に設定したときは、電源スイッチでのみ電源を入れることができます。
Native PCIE Enable	Disabled [Enabled]	PCI Expressネイティブ制御機能の有効／無効を設定します。

※1: Wake On LAN/PME、Wake On Ring、およびME BIOS Extensionが[Disabled]設定のときに選択できます。

[]: 出荷時の設定

(5) SATA Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[SATA Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

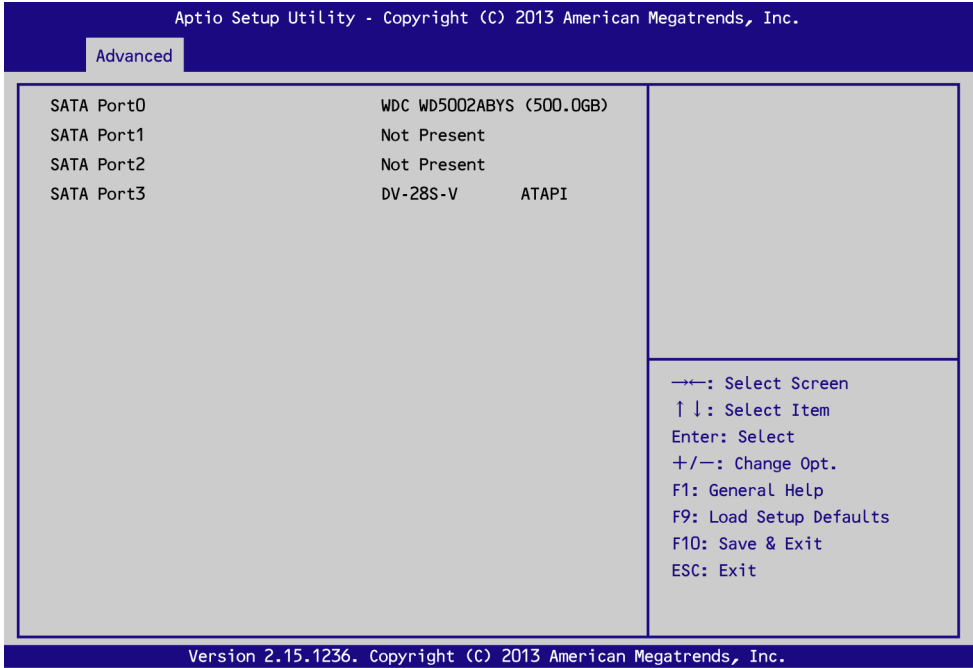
項 目	パラメーター	説 明
SATA Information	—	—
SATA Mode	Disabled [IDE Mode] AHCI Mode	SATAコントローラーの動作モードを設定します。
Hard Disk Pre-Delay	[Disabled] 3 Seconds 6 Seconds 9 Seconds 12 Seconds 15 Seconds 21 Seconds 30 Seconds	POST中のHDDアクセスの遅延時間を設定します。
SMART Self Test	Disabled [Enabled]	S.M.A.R.T.の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定



本機では、AHCI ドライバは動作検証していません。

(a) SATA Information サブメニュー



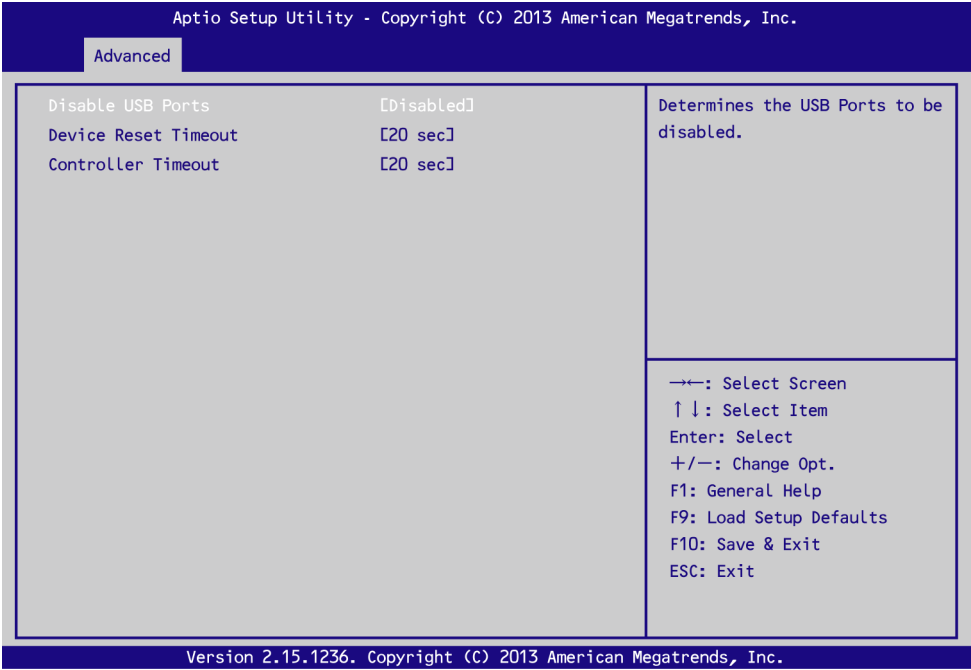
各項目については次の表を参照してください(表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
SATA Port0 SATA Port1 SATA Port2 SATA Port3	—	各ポートに接続されているデバイスが表示されます。

[]: 出荷時の設定

(6) USB Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[USB Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



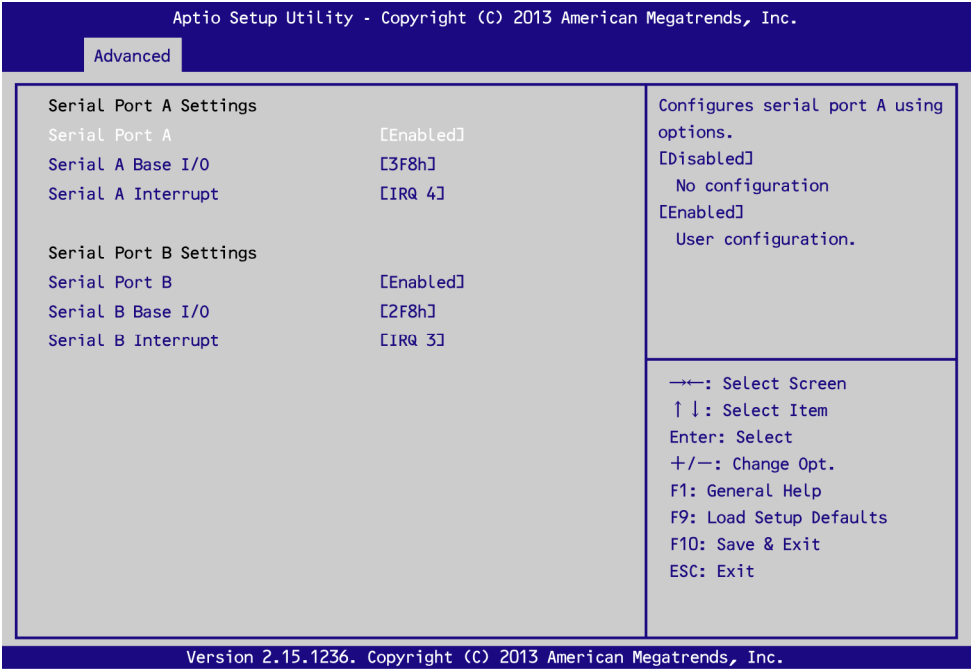
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Disable USB Ports	[Disabled] Front Rear	無効にするUSBポートを設定します。
Device Reset Timeout	10 sec [20 sec] 30 sec 40 sec	USB Mass Storage DeviceへStart Unitコマンドを発行したときのタイムアウト時間を設定します。
Controller Timeout	1 sec 5 sec 10 sec [20 sec]	USBコントローラーへControl, BulkおよびInterrupt Transferコマンドを発行したときのタイムアウト時間を設定します。

[]: 出荷時の設定

(7) Serial Port Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[Serial Port Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

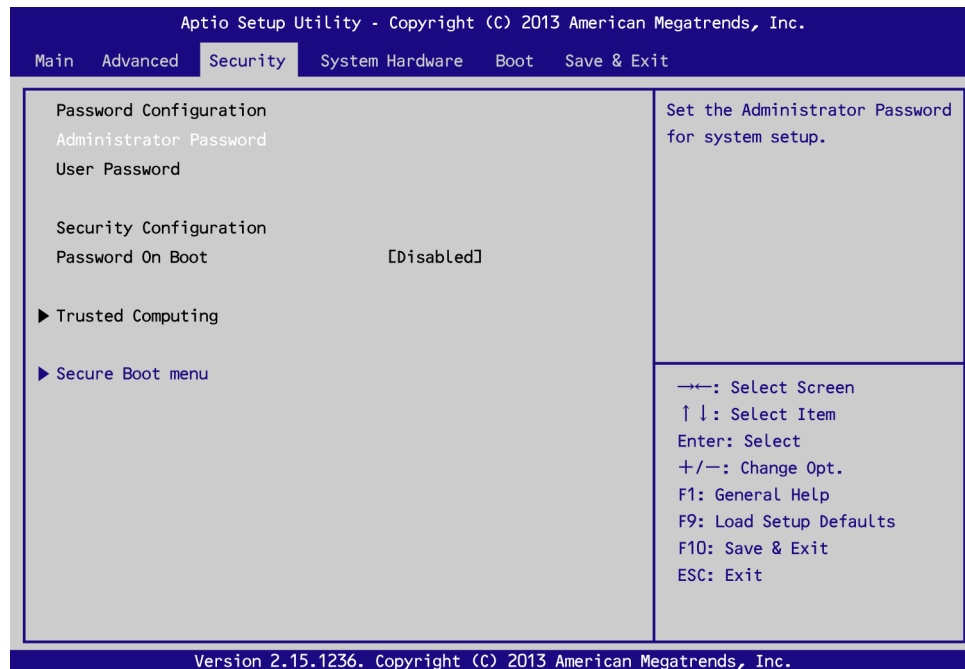
項 目	パラメーター	説 明
Serial Port A Settings	—	—
Serial Port A	Disabled [Enabled]	シリアルポートAの有効／無効を設定します。
Serial A Base I/O	[3F8h] 2F8h 3E8h 2E8h	シリアルポートAのためのベースI/Oアドレスを設定します。Serial Port Aが[Enabled]のときに表示します。
Serial A Interrupt	IRQ 3 [IRQ 4]	シリアルポートAのための割り込みを設定します。Serial Port Aが[Enabled]のときに表示します。
Serial Port B Settings	—	—
Serial Port B	Disabled [Enabled]	シリアルポートBの有効／無効を設定します。
Serial B Base I/O	3F8h [2F8h] 3E8h 2E8h	シリアルポートBのベースI/Oアドレスを設定します。Serial Port Bが[Enabled]のときに表示します。
Serial B Interrupt	IRQ 4 [IRQ 3]	シリアルポートBの割り込みを設定します。Serial Port Bが[Enabled]のときに表示します。

[]: 出荷時の設定

1.2.3 Security メニュー

カーソルを[Security]の位置に移動させると、Security メニューが表示されます。

「▶」が付いている項目は、選択後<Enter>キーを押してサブメニューを表示させてから設定します。



「Administrator Password」または「User Password」のどちらかで<Enter>キーを押すと、パスワードの登録/変更画面が表示されます。



- 「User Password」は、「Administrator Password」を設定していないと設定できません。
- OS のインストール前にパスワードを設定しないでください。
- パスワードを忘れてしまった場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

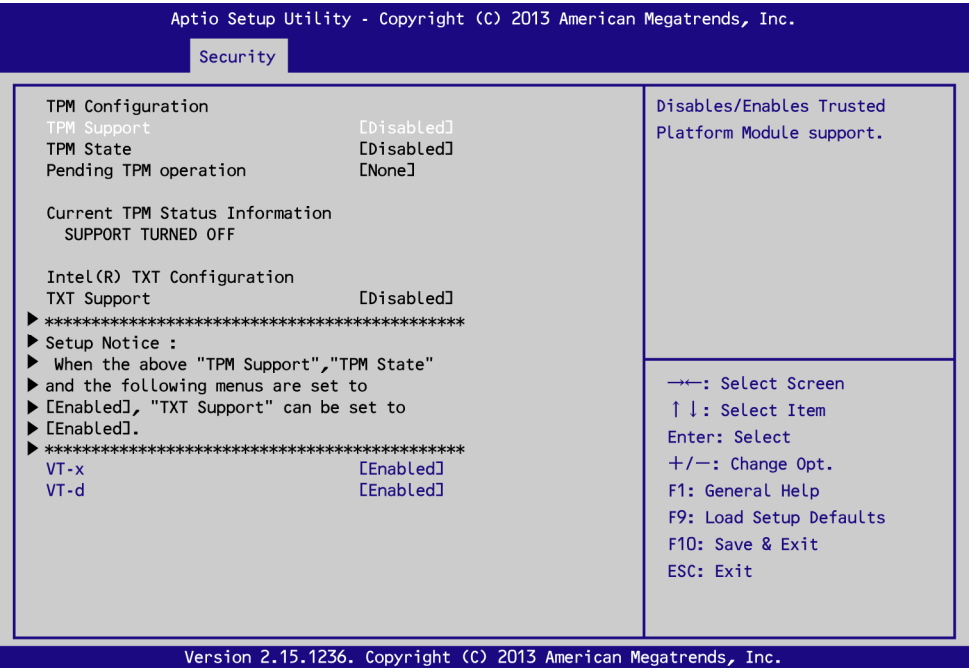
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Password Configuration	—	—
Administrator Password	3文字から20文字までの英数字	<Enter>キーを押すと管理者権限を設定できるパスワード入力画面が表示されます。 管理者権限ではすべてのSETUPメニューを設定できます。パスワードは管理者権限でSETUPを起動したとき設定できます。 パスワードを設定していないときは管理者権限になります。
User Password	3文字から20文字までの英数字	<Enter>キーを押すとユーザー権限を設定するパスワード入力画面が表示されます。 ユーザー権限ではSETUPメニューの設定範囲に制限があります。パスワードは管理者権限またはユーザー権限でSETUPを起動したとき設定できます。本項目は「Administrator Password」を設定すると選択できます。
Security Configuration	—	—
Password on Boot	[Disabled] Enabled	パスワードによるブート制限機能の有効／無効を設定します。本項目は「Administrator Password」を設定すると選択できます。
Trusted Computing	—	本項目は「Administrator Password」を設定すると選択できます。
Secure Boot menu	—	—

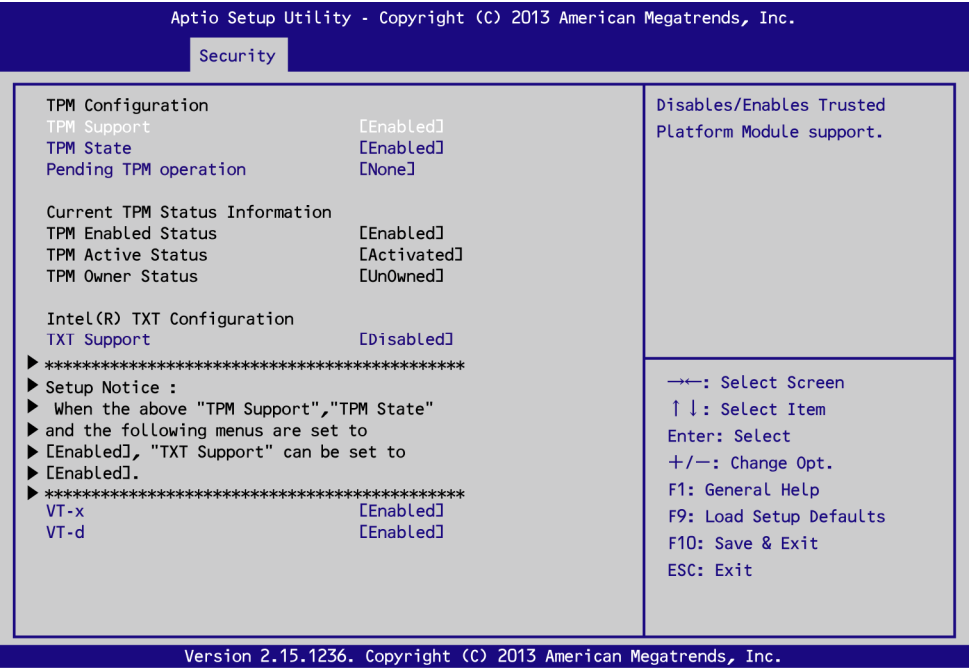
[]: 出荷時の設定

(1) Trusted Computing サブメニュー

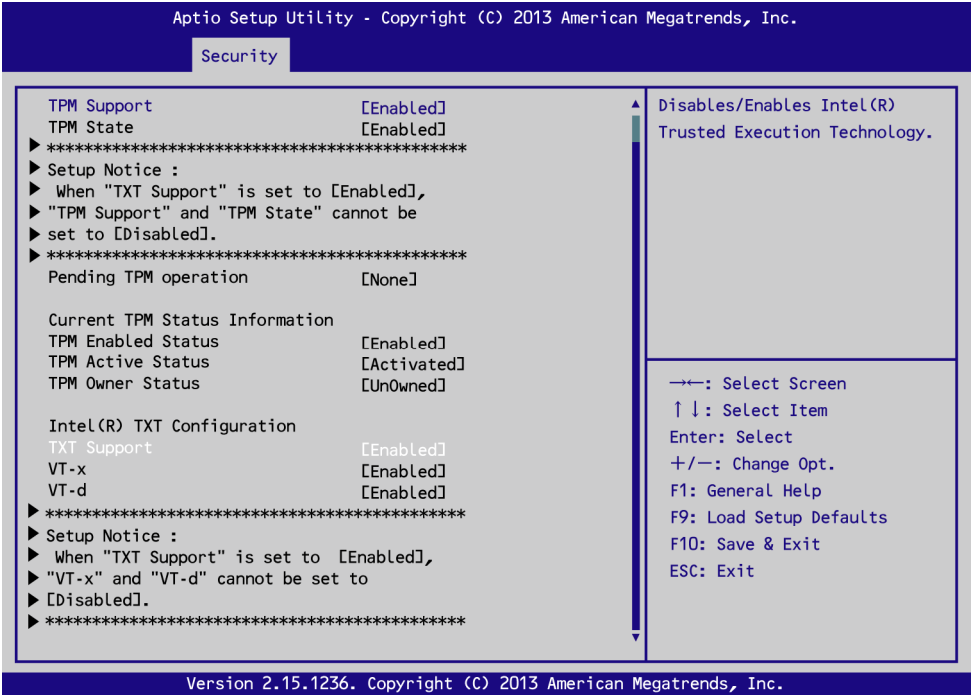
Security メニューで[Trusted Computing]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



[TPM Support]を[Enabled]に設定すると、次の画面が表示されます。



[TXT Support]を[Enabled]に設定すると、次の画面が表示されます。



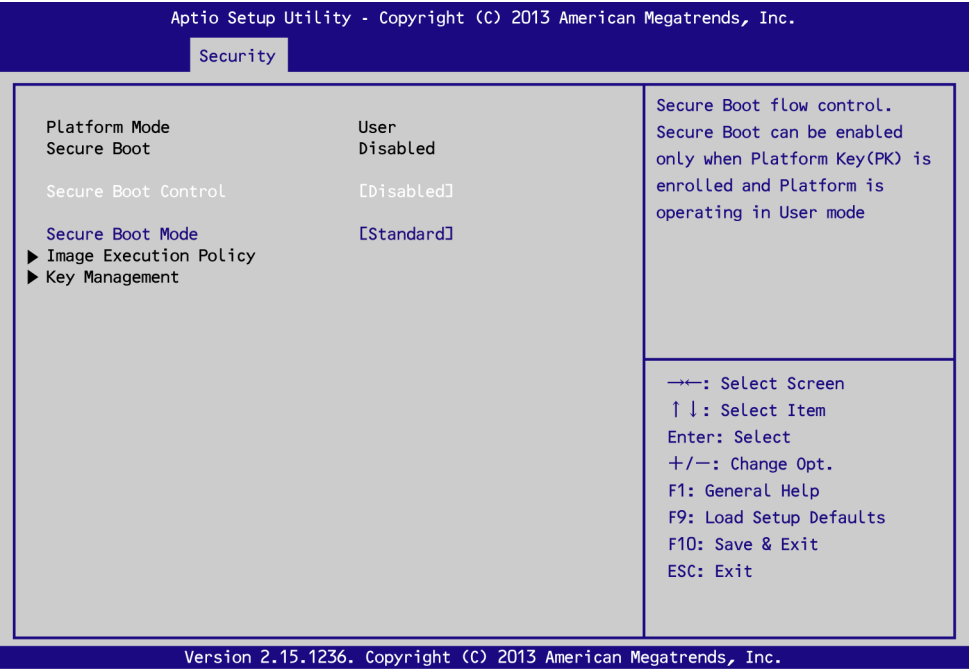
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
TPM Configuration	—	—
TPM Support	[Disabled] Enabled	Trusted Platform Module機能の有効／無効を設定します。 [Enabled]にすると、Current TPM Status Informationが表示されます。
TPM State	[Disabled] Enabled	TPM機能の状態の有効／無効を設定します。本項目はTPM Supportを[Enabled]に設定すると選択できます。
Pending TPM operation	[None] Enable Take Ownership Disable Take Ownership TPM Clear	TPMオペレーションを設定します。本項目はTPM Stateを[Enabled]に設定すると選択できます。
Current TPM Status Information	—	—
TPM Enabled Status	Enabled Disabled	TPM機能の状態が表示されます。(表示のみ)
TPM Active Status	Activated Deactivated	
TPM Owner Status	Owned UnOwned	
Intel(R) TXT Configuration	—	—
TXT Support	[Disabled] Enabled	Trusted Execution Technology機能の有効／無効を設定します。VT-x、VT-dおよびTPM Stateを[Enabled]に設定すると選択できます。
VT-x	Disabled [Enabled]	Intel(R)Virtualization Technology機能(プロセッサの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。
VT-d	Disabled [Enabled]	Intel(R)Virtualization Technology for Directed I/O機能(I/Oの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示します。

[]: 出荷時の設定

(2) Secure Boot menu サブメニュー

Security メニューで[Secure Boot menu]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



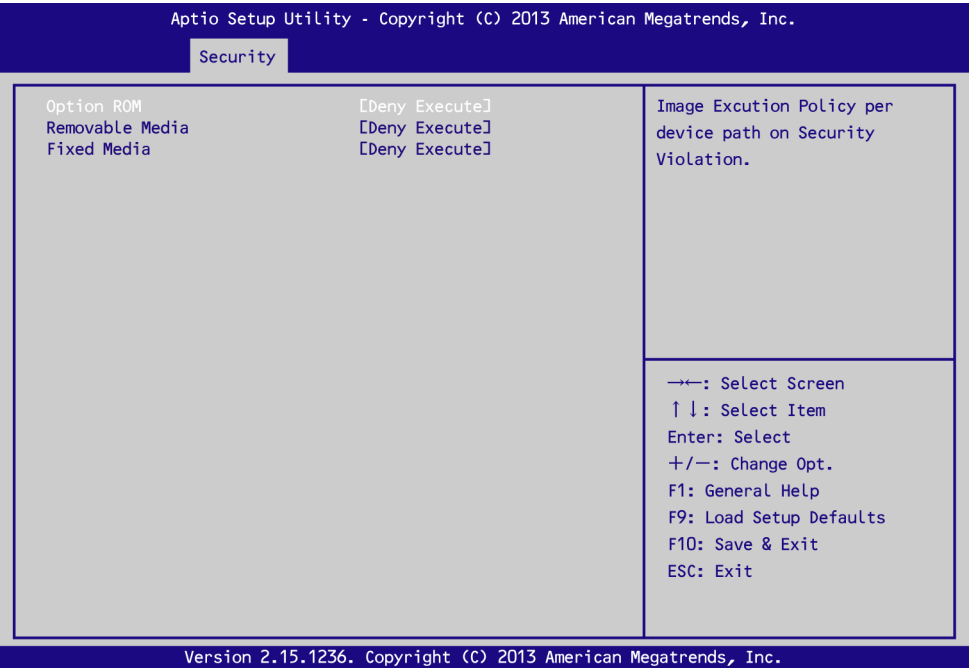
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Platform Mode	User Setup	Secure Boot機能が利用するキーの状態を示します。 Userモードの場合、Secure Boot機能を利用できる状態 にあります。（表示のみ）
Secure Boot	Disabled Enabled	Secure Boot機能の現在の状態を示します。（表示のみ）
Secure Boot Control	[Disabled] Enabled	Secure Boot機能の有効／無効を設定します。 [Enabled]にすると、Secure Boot Modeが表示されま す。本項目は「Boot」→「Boot Mode」が「UEFI Mode」 のときに選択できます。
Secure Boot Mode	[Standard] Custom	Secure Boot機能を標準設定で利用するか設定変更し 利用するかを設定します。本項目は「Administrator Password」を設定すると選択できます。
Image Execution Policy	—	本項目は「Administrator Password」を設定し、Secure Boot Modeが「Custom」のときに選択できます。
Key Management	—	本項目は「Administrator Password」を設定し、Secure Boot Modeが「Custom」のときに選択できます。

[]: 出荷時の設定

(3) Image Execution Policy サブメニュー

Secure Boot Menu メニューで[Image Execution Policy]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



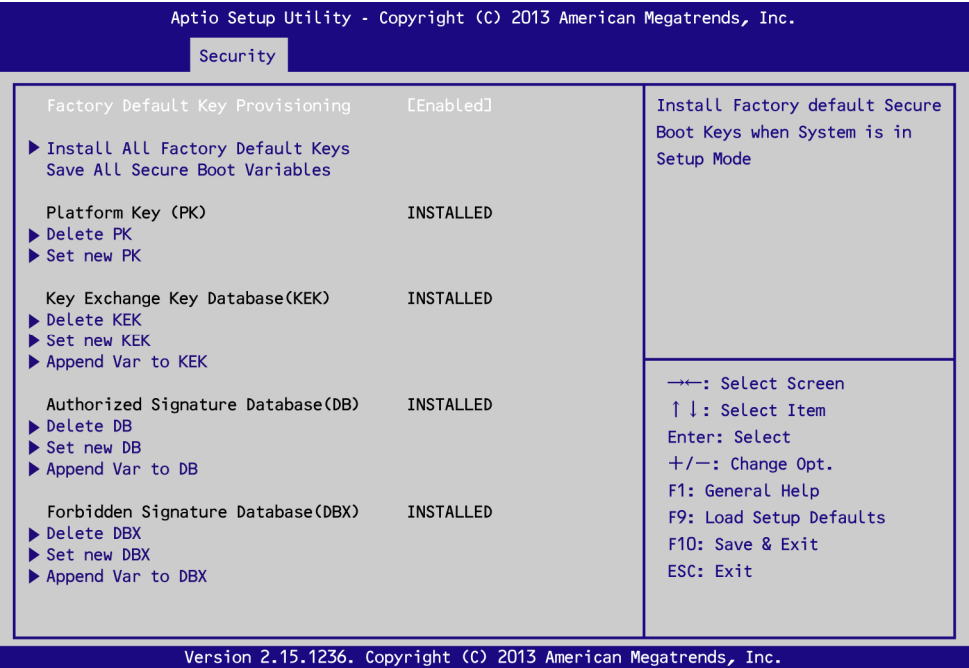
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Option ROM	Always Execute Always Deny Allow Execute Defer Execute [Deny Execute] Query User	Secure Boot機能が有効の場合に、Option ROM動作における認証動作を設定します。
Removable Media	Always Execute Always Deny Allow Execute Defer Execute [Deny Execute] Query User	Secure Boot機能が有効の場合に、外部メディアからのBootにおける認証動作を設定します。
Fixed Media	Always Execute Always Deny Allow Execute Defer Execute [Deny Execute] Query User	Secure Boot機能が有効の場合に、HDD等のメディアからのBootにおける認証動作を設定します。

[]: 出荷時の設定

(4) Key Management サブメニュー

Secure Boot menu メニューで[Key Management]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

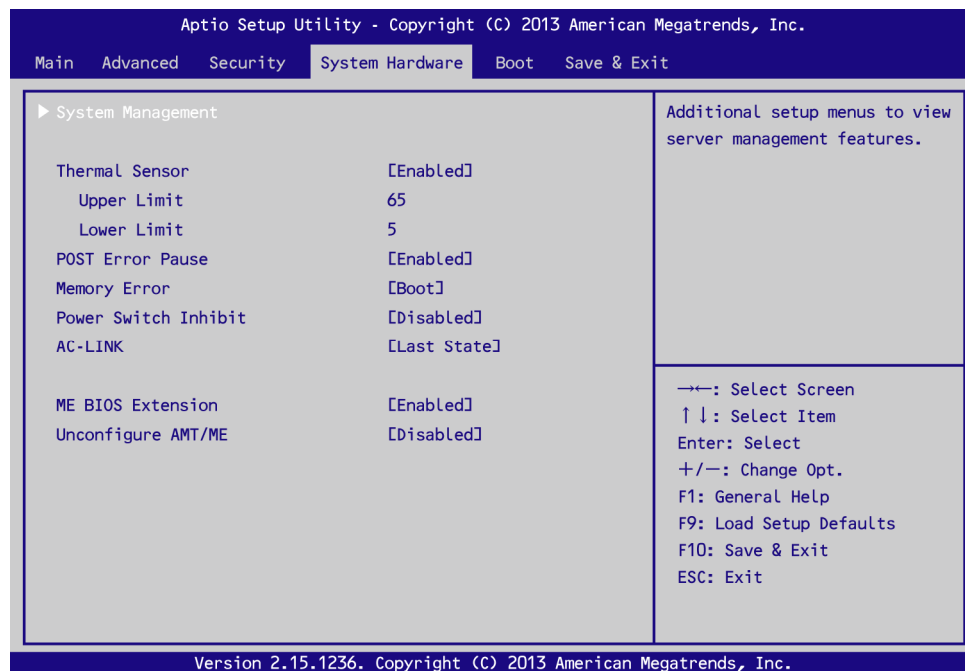
項 目	パラメーター	説 明
Factory Default Key Provisioning	Disabled [Enabled]	キーがない場合に出荷状態にする機能の有効／無効を設定します
Install All Factory Default Keys		すべてのキーを出荷状態に戻します。
Save All Secure Boot Variables	—	外部メディアにキーを保存します。
Platform Key (PK)	INSTALLED NOT INSTALLED	PKの状態を表示します。
Delete PK	—	現在設定されているPKを削除します。
Set new PK	—	外部メディアから新しいPKを設定します。
Key Exchange Key Database (KEK)	INSTALLED NOT INSTALLED	KEKの状態を表示します。
Delete KEK	—	現在設定されているKEKを削除します。
Set new KEK	—	外部メディアから新しいKEKを設定します。
Append Var to KEK	—	外部メディアからKEKを追加します。
Authorized Signature Database (DB)	INSTALLED NOT INSTALLED	DBの状態を表示します。
Delete DB	—	現在設定されているDBを削除します。
Set new DB	—	外部メディアから新しいDBを設定します。
Append Var to DB	—	外部メディアからDBを追加します。
Forbidden Signature Database (DBX)	INSTALLED NOT INSTALLED	DBXの状態を表示します。
Delete DBX	—	現在設定されているDBXを削除します。
Set new DBX	—	外部メディアから新しいDBXを設定します。
Append Var to DBX	—	外部メディアからDBXを追加します。

[]: 出荷時の設定

1.2.4 System Hardware メニュー

カーソルを[System Hardware]の位置に移動させると、System Hardware メニューが表示されます。

「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
System Management	—	—
Thermal Sensor	Disabled [Enabled]	温度センサー監視機能の有効／無効を設定します。 [Enabled]にすると、温度の異常が検出されたとき、OSを起動する前にPOSTを停止して温度が正常に戻るのを待ちます。
Upper Limit	30 ～ [65] ～ 80	正常温度の上限値を設定します(単位は「℃」)。
Lower Limit	0 ～ [5] ～ 10	正常温度の下限値を設定します(単位は「℃」)。
Post Error Pause	Disabled [Enabled]	POST中にエラーを検出したとき、ユーザー入力があるまでOSの起動を抑止する機能の有効／無効を設定します。 [Disabled]に設定すると、POSTエラーを検出しても、ユーザーの指示を待つことなくOS起動を試みます。
Memory Error	Halt [Boot]	POST中にメモリリソースの縮退エラーを検出したとき、ユーザー入力があるまでOSの起動を抑止する機能の有効／無効を設定します。POST Error Pauseが[Enabled]に設定されているとき、本機能は有効になります。 [Boot]に設定していても、すべてのメモリリソースで縮退しているときはPOSTを停止してOS起動を抑止します。
Power Switch Inhibit	[Disabled] Enabled	POWERスイッチの抑止機能の有効／無効を設定します。
AC-LINK	Stay Off [Last State] Power On	ACリンク機能を設定します。AC電源がOFFになり、再度供給されたときの電源の状態を設定します(別表参照)。 UPS制御の場合は、[Power On]に設定してください。
ME BIOS Extension	Disabled [Enabled]	Intel(R) ME BIOS Extensionの展開の有効／無効を設定します。Intel(R) AMT機能を利用する際は、[Enabled]に設定してください。
Unconfigure AMT/ME	[Disabled] Enabled	[Enabled]に設定すると、Intel(R) ME BIOS Extensionの「Intel(R) AMT Configuration」の設定と「ME Password」が初期状態に戻ります。初期化後、設定は[Disabled]に戻ります。「ME BIOS Extension」が[Enabled]のときに設定できます。

[]: 出荷時の設定

「AC-LINK」の設定と、AC 電源が OFF になってから再度電源が供給されたときの動作は、次のとおりです。

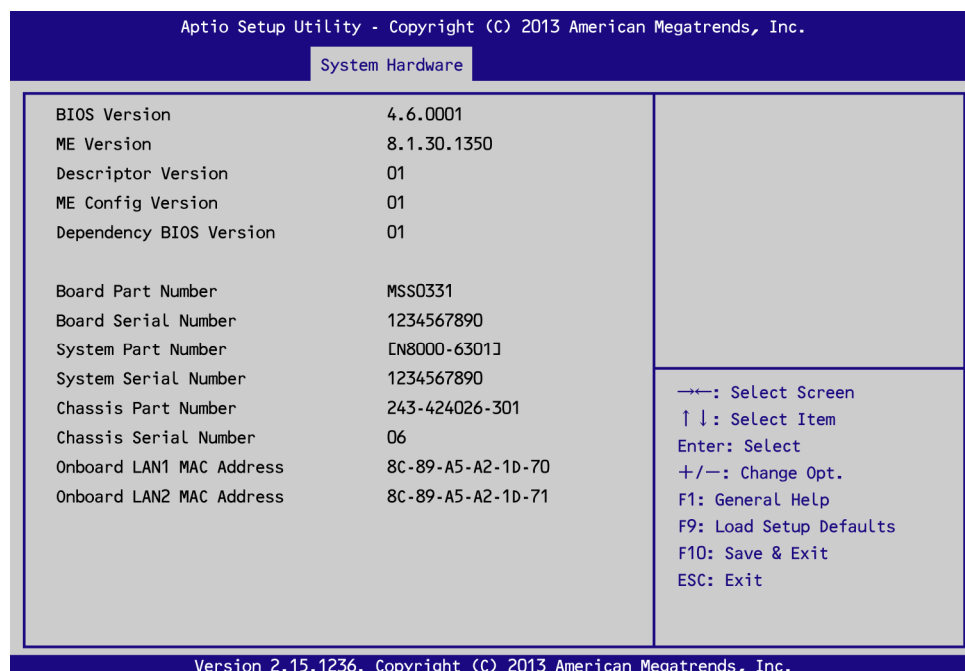
パラメーター	Shut Down(DC-Off)後のAC-OFF	突然のAC-OFF
Stay Off	DC-OFF(待機)	DC-OFF(待機)
Last State	DC-OFF(待機)	DC-Onして起動
Power On	DC-Onして起動	DC-Onして起動



- AC リンクを正しく動作させるためには、SETUP で設定後、POST の実行を完了させてください。
- POST または OS が動作しているときに強制電源 OFF した後は、いったん OS を起動し、OS のシャットダウン機能にて本機の電源を OFF にしてください。

(1) System Management サブメニュー

System Hardware メニューで[System Management]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。

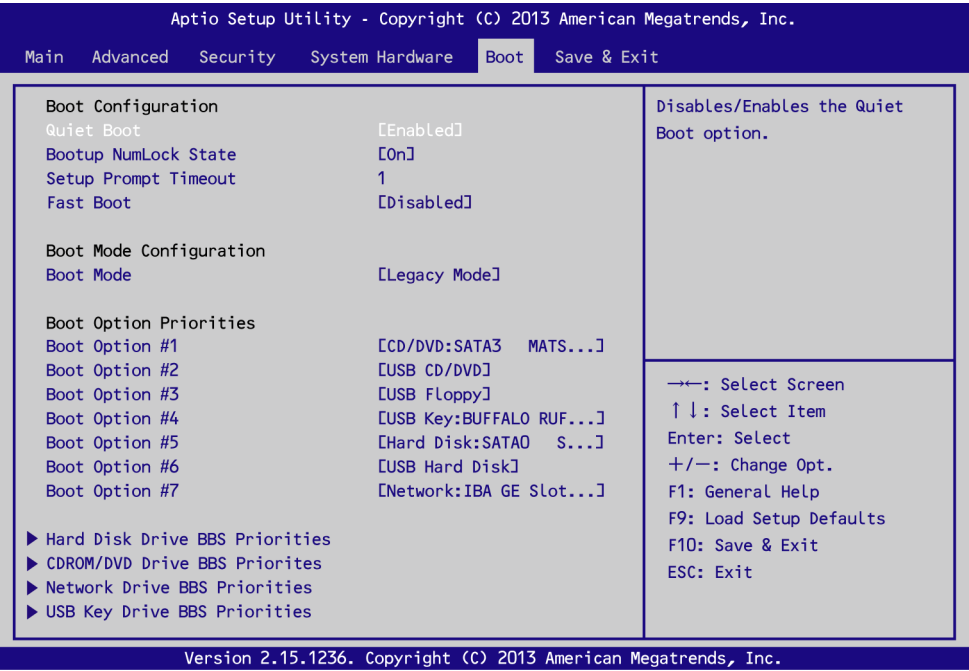


各項目については次の表を参照してください(表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
BIOS Version	—	BIOSのバージョンです。
ME Version	—	Management Engineのファームウェアバージョンです。
Descriptor Version	—	ディスクリプターのバージョンです。
ME Config Version	—	Management Engineのコンフィグレーションバージョンです。
Dependency BIOS Version	—	Management Engineと依存関係にあるBIOSのバージョンです。
Board Part Number	—	マザーボードの部品番号です。
Board Serial Number	—	マザーボードのシリアル番号です。
System Part Number	—	システムの部品番号です。
System Serial Number	—	システムのシリアル番号です。
Chassis Part Number	—	筐体の部品番号です。
Chassis Serial Number	—	筐体のシリアル番号です。
Onboard LAN1 MAC Address	—	オンボード上のLANコントローラー1のMACアドレスです。
Onboard LAN2 MAC Address	—	オンボード上のLANコントローラー2のMACアドレスです。

1.2.5 Boot メニュー

カーソルを「Boot」の位置に移動させると、起動順位を設定する Boot メニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

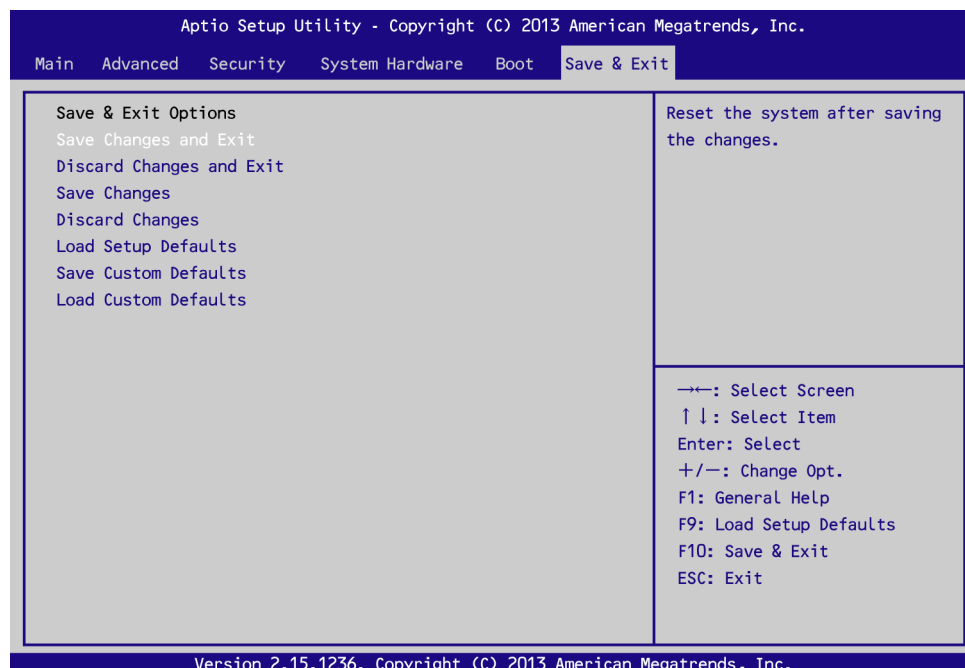
項 目	パラメーター	説 明
Boot Configuration	—	—
Quiet Boot	Disabled [Enabled]	POST中のロゴ表示機能の有効／無効を設定します。 [Disabled]に設定すると、ロゴではなくPOSTの実行内容を表示します。
Bootup NumLock State	[On] Off	キーボードのNumLockの有効／無効を設定します。
Setup Prompt Timeout	[1] ~ 30	SETUPを起動するための<F2>キーの入力待ち時間を設定します。
Fast Boot	[Disabled] Enabled	Fast Boot機能の有効／無効を設定します。 [Enabled]に設定する場合は、Boot Option PrioritiesでWindows8をインストールしたHard Diskの起動優先順位を#1に設定してください。
USB Support	Disabled [Enabled]	Fast Boot機能が有効時にUSBの初期化の有効／無効を設定します。 Fast Bootを[Enabled]に設定したときに表示します。 [Disabled]に設定した場合は、POST中にすべてのUSBデバイスは使用できなくなります。
Network Stack Support	[Disabled] Enabled	Fast Boot機能が有効時にNetwork Stackの初期化の有効／無効を設定します。 Fast Bootを[Enabled]に設定したときに表示します。 Boot ModeがUEFI Mode設定のときに選択できます。
Boot Mode Configuration	—	—
Boot Mode	UEFI Mode [Legacy Mode]	UEFI OS使用時は、[UEFI Mode]に設定してください。 それ以外のOS使用時は[Legacy Mode]に設定してください。
Boot Option Priorities	—	—
Boot Option #1~7	—	起動デバイスの優先順位が表示されます。 すべてのBoot Optionを[Disabled]に設定すると、POST終了後にSETUPを起動します。
XXXX Boot Drive BBS Priorities	—	各BBS(BIOS Boot Specification)での起動優先順位を設定します。

[]: 出荷時の設定

1. BIOS は起動可能なデバイスを検出すると、該当する表示項目にそのデバイスの情報を表示します。
2. <↑>キー／<↓>キーで変更したいデバイスへカーソルを移動させ、<+>キー／<->キーで優先順位(1 位から 14 位)を変更できます。

1.2.6 Save & Exit メニュー

カーソルを[Save & Exit]の位置に移動させると、Save & Exit メニューが表示されます。



各項目の機能は次のとおりです。

- **Save Changes and Exit**

設定した内容を保存して SETUP を終了します。
終了後、本機は自動的に再起動します。

- **Discard Changes and Exit**

設定した内容を保存せずに SETUP を終了します。SETUP 起動時の設定が引き継がれます。終了後、本機は自動的に再起動します。

- **Save Changes**

設定した内容を保存します。

- **Discard Changes**

設定した内容を破棄して、SETUP 起動時の設定に戻します。

- **Load Setup Defaults**

すべての値をデフォルト値に戻します。

- **Save Custom Defaults**

設定した内容を「カスタムデフォルト」として保存します。

- **Load Custom Defaults**

[Save Custom Defaults]で保存したカスタムデフォルトを再設定します。

2. AMT 設定手順

2.1 AMT DISABLE 設定手順

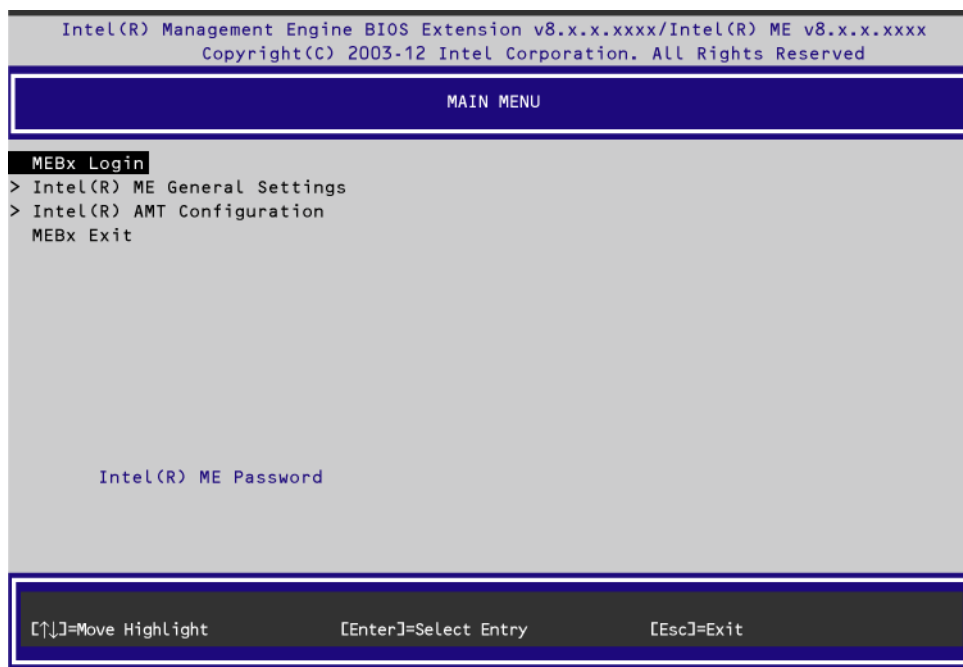
本機の AMT の初期設定は ENABLE となっています。ネットワークアダプターのチームセットアップを利用するときは、下記手順に従って DISABLE に変更してください。

2.1.1 BIOS セットアップユーティリティの AMT DISABLE 設定手順

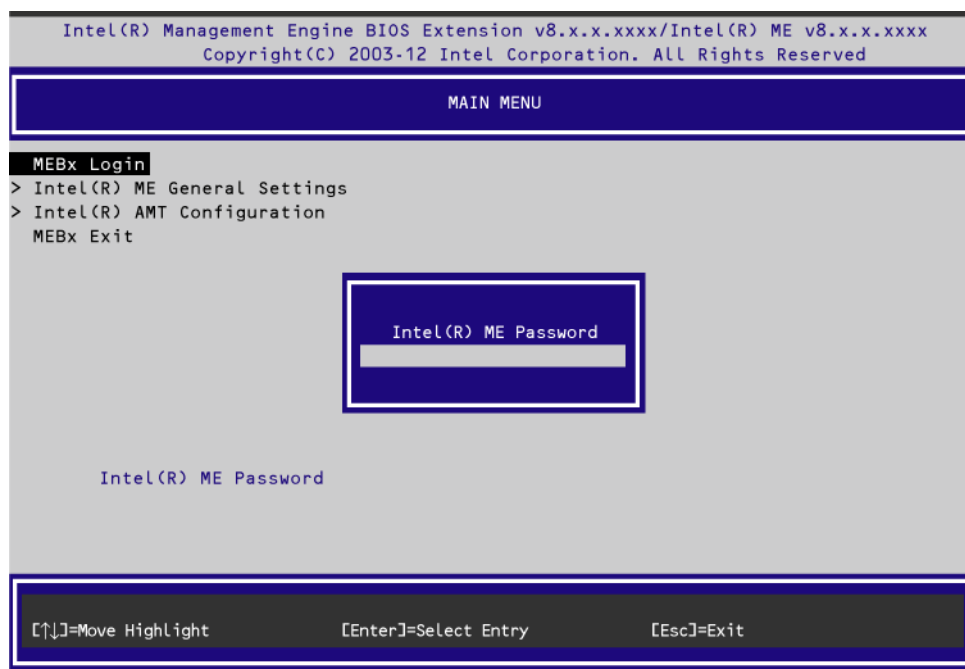
1. 電源を ON にし、「NEC」ロゴ表示のときに<F2>キーを押します。
BIOS セットアップユーティリティが起動します。
2. 「System Hardware」メニューの「ME BIOS Extension」を[Enabled]に設定します。
3. 「Save & Exit」メニューの「Save Changes and Exit」を選択し、<Enter>キーを押します。
4. 「Save configuration and exit?」と画面が表示されますので[Yes]を選択します。
設定値が保存され、BIOS セットアップユーティリティが終了し、再起動します。

2.1.2 ME BIOS Extension メニューの AMT DISABLE 設定手順

1. 「NEC」ロゴが表示されている画面で、<Ctrl>+<P>キーを押します。
ME BIOS Extension の「MAIN」メニューが表示されます。

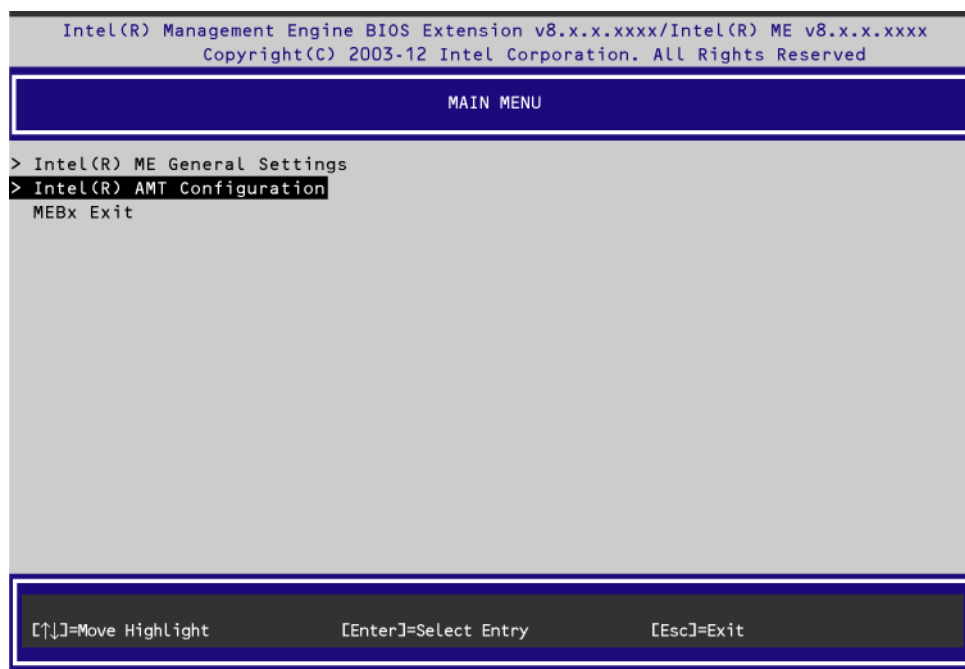


2. MEBx Login を選択して<Enter>を押します。



3. 「Intel(R) ME Password」画面では、既定の初期パスワード「admin」を入力し、<Enter>キーを押します。
4. 「Intel(R) ME New Password」画面では、新しくパスワードを設定し、<Enter>キーを押します。
パスワードは次の条件をすべて満たす「強固なパスワード」に設定することを推奨します。
- 8 文字以上 32 文字以下
 - 1 文字以上のアルファベット小文字および大文字を含むこと
 - 1 文字以上の数字 (0~9)を含むこと
 - 1 文字以上の特殊文字 (例: !、@、#など)を含むこと
5. 「Verify Password」画面では、ステップ 4 で設定したパスワードを再び入力し<Enter>キーを押します。
入力ミスがあってエラーとなったときは、<Enter>キーを押して、もう一度パスワードを入力してください。
以降、初期パスワードに代わり、このパスワードが有効になります。
6. 「ME BIOS Extension」画面が表示されます。

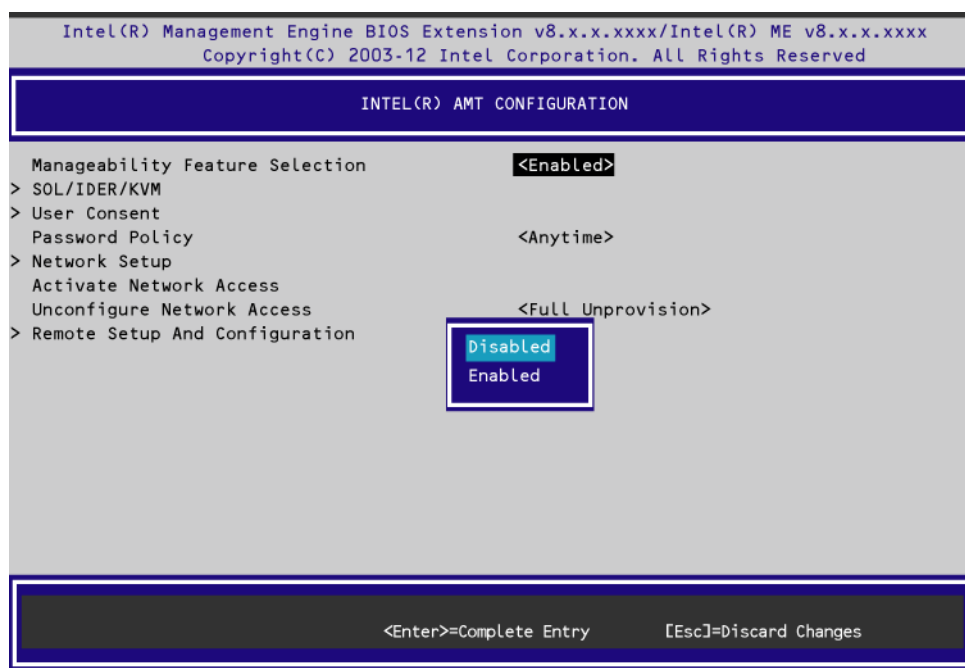
7. [Intel(R) AMT Configuration]を選択して、<Enter>キーを押します。



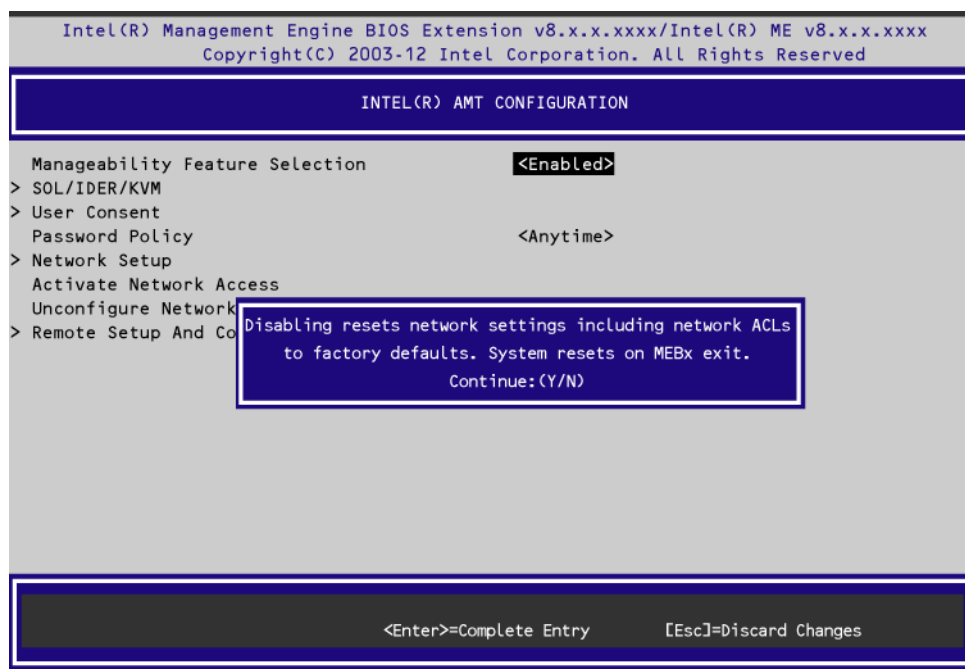
8. 「Manageability Feature Selection」を選択して<Enter>[を押します。

Disabled]を選択して、<Enter>キーを押します。

画面の表示は、プロセッサの種類によっては、「Updating Intel(R) Standard Manageability state...」と表示されます。

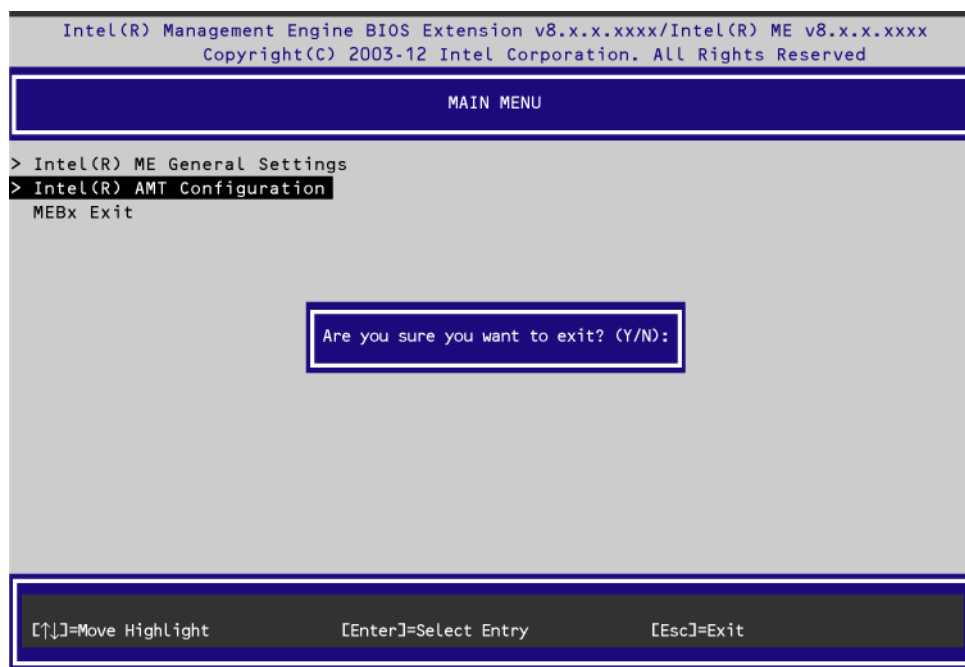


9. 以下の画面では、<Y>キーを押します。



10. <ESC>キーを2回押して画面を抜けます。

11. 以下の画面では、<Y>キーを押します。



2.2 AMT ENABLE 設定手順

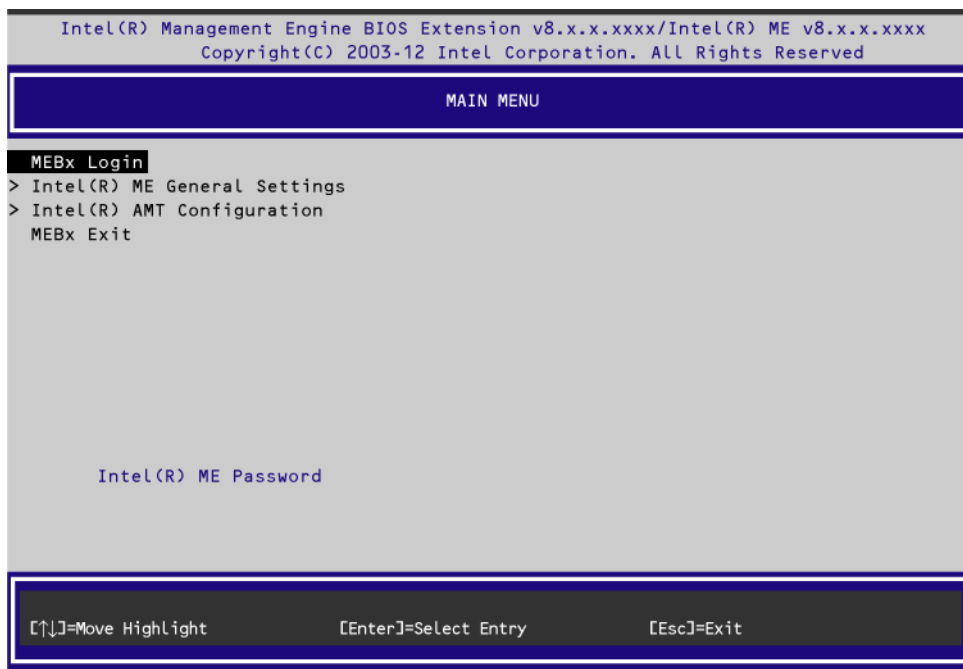
AMT の性能を利用するとき、下記手順に従って ENABLE に変更してください。なお、AMT の初期設定は ENABLE となっていますので、お客様にて DISABLE に変更されたときのみ変更が必要です。



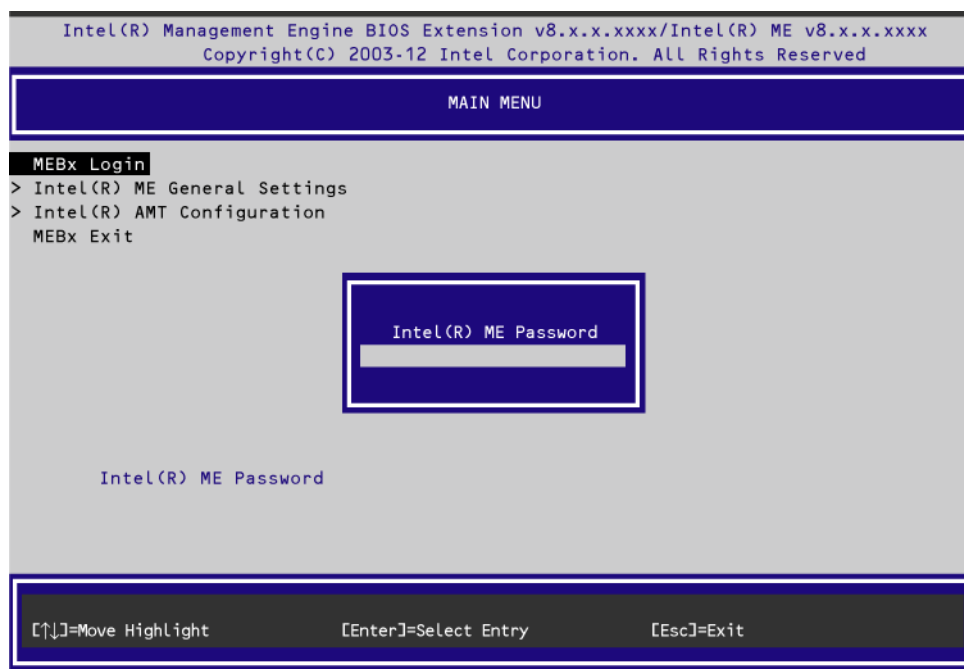
AMT を ENABLE に設定すると、ネットワークアダプターのチームセットアップが使用できません。

2.2.1 ME BIOS Extension メニューの AMT ENABLE 設定手順

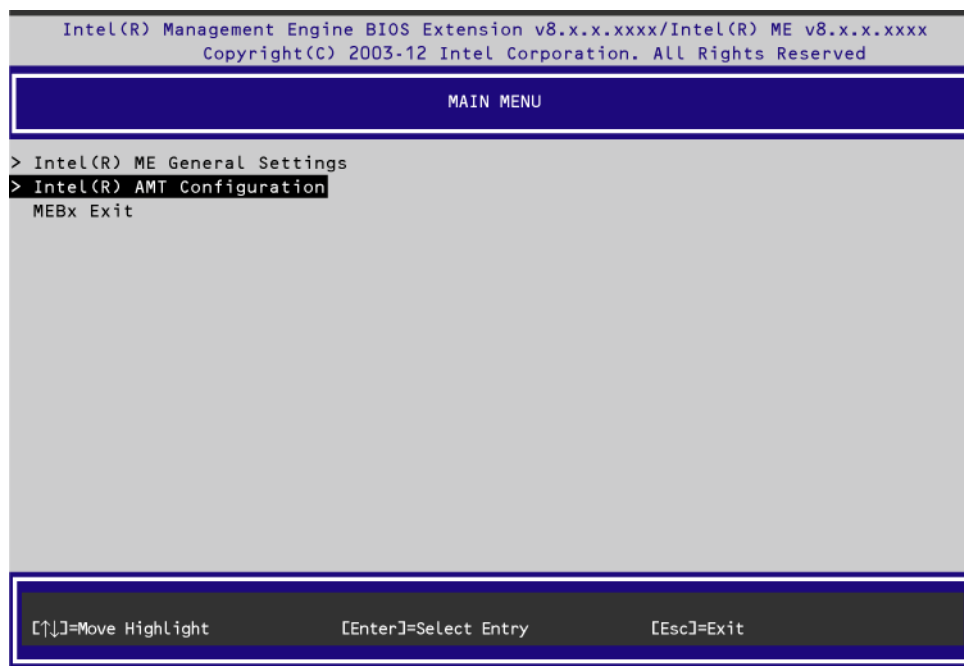
1. 「NEC」ロゴが表示されている画面で、<Ctrl>+<P>キーを押します。
ME BIOS Extension の「MAIN」メニューが表示されます。



2. MEBx Login を選択して<Enter>を押します。

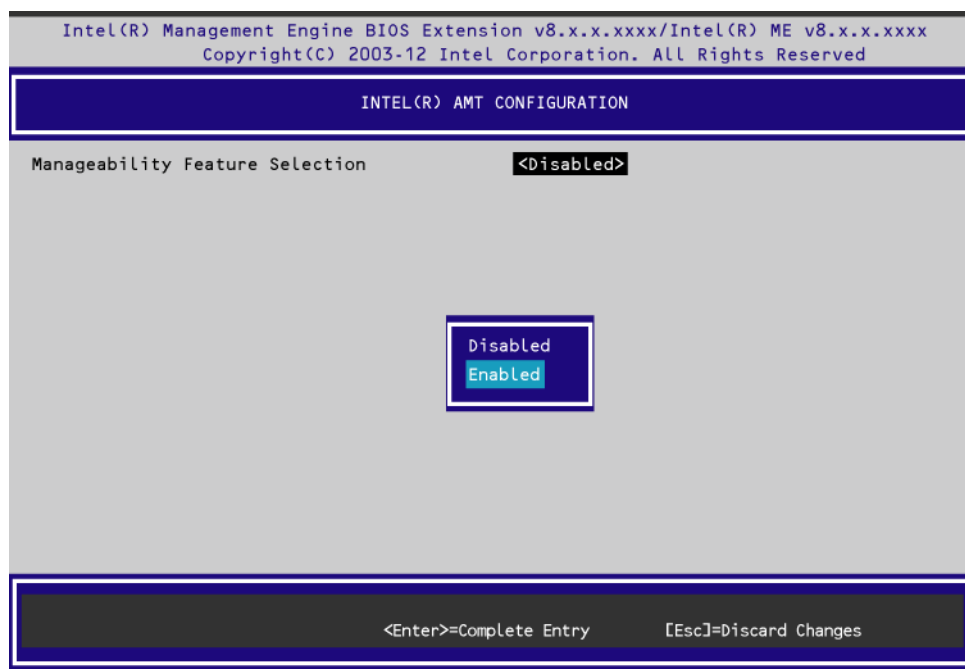


3. 「Intel(R) ME Password」画面では、お客様が設定したパスワードを入力し<Enter>キーを押します。
4. 「ME BIOS Extension」画面が表示されます。
5. [Intel(R) AMT Configuration]を選択して、<Enter>キーを押します。
プロセッサの種類によっては、表示が「Intel(R) Standard Manageability Configuration」となります。



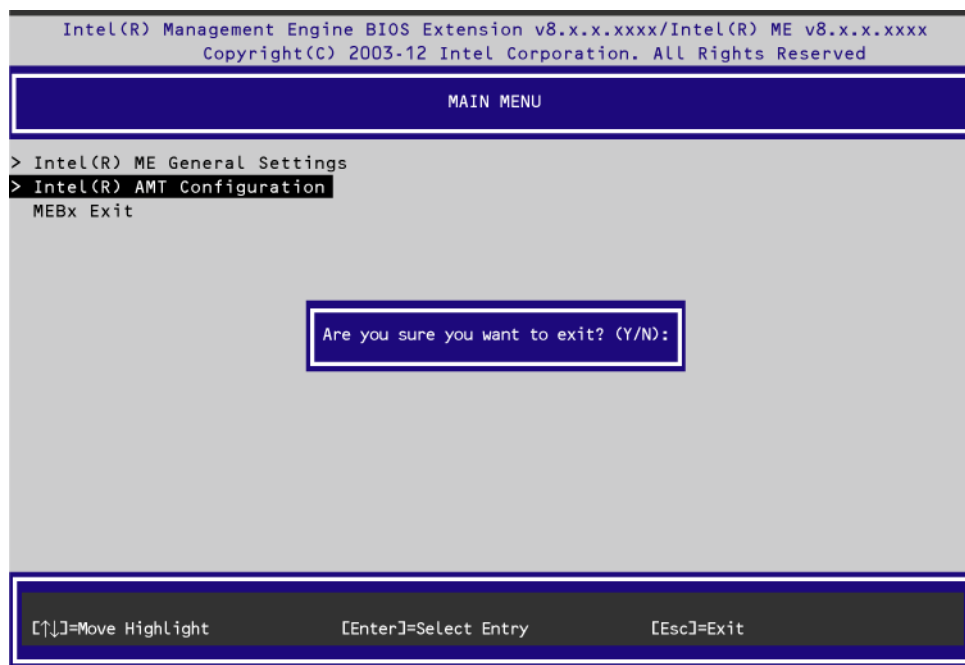
6. 「Manageability Feature Selection」を選択して<Enter>を押します。

7. [Enabled]を選択して、<Enter>キーを押します。



8. <Esc>キーを2回押して画面を抜けます。

9. 以下の画面では、<Y>キーを押します。



2.3 ME BIOS Extension メニュー

2.3.1 ME BIOS Extension MAIN メニュー

項 目	パラメーター	説 明
Intel(R) ME General Settings	—	「INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION」メニューに移動します。
Intel(R) AMT Configuration※1	—	「INTEL(R) AMT CONFIGURATION」メニューに移動します。
MEBx Exit	—	ME BIOS Extensionを終了します。設定を変更しているとき、システムが再起動することがあります。

※1：CPUの種類によっては、「Intel(R) Standard Manageability Configuration」と表示されます。

(1) INTEL(R) ME General Settings メニュー

項 目	パラメーター	説 明
Change ME Password	—	ME BIOS Extensionのパスワードを設定します。 <Enter>キーを押すと設定変更の手順に進みます。
Local FW Update	DISABLED [ENABLED] Password Protected	MEファームウェアのアップデート機能の有効／無効を設定します。
Power Control	—	「INTEL(R) ME POWER CONTROL」サブメニューに移動します。

(a) POWER CONTOROL サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
Intel(R)ME ON in Host Sleep States	[Desktop: ON in S0] Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5	スリープ状態、休止状態、および電源オフ時にME機能を有効にするかどうかを選択します。 Desktop:ON in S0 OSが稼動している状態でのみME機能が有効になります。 Desktop:ON in S0,ME Wake in S3,S4-5 OS稼動状態およびACアダプタ接続時のスリープ状態、休止状態、電源オフ状態の時にAMT機能が有効になります。 Idle Timeoutで設定した時間、MEへのアクセスが無い場合、MEは待機状態に移行します。
Idle Timeout	1 – 65535	ME無通信時に待機状態へ移行するまでの時間を設定します。(単位：分)

(2) INTEL(R) AMT CONFIGURATION メニュー

注) CPU の種類によっては、「Intel(R) Standard Manageability Configuration」と表示されます。

項 目	パラメーター	説 明
Manageability Feature Selection	DISABLED [ENABLED]	AMT機能の有効／無効を設定します。
SOL/IDER/KVM※ ¹ ※ ²	—	「SOL/IDER/KVM」サブメニューへ移動します。
User Consent※ ¹	—	「USER CONSENT CONFIGURAION」サブメニューへ移動します。
Password Policy※ ¹	Default Password Only During Setup And Configuration [Anytime]	Password Policy を設定します。
Network Setup※ ¹	—	「INTEL(R) ME NETWORK SETUP」サブメニューに移動します。
Activate Network Access※ ¹	—	ME BIOS Extension内で設定した値を反映させ、Intel MEをサービス提供状態にします。 ME BIOS Extension内の必要な設定を行った後でこの項目を選択すると、メッセージが表示されるので<Y>キーを押してください。 SOL/IDER/KVM等の実行後は、この項目は表示されません。再度表示させるには、[Unconfigure Network Access]を選択し、「Full Unprovision」を実行してください。
Unconfigure Network Access※ ¹	Full Unprovision	Intel MEをサービス提供前の状態に戻し、Intel BIOS Extensionの設定を出荷時状態に戻します。 一部設定を保存し、Intel MEをサービス提供前の状態に戻し、Intel BIOS Extensionの設定を出荷時状態に戻します。
Remote Setup And Configuration※ ¹	—	「INTEL(R) AUTOMATED SETUP AND CONFIGURATION」サブメニューに移動します。

※¹ : 「Manageability Feature Selection」を「ENABLED」に設定している場合のみ表示されます。

※² : CPUの種類によっては、KVMは表示されません。

(a) SOL/IDER/KVM サブメニュー

設定項目が順番に表示されます。項目ごとに設定値を入力してください。

項 目	パラメーター	説 明
Username & Password	DISABLED [ENABLED]	SOL/IDE-R使用時にユーザー認証を行うかを設定します。
SOL	DISABLED [ENABLED]	SerialOverLAN機能の有効／無効を設定します。 なお、本機能を有効にした場合、COMポートを占有します。
IDER	DISABLED [ENABLED]	IDE Redirection機能の有効／無効を設定します。
KVM Feature selection※ ¹	DISABLED [ENABLED]	KVM機能の有効／無効を設定します。
Legacy Redirection Mode	[DISABLED] ENABLED	Intel AMT 6.0より前のバージョンの機器と接続し、SOL/IDE-Rを使用する場合にはこの設定を[ENABLED]に変更してください。

※1：CPUの種類によっては、メニューがありません。

(b) USER CONSENT サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
User Opt-in	[None] ※ ¹ [KVM] ※ ² All	リモートからの接続方法を設定します。
Opt-in Configurable from Remote IT	Disable [Enable]	KVM Opt-in Policyの有効／無効を設定します。

※1：KVMが表示されない場合は、「None」がデフォルトとなります。

※2：CPUの種類によっては、設定がありません。設定がある場合は、「KVM」がデフォルトとなります。

(c) NETWORK SETUP サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
Intel(R) ME Network Name Settings	—	「INTEL(R) ME NETWORK NAME SETTINGS」サブメニューに移動します。
TCP/IP Settings	—	「TCP/IP SETTINGS」サブメニューに移動します。

● INTEL(R) ME NETWORK NAME SETTINGS サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
Host Name	(文字列)	本機AMTのコンピューターネームを設定します。
Domain Name	(文字列)	本機AMTのドメインネームを設定します。
Shared/Dedicated FQDN	DEDICATED [SHARED]	Intel MEのFQDN(完全修飾ドメイン名)をOSで認識されるドメイン名と共有するか、MEでのみ使用するかを設定します。
Dynamic DNS Update	[DISABLED] ENABLED	DDNSプロトコルを使用しIPアドレスとFQDNをDNSに登録するかを設定します。

● TCP/IP SETTINGS サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
Wired LAN IPV4 Configuration	—	「WIRED LAN IPV4 CONFIGURATION」サブメニューに移動します。

— WIRED LAN IPV4 CONFIGURATION サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
DHCP Mode	DISABLED [ENABLED]	ネットワークのDHCP機能よりIP設定を自動で行うか設定します。
IPV4 Address	xxx.xxx.xxx.xxx	IPアドレスを設定します。 DHCP1Modeが「DISABLED」の場合に設定できます。
Subnet Mask Address	xxx.xxx.xxx.xxx	サブネットマスクを設定します。 DHCP1Modeが「DISABLED」の場合に設定できます。
Default Gateway Address	xxx.xxx.xxx.xxx	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。 DHCP1Modeが「DISABLED」の場合に設定できます。
Preferred DNS Address	xxx.xxx.xxx.xxx	DNSサーバのIPアドレスを設定します。 DHCP1Modeが「DISABLED」の場合に設定できます。
Alternate DNS Address	xxx.xxx.xxx.xxx	代替DNSサーバのIPアドレスを設定します。 DHCP1Modeが「DISABLED」の場合に設定できます。

(d) Remote Setup And CONFIGURATION サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
Current Provisioning Mode	—	現在のプロビジョニングTLSモードを表示します。 PKI、PSKまたはNoneが表示されます。
Provisioning Record	—	PKI/PSKプロビジョニング記録データを表示します。
Provisioning Server IPv4/IPv6	(文字列)	Intel AMTプロビジョニングサーバのIPアドレスと ポート番号を設定します。
Provisioning Server FQDN	(文字列)	Intel AMTプロビジョニングサーバのFQDNを設定し ます。
RCFG		「INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION(RCFG)」サ ブメニューに移動します。
TLS PSK	—	「INTEL(R) TLS PSLREMOTE CONFIGURATION(TLS PSK)」サブメニューに移動します。
TLS PKI	—	「INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION(TLS PKI)」 サブメニューに移動します。

● INTEL(R) REMOTE SETUP AND CONFIGURATION(RCFG)サブメニュー

項 目	パラメーター	説 明
Start Configuration (Halt Configuration)	Y / N	Remote Configuration を動作(停止)状態にします。

● INTEL(R) REMOTE SETUP AND CONFIGURATION(TLS PSK)

項 目	パラメーター	説 明
Set PID and PPS **	—	PID/PPSを設定します。設定については「Set PID and PPS」サブメニューをご覧ください。
Delete PID and PPS **	—	設定したPID/PPSを削除します。確認の画面では、削 除する場合は<Y>キーを、キャンセルする場合は<N> キーを押してください。

— Set PID and PPS サブメニュー

設定項目が順番に表示されます。項目ごとに設定値を入力してください。

項 目	パラメーター	説 明
Enter PID	xxxx-xxxx	PIDを設定します。
Enter PPS	xxxx-xxxx-xxxx-xxxx- xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-	PPSを設定します。

● INTEL(R) REMOTE SETUP AND CONFIGURATION(TLS PKI)

項 目	パラメーター	説 明
Remote Configuration **	DISABLED [ENABLED]	リモートでProvisioningを行うかどうかを設定します。
PKI DNS Suffix	(文字列)	PKIのDNS Suffixを設定します。
Manage Hashes	—	詳細情報を表示、編集します。

3. RAID システムのコンフィグレーション

ここでは、RAID コンフィグレーションユーティリティ、LSI Software RAID Configuration Utility について説明します。

このユーティリティは、LSI Embedded MegaRAID に常駐するため、その操作は OS から独立しています。

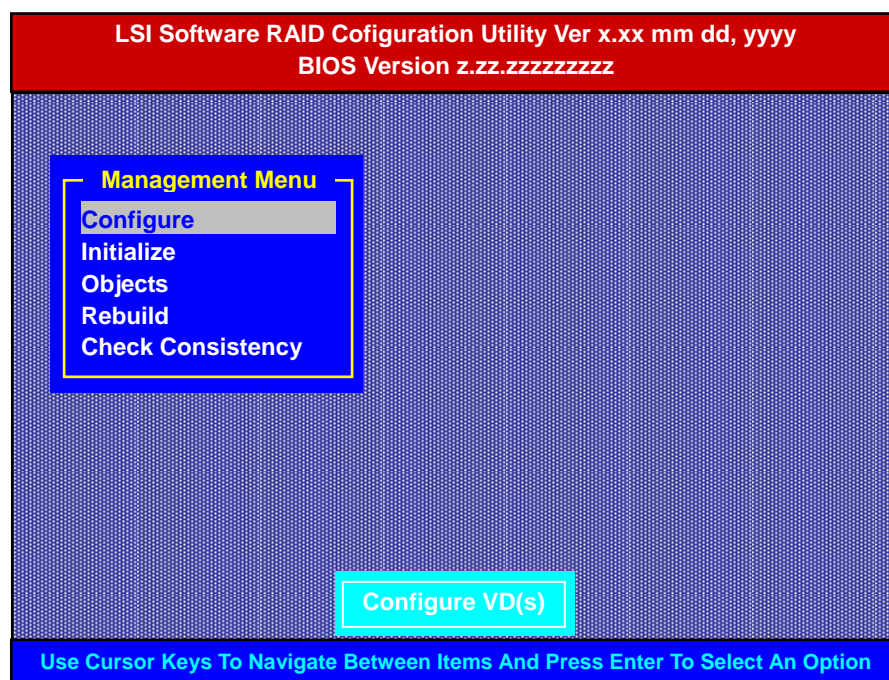
3.1 LSI Software RAID Configuration Utility の起動

本機の電源投入後、POST 画面で次のメッセージが表示されたとき、<Ctrl>+<M>キーまたは<Enter>キーを押してください。LSI Software RAID Configuration Utility が起動します。

Press Ctrl-M or Enter to run LSI Software RAID Configuration Utility



キー操作が間に合わず、次の画面が表示されなかったときは、再起動して<Ctrl>+<M>キーを押してください。



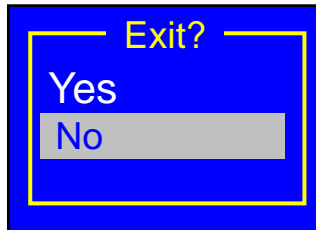
*1: LSI Software RAID Configuration Utility Verx.xx の x は、Utility のバージョンが表示されます。

*2: mm dd, yyy は、Utility の作成日付が表示されます。

*3: BIOS Version z.zz.zzzzzzzzz の z は、LSI Sftware RAID BIOS のバージョンが表示されます。

3.1.1 LSI Software RAID Configuration Utility の終了

LSI Software RAID Configuration Utility を終了するときは、TOP メニューで<Esc>キーを押します。



[Yes]を選択します。

Press<CTRL><ALT> To Reboot The System

上記メッセージが表示されたときは、<Ctrl>+<Alt>+キーを押します。本機が再起動します。

3.2 メニューツリー

◇ : 選択・実行パラメーター ● : 設定パラメーター ・ : 情報表示

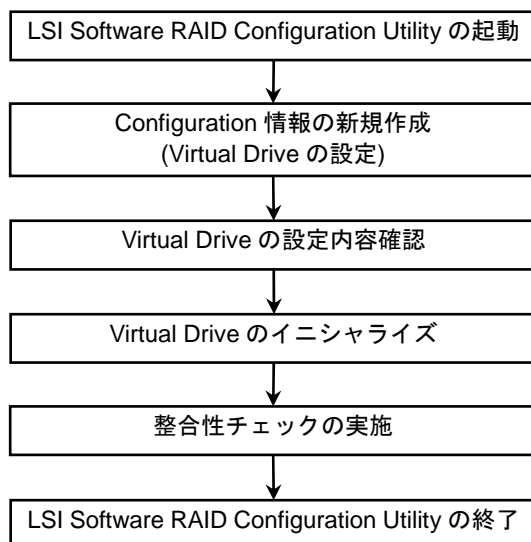
◆ : Virtual Drive 生成後設定（変更）可能

メニュー	説明
◇Configure	Configurationの設定
◇Easy Configuration	Configurationの設定(固定値使用)
◇New Configuration	Configurationの新規設定
◇View/Add Configuration	Configurationの追加設定、表示
◇Clear Configuration	Configurationのクリア
◇Select Boot Drive	起動するVirtual Driveの選択
◇Initialize	Virtual Driveの初期化
◇Objects	各種設定
◇Adapter	RAIDコントローラーの設定
◇Sel. Adapter	アダプターの選択
●Rebuild Rate	30(RebuildのIOの割合)
●Chk Const Rate	30(整合性チェックのIOの割合)
●FGI Rate	30(Foreground InitializeのIOの割合)
●BGI Rate	30(Background InitializeのIOの割合)
●Disk WC	Off(AdapterのWrite Cashの使用有無の設定、LSI Software RAIDでは使用しません)
●Read Ahead	On(HDDのRead Aheadの使用有無の設定)
●Bios State	Enable (LSI Software RAID BIOSの有効/無効の設定)
●Cont on Error	Yes(LSI Software RAID BIOSでエラーを検出した時、POSTで停止するか/しないかの設定)
●Fast Init	Enable(Fast Initializeの有効/無効の設定)
●Auto Rebuild	On(自動Rebuildの有効/無効の設定)
●Auto Resume	Enable(リビルド中、整合性チェック中にシステムを再起動した時、再起動後に自動で継続するかの設定)
●Disk Coercion	1GB(異なるHDDのサイズを強制的に丸める設定)
●Factory Default	デフォルト値に設定

◇Virtual Drive	Virtual Driveの操作
◇Virtual Drives	Virtual Driveの選択(Virtual Driveが複数存在する場合は選択する)
◇Initialize	Virtual Driveの初期化
◇Check Consistency	Virtual Driveの整合性チェック
◇View/Update Parameters	Virtual Driveの情報表示
・ RAID	RAIDレベルの表示
・ SIZE	Virtual Driveの容量表示
・ Stripe SIZE	ストライプサイズの表示
・ #Stripes	Virtual Driveを構成しているハードディスクドライブ数の表示
・ State	Virtual Driveの状態表示
・ Spans	Virtual Driveのスパンの設定表示
・ Disk WC	Virtual Driveのライトキャッシュの設定表示
・ Read Ahead	Virtual Driveのリードアヘッドの設定表示
◇Physical Drive	物理ドライブの操作
◇Physical Drive Selection Menu	物理ドライブの選択
◇Make HotSpare	オートリビルド用ホットスペアディスクの設定
◇Force Online	ハードディスクドライブを強制的にオンラインにする
◇Change Drv State	Virtual Driveを構成しているハードディスクドライブの場合は、強制的にオフラインにする ホットスペアに設定されているハードディスクドライブの場合は、設定を解除する
◇Device Properties	ハードディスクドライブ情報の表示
・ Device Type	デバイス種類
・ Capacity	容量
・ Product ID	型番
・ Revision No.	レビジョン
・ Link Speed	転送速度
◇Rebuild	リビルドの実行
◇Check Consistency	Virtual Driveの整合性チェック

3.3 LSI Software RAID Configuration Utility 操作手順

3.3.1 Configuration の新規作成/追加作成



1. LSI Software RAID Configuration Utility を起動します。
2. TOP メニュー(Management Menu)より、[Configure] → [New Configuration]を選択します。
追加作成の場合は、[View/Add Configuration]を選択します。

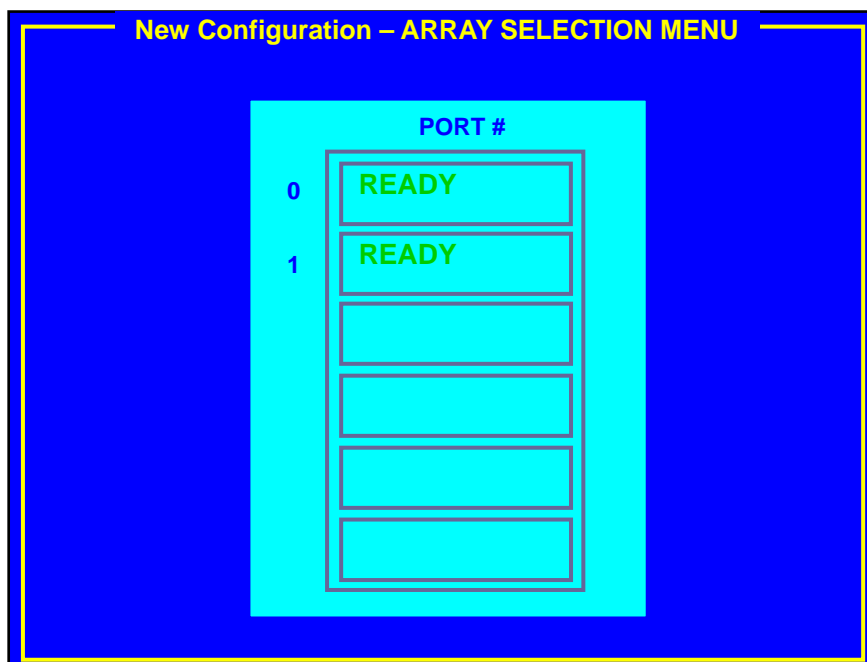
**重要**

「New Configuration」で Configuration を作成すると、既存のコンフィグレーション情報をクリアします。既存のコンフィグレーション情報に追加するときは、「View/Add Configuration」を選択してください。

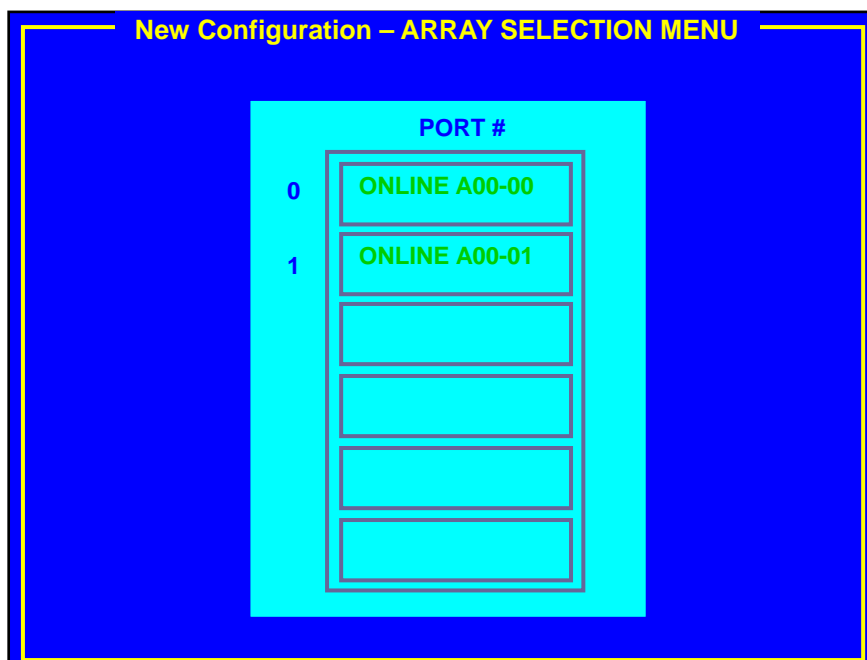
**チェック**

- 「Easy Configuration」は Virtual Drive の容量を指定できません。容量を指定するときは、「New Configuration」または「View/Add Configuration」で作成します。
- RAID0 の場合は、「整合性のチェックの実施」はスキップしてください。

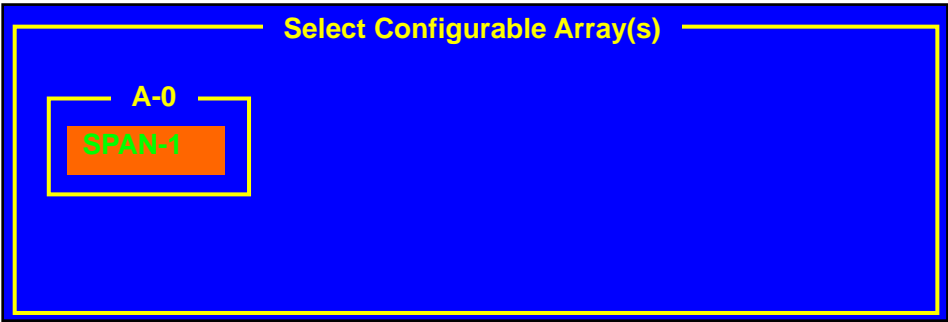
3. 確認のメッセージ(Proceed?)が表示されますので、[Yes]を選択します。
「New Configuration - ARRAY SELECTION MENU」画面が表示されます。



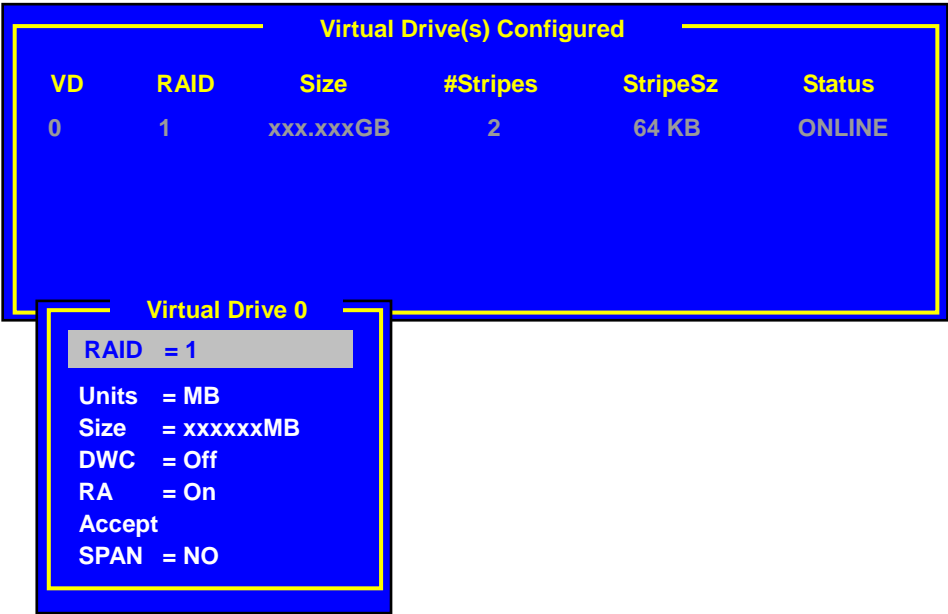
4. ディスクアレイに参加させたいハードディスクドライブにカーソルを合わせ、スペースキーを押します。
ハードディスクドライブが選択されます（選択ハードディスクドライブの表示が「READY」から「ONLINE」になります）。



5. <F10>キーを押して、Select Configurable Array(s)を設定し、スペースキーを押します。
SPAN-1 が設定されます。



6. <F10>キーを押して Virtual Drive を作成します。
「Virtual Drives Configure」画面が表示されます(下図は、ハードディスクドライブ 2 台、RAID1 の例です。xxx.xxxGB には容量が表示されます)。



7. カーソルキーで「RAID」、「Units」、「Size」、「DWC」、「RA」および「Span」を選択します。
<Enter>キーで確定し、各項目を設定します。
- (1) 「RAID」：RAID レベルを設定します。

パラメーター	備考
0	RAID0
1	RAID1

ディスクアレイに参加するハードディスクドライブの数によって、選択可能な RAID レベルが変わります。



[RAID5]の選択画面が表示されることがありますが、本機では[RAID5]をサポートしておりません。

- (2) 「Units」：「Size」で指定する単位（MB、GB または TB）を設定します。
- (3) 「Size」：Virtual Drive の容量を指定します。Virtual Drive は最大 8 個まで作成できます。
- (4) 「DWC」：Disk Write Cache を設定します。

パラメーター	備 考
Off	ライトスルー
On*	ライトバック

* 推奨設定

※ 本機では性能を考慮し推奨設定は「On」にしています。「On」設定の場合、突然の電源断でキャッシュデータが消失する可能性がありますのでご注意ください。
なお「Off」へ変更した場合、性能が「On」の場合と比較しておよそ50%以下に低下します。

- (5) 「RA」：Read Ahead を設定します。

パラメーター	備 考
Off	先読みを行わない
On*	先読みを行う

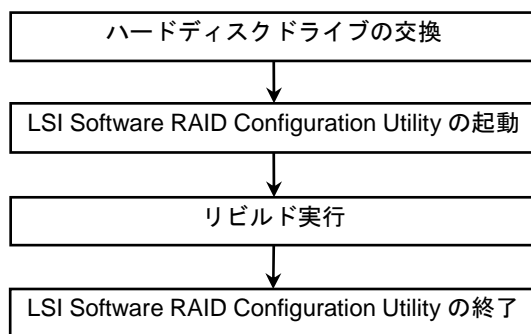
* 推奨設定

- (6) 「Span」：Span を設定します。

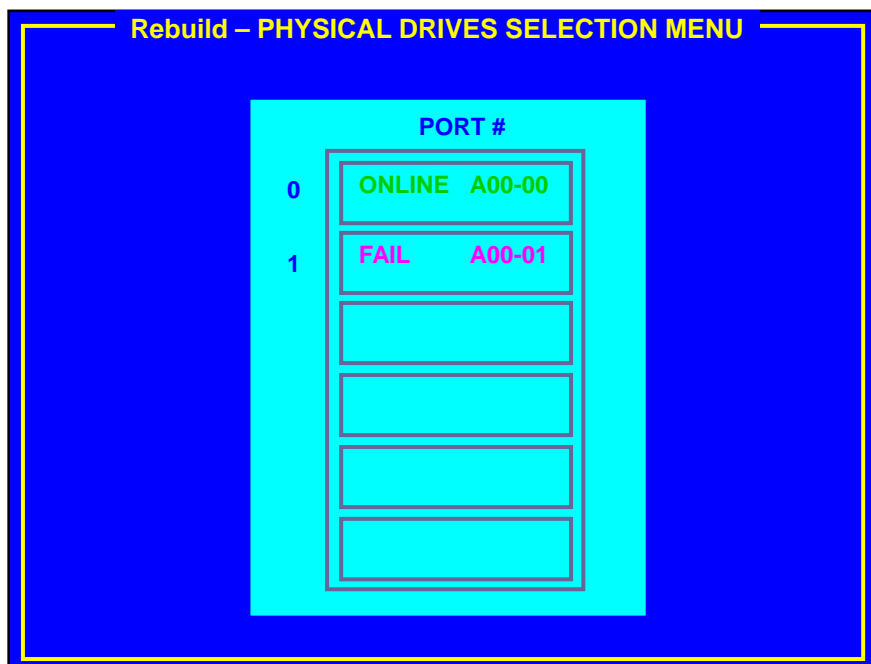
本機では使用しません。

8. すべての設定が完了したときは、[Accept]を選択して<Enter>キーを押します。
9. <ESC>キーを押し、「Save Configuration?」で[Yes]を選択します。
Configuration がセーブされます。
10. <Esc>キーで TOP メニューまで戻ります。
11. TOP メニューより[Objects] → [Virtual Drive] → [View/Update Parameters]を選択して Virtual Drive の情報を確認します。
12. <Esc>キーで TOP メニューまで戻り、[Initialize]を選択します。
13. 「Virtual Drives」画面からイニシャライズする Virtual Drive にカーソルを合わせ、スペースキーを押します。
Virtual Drive が選択されます。
14. <F10>キーを押します。
15. [Yes]を選択すると、イニシャライズが始まります。
「Init Of VD Is In Progress」画面の Completed 表示が 100%になったとき、イニシャライズは完了です。
<Esc>キーで TOP メニューまで戻ります。
16. RAID1 のときは、イニシャライズ完了後に整合性チェックを実行します。
詳細は、本書の「2 章(3.3.4 整合性チェック)」を参照してください。
17. <Esc>キーで TOP メニューまで戻り、ユーティリティを終了します。

3.3.2 マニュアルリビルド

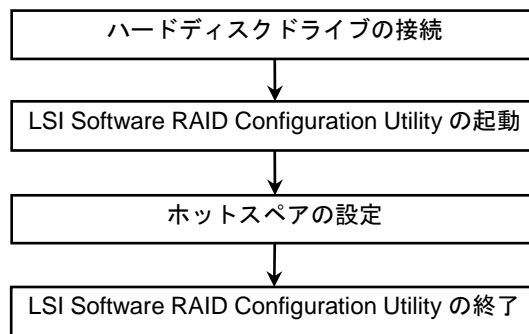


1. ハードディスクドライブを交換し、本機を起動します。
2. LSI Software RAID Configuration Utility を起動します。
3. TOP メニューより、[Rebuild]を選択します。
「Rebuild -PHYSICAL DRIVES SELECTION MENU」画面が表示されます。

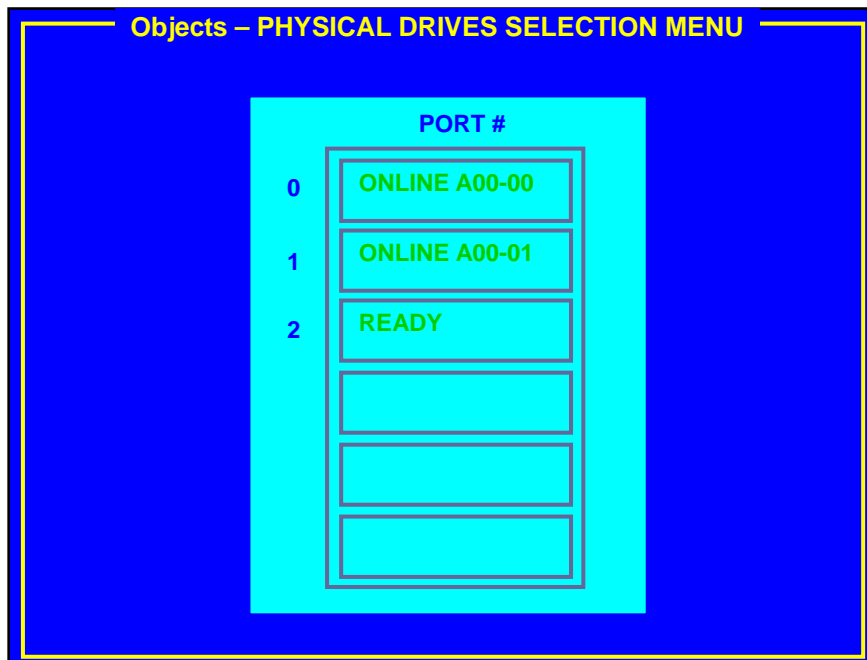


4. 「FAIL」のハードディスクドライブにカーソルを合わせ、スペースキーで選択します。
ハードディスクドライブが選択されると、「FAIL」の表示がピンク色に変わります。
5. ハードディスクドライブを選択後、<F10>キーを押します。
6. [Yes]を選択すると、リビルドが始まります。
「REBUILDING」画面の Completed 表示が 100%になったとき、リビルドは完了です。
7. <Esc>キーで TOP メニューまで戻り、LSI Software RAID Configuration Utility を終了します。

3.3.3 ホットスペアの設定

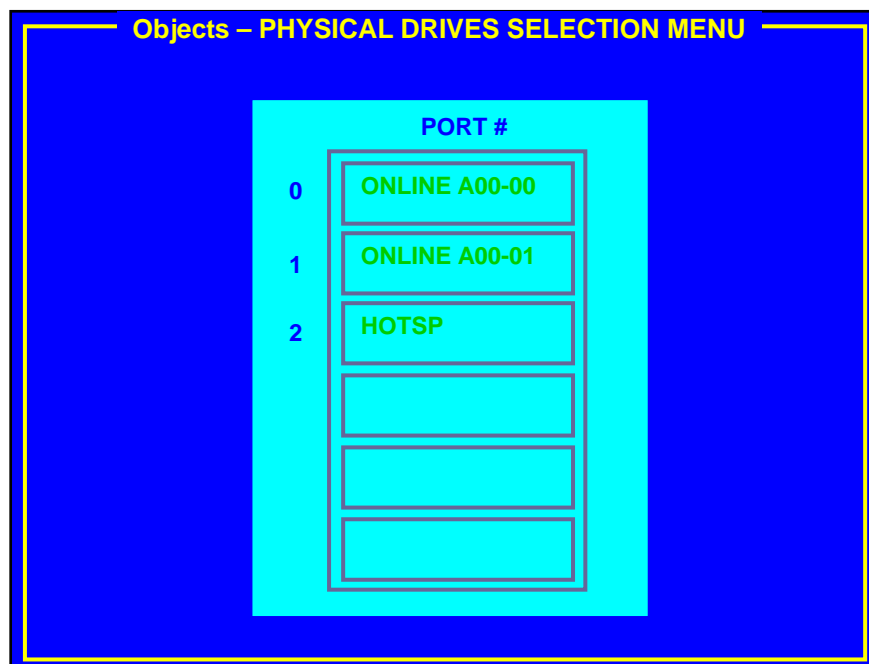


1. ホットスペア用のハードディスクドライブを接続し、本機を起動します。
2. LSI Software RAID Configuration Utility を起動します。
3. TOP メニューより、[Objects] → [Physical Drive]を選択します。
「Objects - PHYSICAL DRIVE SELECTION MENU」画面が表示されます。



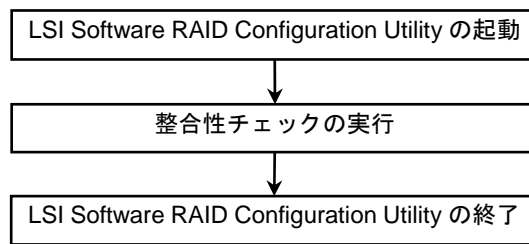
4. ホットスペアにするハードディスクドライブにカーソルを合わせて<Enter>キーを押します。
5. [Make Hot Spare]を選択します。
6. [Yes]を選択すると、ハードディスクドライブの表示が「HOTSP」になります。

7. <Esc>キーで TOP メニューまで戻り、LSI Software RAID Configuration Utility を終了します。



- ホットスペアの設定を取り消す場合は、[Objects] → [Physical Drive]へと進み、解除したいハードディスクドライブにカーソルを合わせて<Enter>キーを押し、[Change Drv State]を選択します。
- ホットスペア設定のハードディスクドライブが複数(同一容量)ある場合は、「Port#」(上記画面左の数字)が小さいハードディスクドライブから順にリビルドされます。

3.3.4 整合性チェック



RAID0 の場合は、整合性チェックを実行しないでください。

1. LSI Software RAID Configuration Utility を起動します。
2. TOP メニューより、[Check Consistency]を選択します。
「Virtual Drives」の画面が表示されます。
3. 整合性チェックを行う Virtual Drive にカーソルを合わせ、スペースキーを押します。
Virtual Drive が選択されます。
4. <F10>キーを押します。
5. [Yes]を選択すると、整合性チェックが始まります。
「CC Under Progress」画面の Completed 表示が 100%になったとい、整合性チェックは完了です。
6. <Esc>キーで TOP メニューまで戻り、LSI Software RAID Configuration Utility を終了します。

3.3.5 その他

(1) Clear Configuration

コンフィグレーション情報をクリアします。TOP メニューより、[Configure] → [Clear Configuration]を選択します。「Clear Configuration」を実行すると、すべてのコンフィグレーション情報がクリアされます。

ハードディスクドライブに、以前使用していたコンフィグレーション情報が残っている場合、コンフィグレーションを正常に作成できないことがあります。その場合、「Clear Configuration」を実行してください。



Virtual Drive の削除は、[Objects] → [Virtual Drive] → 削除する Virtual Drive にカーソルを合わせて<Delete>キーを押します。[Want To Delete A VD?]の確認メッセージが表示されますので、[Yes]を選択します。

(2) Force Online

FAIL 状態のハードディスクドライブを強制的にオンラインにします。

TOP メニューより、[Objects] → [Physical Drive] → ハードディスクドライブ選択→[Force Online]を選択します。

(3) Rebuild Rate

Rebuild Rate を設定します。

TOP メニューより、[Objects] → [Adapter] → [Rebuild Rate]を選択します。

0%~100%の範囲で設定します。デフォルト値は(設定推奨値) 30%です。

(4) ハードディスクドライブ情報

ハードディスクドライブの情報を表示します。

TOP メニューより、[Objects] → [Physical Drive] → ハードディスクドライブ選択 → [Drive Properties]を選択します。

3.4 LSI Software RAID Configuration Utility と Universal RAID Utility

LSI Software RAID Configuration Utility と Universal RAID Utility を併用する上で留意すべき点について説明します。

(1) 用語の差分について

LSI Software RAID Configuration Utility と Universal RAID Utility は、使う用語に差分があります。以下の表を参照し、用語を読み替えてください。

LSI Software RAID Configuration Utilityの用語	Universal RAID Utilityの用語	
	RAIDビューア	raidcmd
Adapter	RAIDコントローラー	RAID Controller
Virtual Drive	論理ドライブ	Logical Drive
Array	ディスクアレイ	Disk Array
Physical Drive	物理デバイス	Physical Device



raidcmd は Universal RAID Utility が提供するコマンドです。詳細については「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

(2) 管理番号の差分について

RAID コントローラーの各情報で使われる番号(管理番号)は、LSI Software RAID Configuration Utility と Universal RAID Utility で表示が異なります。以下の表を参照してください。

詳細については「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

項 目	管理番号	
	LSI Software RAID Configuration Utility	Universal RAID Utility
Adapter(RAIDコントローラー)	0から始まる数字	1から始まる数字
Virtual Drive(論理ドライブ)	0から始まる数字	1から始まる数字
Array(ディスクアレイ)	0から始まる数字	1から始まる数字
Physical Drive(物理デバイス)	0から始まる数字	物理デバイスを収納する エンクロージャと、スロットの番 号を元に割り当て

(3) 優先度の設定

LSI Software RAID Configuration Utility では、RAID コントローラーのリビルド優先度、整合性チェック優先度の設定項目を数値で表示、設定しますが、Universal RAID Utility は、高、中、低の 3 つのレベルで表示、設定します。それぞれの項目ごとの数値とレベルの対応については、以下の表を参照してください。

[LSI Software RAID Configuration Utility の設定値と Universal RAID Utility の表示レベル]

項 目	LSI Software RAID Configuration Utility の設定値	Universal RAID Utility 表示レベル
リビルド優先度 LSI Software RAID Configuration Utilityの Rebuild Rate	15～100	高(High)
	8～14	中(Middle)
	0～7	低(Low)
整合性チェック優先度 LSI Software RAID Configuration Utilityの Chk Const Rate	15～100	高(High)
	8～14	中(Middle)
	0～7	低(Low)

[Universal RAID Utility でレベル変更時に設定する値]

項 目	Universal RAID Utility 選択レベル	設定値
リビルド優先度 LSI Software RAID Configuration Utilityの Rebuild Rate	高(High)	20
	中(Middle)	10
	低(Low)	5
整合性チェック優先度 LSI Software RAID Configuration Utilityの Chk Const Rate	高(High)	20
	中(Middle)	10
	低(Low)	5



- LSI Software RAID Configuration Utility では、FGI（フォアグラウンドイニシャライズ）、BGI Rate（バックグラウンドイニシャライズの優先度）を設定できますが、Universal RAID Utility ではバックグラウンドイニシャライズの優先度は設定できません。
- Universal RAID Utility は、初期化優先度を設定できますが、「LSI Embedded MegaRAID」に対して、初期化優先度を設定できません。そのため、RAID ビューアのプロパティの［オプション］タブに［初期化優先度］の項目を表示しません。

3.5 WebBIOS と Universal RAID Utility

WebBIOS と Universal RAID Utility を併用する上で留意すべき点について説明します。

(1) 用語の差分について

WebBIOS と Universal RAID Utility は、使う用語に差分があります。以下の表を参照し、用語を読み替えてください。

WebBIOSの用語	Universal RAID Utilityの用語	
	RAIDビューア	raidcmd
Adapter	RAIDコントローラー	RAID Controller
Virtual Drive	論理ドライブ	Logical Drive
Drive Group	ディスクアレイ	Disk Array
Drive	物理デバイス	Physical Device



raidcmd は Universal RAID Utility が提供するコマンドです。詳細については「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

(2) 管理番号の差分について

RAID コントローラーの各情報で使われる番号(管理番号)は、WebBIOS と Universal RAID Utility で表示が異なります。以下の表を参照してください。

詳細については「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

項 目	管理番号	
	WebBIOS	Universal RAID Utility
Adapter(RAIDコントローラー)	0から始まる数字	1から始まる数字
Virtual Drive(論理ドライブ)	0から始まる数字	1から始まる数字
Drive Group(ディスクアレイ)	0から始まる数字	1から始まる数字
Drive(物理デバイス)	0から始まる数字	物理デバイスを収納する エンクロージャと、スロットの番号を元に割り当て

(3) 優先度の設定

WebBIOS では、RAID コントローラーのバックグラウンドタスク(リビルド、パトロールリード、整合性チェック)の優先度を数値で設定、表示しますが、Universal RAID Utility は、高、中、低の 3 つのレベルで設定、表示します。それぞれの項目ごとの数値とレベルの対応については、以下の表を参照してください。優先度とは RAID コントローラーが処理中のプロセスに対してバックグラウンドタスクの処理が占める割合を示したものです。

[WebBIOS の設定値と Universal RAID Utility の表示レベル]

項 目	WebBIOSの設定値	Universal RAID Utility 表示レベル
リビルド優先度	80～100	高(High)
	31～79	中(Middle)
	0～30	低(Low)
パトロールリード優先度	80～100	高(High)
	31～79	中(Middle)
	0～30	低(Low)
整合性チェック優先度	80～100	高(High)
	31～79	中(Middle)
	0～30	低(Low)

[Universal RAID Utility でレベル変更時に設定する値]

項 目	Universal RAID Utility 選択レベル	設定値
リビルド優先度	高(High)	90
	中(Middle)	50
	低(Low)	10
パトロールリード優先度	高(High)	90
	中(Middle)	50
	低(Low)	10
整合性チェック優先度	高(High)	90
	中(Middle)	50
	低(Low)	10



- WebBIOS では、バックグラウンドイニシャライズの優先度が設定できますが、Universal RAID Utility では設定できません。
- Universal RAID Utility は、初期化処理(Slow Initialize)の優先度が設定できますが、本製品では未サポートのため設定できません。

4. EXPRESSBUILDER の詳細

「EXPRESSBUILDER」を使うと本機の接続チェックなどができたりします。また、バンドルソフトウェア、説明書(電子マニュアル)についてもこのメディアで提供しています。

4.1 EXPRESSBUILDER の使い方

EXPRESSBUILDER は、次のようにして起動させます。



EXPRESSBUILDER を起動するときは、あらかじめ他のリムーバブルメディアを取り外しておいてください。

- (1) DVD を本機の光ディスクドライブにセットし、再起動します(電源の OFF→ON、または<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押します)。
「2 章(4.2 EXPRESSBUILDER のメニュー)」の(1)ブートメニューが起動します。
- (2) Windows が動作しているコンピューターへ DVD をセットします。
「2 章(4.2 EXPRESSBUILDER のメニュー)」の(4)オートランメニューが起動します。

4.2 EXPRESSBUILDER のメニュー

EXPRESSBUILDER は、画面上のメニューから操作します。

(1) ブートメニュー

DVD を起動すると、次のようなメニューが現れます。
キーボードの矢印キー(<↑>、<↓>)で項目を選択し、<Enter>キーで決定してください。
何もキー入力がないと、「*** default ***」の項目が選択されます。

Boot selection
OS installation *** default ***
Tool menu



- uEFI 環境では、「Tool menu」項目のみとなります。
- オンボード RAID コントローラー(LSI Embedded MegaRAID)をご使用のときに[OS installation]を選択すると、次のエラーメッセージが表示されますが問題ありません。
“RAID コンフィグレーション情報を取得できませんでした。”

[OS installation]を選択すると、(2)ホームメニューが現れます。

[Tool menu]を選択すると、(3)ツールメニューが起動します。

(2) ホームメニュー



ホームメニューでは、マウスまたはキーボードを使って操作します。

ホームメニューには、次のような項目があります。

a) セットアップ

RAID の構築ができます。OS インストールについては「インストレーションガイド(Windows 編)」を参照してください。

b) ユーティリティー

EXPRESSBUILDER に格納されているユーティリティーを起動します。

詳細は、「2 章(4.3 EXPRESSBUILDER が提供するユーティリティー)」を参照してください。

c) バージョン情報

格納しているドライバー、ソフトウェアのバージョンなどを表示します。

d) 終了

EXPRESSBUILDER を終了させるときは、この項目を選択してください。

(3) ツールメニュー

Tool menu
Test and diagnostics
Return to the previous menu

ツールメニューからは、本機の診断、接続チェックをする「システム診断」を起動できます。

詳細は、「1 章(8. システム診断)」を参照してください。

(4) オートランメニュー



オートランメニューからは、説明書を参照したり、バンドルソフトウェアをインストールしたりします。説明書は PDF 形式のため、あらかじめ Adobe Reader をインストールしてください。

「統合インストール」を使うと、Starter Pack や ESM PRO を簡単にインストールすることができます。この機能を使うときは、本機に対し Administrator 権限のあるアカウントでログインしてください。

4.3 EXPRESSBUILDER が提供するユーティリティ

「2 章(4.2 EXPRESSBUILDER のメニュー)」の(2)ホームメニューから[ユーティリティ]を選択すると、次のようなユーティリティが起動できます。

(1) RAID 設定のセーブ／ロード

RAID コントローラー上のコンフィグレーション情報をセーブ、またはロードします。

(2) ファイルの起動

リムーバブルメディアなどに記録されている外部ユーティリティを起動します。当社より、外部ユーティリティが提供されているときのみ利用してください。



当社が提供していない外部ユーティリティの起動は、その動作について保証しません。

5. ESMPRO

5.1 ESMPRO/ServerAgent(Windows 版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows 版)の注意事項、設定の詳細などについては、EXPRESSBUILDER 内の「ESMPRO/ServerAgent インストレーションガイド(Windows 編)」、または ESMPRO のオンラインヘルプを参照してください。

5.2 ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerManager は、本機のハードウェア、および RAID システムをリモートから管理・監視できます。これらの機能を使うには、本機へ ESMPRO/ServerAgent など、本機用バンドルソフトウェアをインストールしてください。

ESMPRO/ServerManager の動作環境、使用にあたっての注意事項、設定の詳細については、EXPRESSBUILDER 内の「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」、または ESMPRO のオンラインヘルプを参照してください。

6. Universal RAID Utility

Universal RAID Utility は、以下の RAID コントローラーを管理、監視するアプリケーションです。

- オンボードの RAID コントローラー(LSI Embedded MegaRAID)
- N8103-173 RAID コントローラー(512MB, RAID 0/15/6)
- N8103-174 RAID コントローラー(1GB, RAID 0/1/5/6)

Universal RAID Utility のインストールについては、「インストレーションガイド(Windows 編)」に記載の「2 章(1.3 Universal RAID Utility)」を参照してください。

Universal RAID Utility の操作方法と機能の詳細については、添付の EXPRESSBUILDER に収録している「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

6.1 イージーコンフィグレーション機能

Universal RAID Utility の「イージーコンフィグレーション」機能は、LSI Embedded MegaRAID では使えません。

6.2 RAID レベル 6 の論理ドライブの作成

Universal RAID Utility で、RAID レベル 6 の論理ドライブを作成するには、4 台以上の物理デバイスが必要です。
3 台の物理デバイスで RAID レベル 6 の論理ドライブを作成するには、WebBIOS をお使いください。

7. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)の注意事項、設定の詳細などについては、EXPRESSBUILDER 内の「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)インストールガイド」を参照してください。

8. エクスプレス通報サービス(MG)

エクスプレス通報サービス(MG)の注意事項、設定の詳細などについては、EXPRESSBUILDER 内の「エクスプレス通報サービス(MG)インストールガイド」を参照してください。

NEC Express5800 シリーズ Express5800/55Xa, Y55Xa

3

付 録

1. POST 中のエラーメッセージ

自己診断機能「POST」で検出するエラーメッセージの一覧です。

2. Windows イベントログ一覧

Windows イベントログの一覧です。

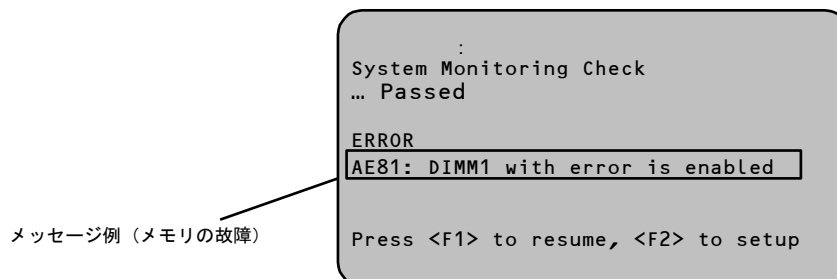
3. 保守サービス会社一覧

保守サービス会社の連絡先などを掲載しています。

4. 索 引

1. POST 中のエラーメッセージ

「POST」で何らかの異常を検出すると、ディスプレイにエラーメッセージを表示します。また、エラーの内容によっては、ビープ音でエラーが起きたことを通知します。



次に、エラーメッセージ、原因、およびその対処方法を説明します。



保守サービス会社に連絡するときは、ディスプレイの表示内容とビープ音のパターンをメモしておいてください。

(1) エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ		意 味	対処方法
8002	Check date and time settings	リアルタイムクロックの設定時刻の不正を検出した。	BIOS セットアップユーティリティ (SETUP) を起動して、時刻や日付を設定し直してください。再設定しても同じエラーが続けて検出されるときは、保守サービス会社に連絡してください。
8006	System configuration data cleared by Jumper	ジャンパーによって SETUP の設定がクリアされた。	本書の「1 章(7.リセットとクリア)」の手順に従ってください。
8007	Setup Menu Password cleared by Jumper	ジャンパーによって SETUP のパスワードがクリアされた。	本書の「1 章(7.リセットとクリア)」の手順に従ってください。
8801	DXE_NO_CON_IN	Console の初期化でエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
8802	DXE_NO_CON_OUT	Console の初期化でエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
8803	PEI_DXE_CORE_NOT_FOUND	Flash ROM が故障した。	保守サービス会社に連絡してください。
8804	PEI_DXEIPL_NOT_FOUND	Flash ROM が故障した。	保守サービス会社に連絡してください。
8805	DXE_ARCH_PROTOCOL_NOT_AVAILABLE	Flash ROM が故障した。	保守サービス会社に連絡してください。

エラーメッセージ		意 味	対処方法
8806	PEI_RESET_NOT_AVAILABLE	正しくリセットできなかった。	保守サービス会社に連絡してください。
8807	DXE_RESET_NOT_AVAILABLE	正しくリセットできなかった。	保守サービス会社に連絡してください。
8808	DXE_FLASH_UPDATE_FAILED	Flash ROM へ正しく書き込めなかった。	保守サービス会社に連絡してください。
9000	Unsupported CPU detected	未サポートの CPU を検出した。	保守サービス会社に連絡して本機がサポートしている CPU と交換してください。
9040	PEI_CPU_SELF_TEST_FAILED	CPU の初期化でエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
AE01	DIMM1 has been disabled	メモリエラーが起きて DIMM1 が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
AE02	DIMM2 has been disabled	メモリエラーが起きて DIMM2 が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
AE03	DIMM3 has been disabled	メモリエラーが起きて DIMM3 が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
AE04	DIMM4 has been disabled	メモリエラーが起きて DIMM4 が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
AE81	DIMM1 with error is enabled	DIMM1 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	保守サービス会社に連絡してください。
AE82	DIMM2 with error is enabled	DIMM2 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	保守サービス会社に連絡してください。
AE83	DIMM3 with error is enabled	DIMM3 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	保守サービス会社に連絡してください。
AE84	DIMM4 with error is enabled	DIMM4 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	保守サービス会社に連絡してください。
B000	Expansion ROM not initialized	オプション ROM の展開エリアがない。	OS 起動させないボードのオプション ROM 展開を無効にしてください。
B800	PCI BUS OUT OF RESOURCES	PCI デバイスのリソース設定で異常が起きた。または、PCI デバイスのためのリソースが足りない。	PCI スロットに接続された PCI デバイスを外し、本機を再起動してください。同じエラーが検出されるときは、保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。

エラーメッセージ		意 味	対処方法
BE00	Nothing readied ExpEther IOs!	ExpEther IO デバイスが接続状態になっていない。	ExpEther IO デバイスの接続、LAN ケーブルの接続を確認してください。
BE01	Some IOs are still powered off!	ExpEther IO デバイスの電源が Power ON 状態になっていない	ExpEther IO デバイスの電源状態を確認してください。
BE20	S,M,A,R,T, Status bad - SATA Port0	標準ハードディスクドライブの S,M,A,R,T,エラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
BE21	S,M,A,R,T, Status bad - SATA Port1	標準ハードディスクドライブの S,M,A,R,T,エラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
BE22	S,M,A,R,T, Status bad - SATA Port2	標準ハードディスクドライブの S,M,A,R,T,エラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
C000	The error occurred during fan sensor reading	ファンセンサーでリードエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
C001	FAN 1 Alarm occurred	CPU ファンの異常を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
C002	FAN 2 Alarm occurred	背面ファンの異常を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
C003	FAN 3 Alarm occurred	前面ファンの異常を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
C010	The error occurred during temperature sensor reading	温度センサーでリードエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
C011	System Temperature out of the range	温度異常を検出した。	いったん電源を OFF にして、各ファンの目詰まりをチェックしてください。ほこりが付着しているようであれば取り除いてください。異常が見当たらない場合や清掃しても直らない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
C020	The error occurred during voltage sensor reading	電圧センサーの読み出し中にエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
C021	System voltage out of the range	電圧の異常を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
C040	SR0M data read error	SR0M データの読み出し中にエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
C041	SR0M data checksum bad.	SR0M データのチェックサムが誤っている。	保守サービス会社に連絡してください。

(2) ビープ音によるエラー通知

POST でエラーを検出しても、ディスプレイにエラーメッセージが表示できないことがあります。このようなときは、ビープ音でエラーが発生したことを通知します。

例えば、ビープ音が 1 回、連続して 3 回、3 回、1 回の組み合わせで鳴った(ビープコード：1-3-3-1)ときは、メモリの容量チェック中にエラーが起きたことを意味します。

ビープコード、その意味、および対処方法は次の表のとおりです。

ビープコード	意 味	対処方法
1-3-3-1	メモリが検出できない。 メモリの容量チェック中のエラー。	DIMM の取り付け状態を確認してください。 それでも直らないときは、保守サービス会社に連絡して DIMM、またはマザーボードを交換してください。
1	POST でエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
3	BIOS の実行部分の読み込みができない。 または、BIOS の実行部分がない。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
4	BIOS の実行部分の初期化ができない。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
5	グラフィックスコントローラーが検出できない。	保守サービス会社に連絡してください。
7	システムがリセットできない。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
8	PCI デバイスのリソース設定で異常が起きた。	PCI スロットに接続された PCI デバイスを外し、本機を再起動してください。同じエラーが検出されるときは、保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。

2. Windows イベントローガー

OS			
■ ログ			
ID	ソース	種類	メッセージ（説明）
	タイミング		対応

Windows OS 共通			
■ システムログ			
7026	Service Control Manager	エラー	次のブート開始ドライバまたはシステム開始ドライバを読み込むことができませんでした : i8042prt
	OS 起動時		USB キーボード・マウスのみを接続した状態では、Windows 起動時に PS/2 キーボードが接続されていないことを検出し、本エラーイベントが記録される場合がありますが、問題はありません。

Windows 8

■ システムログ

4	HECI (x64 の場合は HECIx64)	警告	The Intel(R) Management Engine Interface is being disabled.
	Starter Pack 適用時		ID 4 が登録された後、以下のイベントログが登録されていれば問題ありません。 ログの名前 : System ソース : HECI (x64 の場合は HECIx64) イベントID : 2 レベル : 情報 説明 : Intel(R) Management Engine Interface driver has started successfully.
14	nvlddmkm	エラー	<p>ソース"nvlddmkm"からのイベント ID14 の説明が見つかりません。このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。</p> <p>イベントが別のコンピューターから発生している場合、イベントと共に表示情報を保存する必要があります。</p> <p>イベントには次の情報が含まれています:</p> <p>CMDre 00000000 00000080 00000000 00000005 00000005</p> <p>イベント XML:</p> <pre><Event xmlns="http://schemas.microsoft.com/win/2004/08/events/event"> <System> <Provider Name="nvlddmkm" /> <EventID Qualifiers="49322">14</EventID> <Level>2</Level> <Task>0</Task> <Keywords>0x8000000000000000</Keywords> <TimeCreated SystemTime="2013-03-22T02:13:33.573169300Z" /> <EventRecordID>157</EventRecordID> <Channel>System</Channel> <Computer>test</Computer> <Security /> </System> <EventData> <Data> </Data> <Data>CMDre 00000000 00000080 00000000 00000005 00000005</Data> <Binary>00000000020030000000000000E0AAC00000000000000000000000000</Binary> </EventData> </Event></pre>
	uEFI 環境時		継続して同じイベントログが登録されていない場合は、動作上問題ありません。
27	e1cexpress	警告	Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection ネットワーク リンクが切断されました。
	システム起動時、Starter Pack 適用時		システム起動時または Starter Pack 適用時に記録されたときは、システム動作上問題はありません。
27	e1iexpress	警告	Intel(R) xxxxx Gigabit Network Connection Network link is disconnected.
	OS インストール時、OS 初回起動時、Starter Pack 適用時		OS インストール時、OS 初回起動時または Starter Pack 適用中に登録される場合は、問題ありません。

Windows 8

■ システムログ

27	e1qexpress	警告	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection ネットワークリンクが切断されました。
	システム起動時、Starter Pack 適用時		システム起動時または Starter Pack 適用時に記録されたときは、システム動作上問題はありません。
27	e1rexpress	警告	Intel(R) Ethernet Server Adapter I340-T2 #xx ネットワークリンクが切断されました。
	システム起動時、Starter Pack 適用時		システム起動時または Starter Pack 適用時に記録されたときは、システム動作上問題はありません。
46	volmgr	エラー	クラッシュ ダンプを初期化できませんでした。
	OS インストール時		詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/2756313
129	Megasr1	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort0 にリセットが発行されました。
	整合性チェック中		システム運用上問題ありません。
129	megasas2	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort(x) にリセットが発行されました。 (以降省略)
	システム運用中		本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。
134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	'time.windows.com,0x9'での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15 分後に再試行し、それ以降は 2 倍の間隔で再試行します。エラー: そのようなホストは不明です。(0x80072AF9)
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
153	disk	警告	ディスクの論理ブロックアドレスで IO 操作が再試行されました。 ※環境により一部メッセージが異なる場合があります。
	Universal RAID Utility から論理ドライブを作成時		Universal RAID Utility から論理ドライブ作成時に記録されたときは、システム動作上問題はありません。
7023	Service Control Manager	エラー	Network List Service サービスは、次のエラーで終了しました: デバイスの準備ができていません。
	OS インストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログに登録されていなければ、問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	IP Helper サービスは、次のエラーで終了しました: 指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。
	OS インストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログに登録されていなければ、問題ありません。

Windows 8

■ システムログ

10010	Microsoft-Windows-DistributedCOM	エラー	サーバー{A47979D2-C419-11D9-A5B4-001185AD2B89}は、必要なタイムアウト期間内に DCOM に登録しませんでした。
	OS インストール時、システム運用時		詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/956479/ja

■ アプリケーションログ

63	Microsoft-Windows-WMI	警告	プロバイダーIntelMEProv は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root¥Intel_ME に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダーがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。
	Starter Pack 適用時		システム運用上問題ありません。
1008	Microsoft-Windows-Search	警告	Windows Search サービスが開始し、古い検索インデックスを削除しようとしています{理由:インデックスの完全リセット}。
	OS インストール時、システム運用時		このイベントログが頻繁に発生している状況でない限り、システムの運用上問題ありません。
1530	Microsoft-Windows-User Profiles Service	警告	レジストリファイルは他のアプリケーションまたはサービスで使用されています。ファイルはすぐにアンロードされます。レジストリファイルを保持しているアプリケーションまたはサービスはこれ以降正しく機能しない可能性があります
	Starter Pack 適用時		Windows のサインインが出来ないなどの影響がない限り、システム運用上問題ありません。
6005	Microsoft-Windows-Winlogon	警告	winlogon 通知サブスクリイパー<AUInstallAgent>による通知イベント(StartShell)の処理に長い時間がかかっています。
	OS インストール時、システム運用時		このイベントログが頻繁に発生している状況でない限り、システムの運用上問題ありません。
6006	Microsoft-Windows-Winlogon	警告	winlogon 通知サブスクリイパー<AUInstallAgent>で通知イベント(StartShell)の処理に 88 秒かかりました。
	OS インストール時、システム運用時		このイベントログが頻繁に発生している状況でない限り、システムの運用上問題ありません。
8198	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス認証(slui.exe)が失敗しました。エラーコード:hr=0x80070057
	OS インストール時、システム運用時		ライセンス認証後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/921471/ja

Windows 8

■ アプリケーションとサービス ログ

104	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	エラー	DSM サービスを開始できませんでした。結果=0x800706B5
	OS インストール時、システム運用時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
200	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update サービスへの接続を確立できませんでした。
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
201	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Metadata and Internet Services(WMIS)への接続を確立できませんでした。
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
202	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	ネットワーク リスト マネージャーは、インターネットに接続していないことをレポートしています。
	OS インストール時、システム運用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
1001	Microsoft-Windows-Dhcp-Client	エラー	ネットワークアドレスが<MAC アドレス>のネットワーク カードに対するアドレスをネットワーク(DHCPサーバー)からこのコンピュータに割り当てるできませんでした。 次のエラーが発生しました: 0x79。 ネットワーク アドレス(DHCP)サーバーから引き続き、アドレスの取得を試みます。
	OS インストール時、Starter Pack 適用時		継続して発生していなければシステム運用上問題ありません。

Windows 7

■ システムイベントログ

4	HECI (x64 の場合は HECIx64)	警告	The Intel(R) Management Engine Interface is being disabled.
	Starter Pack 適用時		<p>ID 4が登録された後、以下のイベントログが登録されていれば問題ありません。</p> <p>ログの名前 : System ソース : HECI (x64の場合は HECIx64) イベントID : 2 レベル : 情報 説明 : Intel(R) Management Engine Interface driver has started successfully.</p>
11	Disk	エラー	<p>ドライバは¥Device¥HarddiskX(※)¥DRX(※)でコントローラ エラーを検出しました。</p> <p>(※) X は数字が入りますが、ディスクの接続状況により異なります。</p>
	USB デバイス接続時		<p>イベントログの詳細→表示で以下の値が00となっている場合はシステム運用上、問題ありません。</p> <p><Word形式> 0000: 0068030E 00000001 00000000 C004000B 0008: 00000103 00000000 00000000 002D0800 0010: 00000000 00000000 000427B7 00000000 0018: FFFFFFFF 00000006 00000040 00000000 0020: 12060000 10000008 00000000 0000003C 0028: 00000000 86BAA280 00000000 86BDB008 0030: 00000000 00000000 00000000 00000000 0038: 00000000 00000000 00000000 00000000 0040: 00000000 00000000 00000000 00000000 0048: 00000000 00000000 00000000 00000000 0050: 00000000 00000000</p> <p><バイト形式> 0000: 0E 03 68 00 01 00 00 00 ..h..... 0008: 00 00 00 00 0B 00 04 C0A 0010: 03 01 00 00 00 00 00 00 0018: 00 00 00 00 00 08 2D 00-. 0020: 00 00 00 00 00 00 00 00 0028: B7 27 04 00 00 00 00 00 *'..... 0030: FF FF FF FF 06 00 00 00 YYY..... 0038: 40 00 00 00 00 00 00 00 @..... 0040: 00 00 06 12 08 00 00 10 0048: 00 00 00 00 3C 00 00 00<... 0050: 00 00 00 00 80 A2 BA 86 ¤ ¤? 0058: 00 00 00 00 08 B0 BD 86 ¤?? 0060: 00 00 00 00 00 00 00 00 0068: 00 00 00 00 00 00 00 00 0070: 00 00 00 00 00 00 00 00 0078: 00 00 00 00 00 00 00 00 0080: 00 00 00 00 00 00 00 00 0088: 00 00 00 00 00 00 00 00</p>
11	iANSMiniport	警告	次のアダプタリンクは接続されていません。: Intel(R)~
	運用中		チーミングの設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。
13	iANSMiniport	警告	Intel(R)~がチームで無効化されました。
	運用中		チーミングの設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。

Windows 7

■ システムイベントログ

16	iANSMiniport	警告	チーム#0: 最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。
	運用中		チームングの設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。
22	iANSMiniport	警告	プライマリアダプタは次のプローブを検出しませんでした。 Intel(R)~原因: チームが分割されている可能性があります。
	運用中		チームングの設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。
27	e1cexpress	警告	Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection ネットワークリンクが切断されました。
	システム起動時、Starter Pack 適用時		システム起動時または Starter Pack 適用時に記録されたときは、システム動作上問題はありません。
27	e1express	警告	Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Server Adapter #xx (Intel (R) PRO/1000 PT Server Adapter #xx) Link has been disconnected.
	システム起動時、Starter Pack 適用時		システム起動時または Starter Pack 適用時に記録されたときは、システム動作上問題はありません。
27	e1qexpress	警告	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection ネットワークリンクが切断されました。
	システム起動時、Starter Pack 適用時		システム起動時または Starter Pack 適用時に記録されたときは、システム動作上問題はありません。
129	Megasr1	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort0 にリセットが発行されました。
	整合性チェック中		システム運用上問題ありません。
129	megasas2	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort(x) にリセットが発行されました。 (以降省略)
	システム運用中		本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。
134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	" の DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。3473457 分後に再試行し、それ以降は2 倍の間隔で再試行します。エラー: 要求した名前は有効ですが、要求された種類のデータは見つかりませんでした。(0x80072AFC)
	OS インストール時		システム運用上問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	<サービス名>は、次のエラーで終了しました:<エラーコード>
	シャットダウン時		次回起動時に<サービス名>に記載されているサービスが開始されていればシステム運用上問題ありません。 [サービス開始確認方法] 1. [スタート] → [コンピュータ]を右クリック → [管理]を選択し [コンピュータの管理]を起動する。 2. 起動した[コンピュータの管理]画面の [サービスとアプリケーション] → [サービス]を選択する。 3. 本イベントログに登録されたサービス名の[状態]が[開始]となっていることを確認する。

Windows 7

■ アプリケーションイベントログ

1	LMS	警告	LMS lost connection to Intel(R) MEI driver
	Starter Pack 適用時		ID1が登録された後、以下のイベントログが登録されていれば、システム運用上問題ありません。 ログの名前 : Application ソース : LMS イベント ID : 0 レベル : 情報 説明 : LMS connected to Intel(R) MEI driver
1	MEI (x64 の場合は MEIx64)	警告	The Intel(R) Management Engine Interface is being reset.
	Starter Pack 適用時		ID1が登録された後、以下のイベントログが登録されていれば、システム運用上問題ありません。 ログの名前 : Application ソース : LMS イベント ID : 0 レベル : 情報 説明 : LMS connected to Intel(R) MEI driver
10	Microsoft-Windows-WMI	エラー	クエリ"SELECT*FROM__InstanceModificationEvent WITHIN 60 WHERE TargetInstance ISA "Win32_Processor" AND TargetInstance.LoadPercentage > 99"のイベントフィルターを名前空間"\\.\root\CIMV2"内で再度使用できませんでした。 原因はエラー0x80041003 です。問題が解決されなければ、このフィルターではイベント表示できません。
	OS インストール時、システム起動時		システム運用上問題ありません。詳細については次のマイクロソフト社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/950375/ja
63	Microsoft-Windows-WMI	警告	プロバイダIntelMEProvはLocalSystemアカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間root\Intel_MEに登録されました。 このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。
	OS インストール時、Starter Pack 適用時		システム運用上問題ありません。
219	Kernel-PnP	警告	デバイス ROOT*ISATAP*0000 のドライバ*Driver*tunnel を読み込めませんでした。
	OS インストール時、Starter Pack 適用時		詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/974720/ja
1008	Microsoft-Windows-Search	警告	Windows Search サービスが開始し、古い検索インデックスを削除しようとしています。【理由：インデックスの完全リセット】
	OS インストール時		システム運用上問題ありません。
1015	Microsoft-Windows-Security-SPP	警告	HRESULT の詳細情報。 返された hr = 0xC004F022、元の hr = 0x80049E00
	インストール時		ライセンス認証完了後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。

Windows 7

■ アプリケーションイベントログ

1530	Microsoft-Windows-User Profiles Service	警告	レジストリファイルは他のアプリケーションまたはサービスで使用されています。ファイルはすぐにアンロードされます。レジストリファイルを保持しているアプリケーションまたはサービスはこれ以降正しく機能しない可能性があります。
	OS インストール時		システム運用上問題ありません。
3036	Microsoft-Windows-Search	警告	コンテンツソース <csc:/{S-1-5-21-427618356-40787673-2158905816-1000}/> に ア ク セスできません。
	OS インストール時		一時的に記録されるのみであれば、システム運用上問題ありません。
8194	VSS	警告	ボリュームシャドウコピーサービスエラー:IVssWriterCallback インターフェイスを照会中に予期しないエラーが発生しました。 hr = 0x80070005,アクセスが拒否されました。
	OS インストール時		システム運用上問題ありません。

■ セキュリティログ

1108	Microsoft-Windows-Eventlog	エラー	Microsoft-Windows-Security-Auditing から発行された受信イベントの処理中に、イベントログサービスでエラーが発生しました。
	OS インストール時		Windows 7(32ビット版)でEXPRESSBUILDER を使ったセットアップでインストールしたときに登録されることがありますが、システム運用上問題はありません。

Windows 7

■ アプリケーションとサービスログ

Microsoft-Windows-PrintService/Admin			
512	Microsoft-Windows-PrintService	エラー	InitializePrintProvider はプロバイダーinetpp.dll で失敗しました。この現象は、システムが不安定な場合、またはシステムリソースが不足している場合に起こることがあります。
	OS インストール時、OS 初回起動時		OS インストール中または OS 初回起動時に登録される場合は、問題ありません。
Microsoft-Windows-Kernel-EventTracing/Admin			
2	Microsoft-Windows-Kernel-EventTracing	エラー	次のエラーのため、セッション""を開始できませんでした: 0xC000000D
	OS 初回起動時		システム運用上問題ありません。
3	Microsoft-Windows-Kernel-EventTracing	エラー	セッション"Microsoft-Windows-Setup"が次のエラーで停止しました: 0xC000000D
	OS 初回起動時		システム運用上問題ありません。
Microsoft-Windows-Dhcp-Client/Admin			
1001	Microsoft-Windows-Dhcp-Client	エラー	ネットワークアドレスが<MAC アドレス>のネットワークカードに対するアドレスをネットワーク (DHCP サーバー)からこのコンピュータに割り当てることができませんでした。次のエラーが発生しました: 0x79。ネットワークアドレス(DHCP)サーバーから引き続き、アドレスの取得を試みます。
	OS インストール時、OS 初回起動時、Starter Pack 適用時		OS インストール時、OS 初回起動時または Starter Pack 適用中に登録される場合は、問題ありません。

3. 保守サービス会社一覧

Express5800 シリーズ、および関連製品のアフターサービスは、お買い上げの弊社販売店、最寄りの弊社、または NEC フィールディング株式会社までお問い合わせください。以下 Web サイトにサービス拠点一覧を記載しております。

<http://www.fielding.co.jp/>

このほか、弊社販売店のサービス網がございます。お買い上げの販売店にお問い合わせください。

トラブル等についてのご連絡は、下記の電話番号へおかけください（電話番号のおかけ間違いにご注意ください）。なお、保守契約をされている装置のトラブルにつきましては、契約時にお知らせしております契約専用電話(年中無休 24 時間受付)へおかけください。

【IT 機器の修理窓口】

修理受付センター(全国共通) 0120-536-111 (フリーダイヤル)

携帯電話をご利用のお客様 0570-064-211 (通話料お客様負担)

(受付時間：AM9:00～PM5:00 土曜日、日曜日、祝祭日を除く)

4. 索 引

A

AC リンク … 81
 AMT DISABLE 設定
 ME BIOS Extension … 86
 AMT ENABLE 設定: … 90
 AMT 機能 … 81, 93, 94

B

BIOS … 28, 29, 31, 34, 35, 41, 43,
 44, 50, 82
 BIOS セットアップユーティリ
 ティー … 34, 35, 44, 52

C

CPU キャッシュメモリ … 46

D

DHCP … 96
 DIMM … 27, 28
 DNS … 96
 DNS Suffix … 98
 DNS サーバ … 96
 DUMP スイッチ … 26

E

ESMPRO/ServerAgent … 36, 120
 ESMPRO/ServerManager … 14,
 36, 121
 EXPRESSBUILDER … 14, 29, 30,
 31, 36, 42, 46, 117, 118, 119, 122,
 123, 124
 オートランメニュー … 119
 ツールメニュー … 118
 トップメニュー … 46, 118
 ブートメニュー … 117
 EXPRESSBUILDER DVD … 117
 ExpressUpdate … 14

F

Flash FDD … 31
 FQDN … 96, 97

I

Intel TXT … 75
 Intel Virtualization Technology for
 Direct I/O … 75
 IP アドレス … 96, 97

L

LAN コントローラー … 35, 63
 LSI Embedded MegaRAID … 33,
 99, 114, 122
 LSI Sftware RAID BIOS … 99
 LSI Software RAID Configuration
 Utility … 30, 31, 33, 99, 100, 103,
 108, 109, 110, 111, 113, 114

M

MAC アドレス … 82
 ME BIOS Extension … 81, 93
 INTEL(R) AMT CONFIGURATION
 メニュー … 94
 INTEL(R) ME General Settings メ
 ニュー … 93
 INTEL(R) ME NETWORK NAME
 SETTINGS サブメニュー … 96
 INTEL(R) REMOTE SETUP AND
 CONFIGURATION(RCFG)サブメ
 ニュー … 97
 INTEL(R) REMOTE SETUP AND
 CONFIGURATION(TLS PKI) …
 98
 INTEL(R) REMOTE SETUP AND
 CONFIGURATION(TLS PSK) …
 97
 ME BIOS Extension MAIN メ
 ニュー … 93
 NETWORK SETUP サブメ
 ニュー … 95
 POWER CONTOROL サブメ
 ニュー … 93
 Remote Setup And
 CONFIGURATION サブメ
 ニュー … 97
 Set PID and PPS サブメ
 ニュー … 97
 SOL/IDER/KVM サブメニュー …
 95
 TCP/IP SETTINGS サブメ
 ニュー … 96
 USER CONSENT サブメ
 ニュー … 95
 WIRED LAN IPV4
 CONFIGURATION サブメ
 ニュー … 96

O

OEM ドライバー … 42
 Off-line Maintenance Utility … 50

P

PCI デバイス … 28, 34
 PCI ボード … 28
 PID … 97
 PKI … 97
 POST … 28, 29, 31, 49, 52, 59, 67,
 81, 84, 99
 POST 中のエラーメッセージ …
 126
 POWER/SLEEP スイッチ … 27,
 43
 PPS … 97
 PSK … 97

R

RAID コントローラー … 30, 31,
 101, 113, 114, 115, 116
 RAID コンフィグレーションユーティ
 リティ … 30, 31, 99
 RAID レベル 6 … 122

S

SATA ケーブル … 37, 39
 SETUP … 28, 52
 Advanced Chipset Configuration サ
 ブメニュー … 65
 Advanced メニュー … 54
 Boot メニュー … 83
 Image Execution Policy サブメ
 ニュー … 77
 Key Management サブメ
 ニュー … 78
 Main メニュー … 53
 Memory Configuration サブメ
 ニュー … 59
 Memory Information サブメ
 ニュー … 60
 PCI Configuration サブメ
 ニュー … 61
 PCI Device Controller and Option
 ROM Settings サブメニュー …
 62
 PCI Link Speed Settings サブメ
 ニュー … 64

Processor Configuration サブメニュー … 55
Processor Information サブメニュー … 57
Processor Power Management サブメニュー … 58
SATA Configuration サブメニュー … 67
SATA Information サブメニュー … 68
Save & Exit メニュー … 85
Secure Boot menu サブメニュー … 76
Security メニュー … 71
Serial Port Configuration サブメニュー … 70
System Hardware メニュー … 80
System Management サブメニュー … 82
Trusted Computing サブメニュー … 73
USB Configuration サブメニュー … 69
Starter pack … 35
STOP エラー … 32

T

TPM 機能 … 75
Trusted Execution Technology … 75

U

Universal RAID Utility … 33, 113, 114, 115, 116, 122
UPS … 27, 81

W

WebBIOS … 115, 116, 122
Windows イベントログ … 130

あ

アクセスランプ … 37
アップデート … 14
アラート … 14
移動と保管 … 13
イベントログ … 20
インタフェースケーブル … 34
エクスプレス通報サービス(MG) … 19, 124
エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) … 19, 123

オーディオコントローラー … 63
オートリビルド … 33, 102
オフラインツール … 49

か

強制電源 OFF … 43
グラフィックスアクセラレータ … 27
グラフィックスアクセラレータボード … 27
クリーニング … 15
航空・海上輸送 … 12

構成情報 … 24
コンピューターネーム … 96
コンフィグレーション情報 … 103, 112, 119

さ

サブネットマスク … 96
システム BIOS … 52
システム診断 … 46, 118
システムの修復
Windows 7 … 42
Windows 8 … 41
ジャンパースイッチ … 44, 45
修理 … 17, 18
障害情報 … 18, 20
譲渡 … 11
情報サービス … 19
スリープ機能 … 35
整合性チェック … 102, 107, 111, 114, 116

た

代替 DNS サーバ … 96
ディスクアレイ … 113, 115
ディストレー … 37
デフォルトゲートウェイ … 96
電源ケーブル … 34, 37, 39
ドメインネーム … 96
トラブルシューティング
EXPRESSBUILDER 起動時 … 29
OS インストール時 … 30
OS 運用時 … 35
OS 起動時 … 31
RAID システム運用時 … 33
STOP エラー発生時 … 31, 32
Windows 上で EXPRESSBUILDER を動作させたとき … 36
電源 ON から POST 終了 … 27
内蔵デバイス、その他ハードウェア 使用時 … 34

バンドルソフトウェア … 36
光ディスクドライブ … 37
メディア(CD/DVD/BD)の書き込み … 39
メディア(CD/DVD/BD)の追記 … 40
メディア(CD/DVD/BD)の認識 … 37
メディア(CD/DVD/BD)の読み込み … 38

は

バーチャルドライブ … 101, 102, 103, 105, 106, 107, 111, 112
ハードディスクドライブ … 33, 34, 39, 41, 46, 102, 104, 105, 106, 108, 109, 110, 112
廃棄 … 12
パスワード … 71, 93
バックアップ … 15
パトロールリード … 116
バンドルソフトウェア … 117, 121
光ディスクドライブ … 29, 37, 38, 40
物理デバイス … 113, 115
物理ドライブ … 102
保守 … 14
補修用部品 … 18
保守サービス … 17
保守サービス会社 … 27, 31, 33, 140
保証 … 16
保証書 … 16, 17, 18
ホットスペア … 102, 109, 110

ま

マザーボード … 82
マニュアルリビルド … 108
メモリダンプ … 26

や

ユーザーサポート … 16
ユーザーモードプロセスダンプ … 25

ら

リセット … 43
リビルド … 33, 102, 108, 110, 114, 116
リモートパワーオン機能 … 43
論理ドライブ … 30, 33, 113, 115

NEC Express ワークステーション

Express5800/55Xa, Y55Xa

メンテナンスガイド

2013 年 6 月 初版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号

TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします

©NEC Corporation 2013

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

<本装置の利用目的について>

本製品は、高速処理が可能であるため、高性能コンピュータの平和的利用に関する日本政府の指導対象になっております。

ご使用に際しましては、下記の点につきご注意ください。よろしくお願いいたします。

1. 本製品は不法侵入、盗難等の危険がない場所に設置してください。
2. パスワード等により適切なアクセス管理をお願いいたします。
3. 大量破壊兵器およびミサイルの開発、ならびに製造等に関わる不正なアクセスが行われるおそれがある場合には、事前に弊社相談窓口までご連絡ください。
4. 不正使用が発覚した場合には、速やかに弊社相談窓口までご連絡ください。

弊社相談窓口 ファーストコンタクトセンター

電話番号 03-3455-5800

注 意

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

高調波適合品

この装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2適合品です。

：JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値（1相当りの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

回線への接続について

本体を公衆回線や専用線に接続する場合は、本体に直接接続せず、技術基準に適合し認定されたボードまたはモデム等の通信端末機器を介して使用してください。

電源の瞬時電圧低下対策について

この装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置（UPS）等を使用されることをお勧めします。

レーザー安全基準について

この装置にオプションで搭載される光学ドライブは、レーザーに関する安全基準（JIS C-6802、IEC 60825-1）クラス1に適合しています。

日本国外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。